

2021年度
講義要綱



学校法人湘央学園 浦添看護学校
看護学科(3年課程)

学科のカリキュラムの概要

科目名	教育内容の概要	必修 選択 の 別	履修年次別時間数			実務 教員	実務経験
			1	2	3		
論理的思考	論理的思考の形式と法則を学び、文章の読解を通じて論理的思考の基礎を養う。	必修	30				
人間工学	人間工学は、人間とそのまわりの環境をシステムとしてとらえ、これらの関係について解剖学、生理学、心理学などの領域から検討し、安全性、快適性、合理性を追求する学問である。本講義では人間を取り巻く生活環境、人間の動作の特徴を物理学的視点で学ぶ。自然環境である光・音・振動などの性質を理解することは、よりよい生活環境の調整につながる。又、光・音・振動などの性質は多くの医療機器に活用されている。その原理を理解することは、検査や治療上の注意事項と関連できるようになり、誤作動による医療事故の防止にもつながる。また、人体の運動力学を学び、効果的なケアにつながる。	必修	15			○	病院勤務経験
情報科学	看護「情報」と「コミュニケーション」の専門職である看護師にとって情報通信技術はその専門性を発揮するために必要不可欠なものである。看護師は患者の情報に安全に活用し、情報をもとに関わりを持つ仕事であるため、講義では情報とは何か看護に関連づけて学ぶ内容とする。また、看護の専門性を発揮するための看護研究に必要なデータ収集や統計的手法も学ぶ。	必修		30			
人間関係論	人間関係の意義を理解し、人間関係発展のためのコミュニケーション技術とカウンセリングの基本・技法を学ぶ。	必修	30			○	病院勤務経験
英語	専門的学習へ導くための科目と捉え、看護ケアの場面での英会話や、看護英語の文献の読解を学ぶ。	必修	45				
家族社会学	社会の構造や家族の形態・機能を学ぶ。患者や患者を取り巻く家族を理解し、家族を含めた看護を考える視点を学ぶ。	必修		30			
教育学	人間にとっての教育の意義を理解し、家庭・社会・学校における教育の特徴を学ぶ。 教育の原理・方法・評価方法、現代教育の諸問題を学び、健康教育や保健教育を具体的に提供する能力を養う。	必修	30				
発達心理学	看護の対象である人間の発達課題、心理・社会的危機について理解し看護実践における対象理解を学ぶ。	必修	30			○	保健所施設勤務経験
倫理学	人間とは何か、人間の存在、生命の尊重、人間らしい生き方などを考えることにより、ケアする側の倫理観を養い、自己および他者を尊重することの意味を学ぶ。医療にかかわる者としての生命尊重や職業に基づく行動の基礎を学ぶ。	必修	30				
生活科学	生活環境と健康の関連について学び、自分自身の生活を健康の視点から思考する意義について学ぶ。	必修	15			○	病院勤務経験
生活とスポーツ	心と体のバランスは健康を考える上で重要である。運動は、心のバランスを保つ上でも必要である。また、運動による筋力アップは、転倒予防、生活習慣病の予防にもつながる。生活の中でとりいれられる運動を実践することは、自らの健康維持にも役立ち、看護を実践する上での指標となる。生活の中での運動に焦点を当て、学習する。	必修	30				
文化人類学	さまざまな民族の文化や社会を知ることによって、自らの文化や社会、さらに人間について学ぶ。異文化理解の枠組み、制度化された人間関係、儀礼や信仰のありようを学ぶ。	必修		30			
形態と機能Ⅰ	疾病治療学との関連で、基本的な解剖学的用語や身体構成を学び、人体を全体的に捉える内容を含めた。環境との調節を図りながら生活をするヒトの恒常性維持に関連する形態と機能として体液の分類・分布・量・電解質と捉える。恒常性を維持するための物質の流通に関連する形態と機能として、流通の媒体を血液、流通路（循環器）として血管・リンパ管、流通の原動力として心臓と捉え、流通路（循環器）や息をする（呼吸器）に関する形態と機能を理解する内容を学ぶ。	必修	30			○	病院勤務経験
形態と機能Ⅱ	「形態と機能Ⅱ」では、ヒトの生活行動に焦点をあてた形態と機能のうち「食べる」「トイレに行く＝排泄」の2つの生活行動の内容を学ぶ内容とした。また、恒常性維持のための調節機構に関連する形態と機能として、神経性調節：受容器、中枢神経、末梢神経、液性調節：ホルモンとして捉える。そのうち、液性調節：ホルモンの形態と機能を学ぶ内容とした。	必修	30			○	病院勤務経験
形態と機能Ⅲ	「形態と機能Ⅲ」では、恒常性維持のための調節機構に関連する形態と機能として、神経性調節：受容器、中枢神経、末梢神経を学ぶ内容とした。また、ヒトの生活行動に焦点をあてた「動く」やヒトとしての社会生活を営むうえで欠かせない感覚：「話す・聞く・見る」、「お風呂に入る＝皮膚」の形態と機能を学ぶ内容とした。「子供を生む＝生殖」という生活行動に関する形態と機能に人体の発生をあわせて学ぶ内容とした。	必修	30			○	病院勤務経験

生化学・栄養学	人体を構成する化学物質の性状、その分布および代謝を理解する。また、健康と食生活の関わりについて理解し、栄養学の基礎を学ぶ。	必修	30			○	病院勤務経験
微生物学	微生物学を学ぶことにより、微生物がどこにいて、どのようにしてヒトに感染し病気を起こすのか、それを治療し予防するにはどうしたらよいかなどを学ぶ。	必修	30			○	研究所勤務経験
病理学	病理学は、病気の原因を追究し、病気になった患者の身体に生じている変化がどのようなものであるかを学ぶ。患者の病気の診断・検査及び病気の予防について学ぶ。 病理学を知ることは、日常行っている看護活動の根拠となりうる。また、疾病の発生傾向や発生要因などについても理解することは、予防的視点から看護に取り組むことにつながる。	必修	30			○	病院勤務経験
薬理学	薬の基本的性質を理解し、患者に使われている薬物についての副作用を理解する。また、患者の病気の回復促進につながる援助の根拠を学ぶ。	必修	30			○	病院勤務経験
疾病治療学Ⅰ	放射線療法、麻酔、ペインコントロール、外科的治療の基礎、臨床検査について学び、看護援助の基礎知識とする。	必修	30			○	病院勤務経験
疾病治療学Ⅱ	さまざまな臨床的分野での代表的な疾病の診断・治療など、看護をおこなう上で不可欠な基礎的な知識について学び、健康障害を抱える対象の看護の展開に有機的に結びつけられるよう学ぶ。	必修	30			○	病院勤務経験
疾病治療学Ⅲ	さまざまな臨床的分野での代表的な疾病の診断・治療など、看護をおこなう上で不可欠な基礎的な知識について学び、健康障害を抱える対象の看護の展開に有機的に結びつけられるよう学ぶ。	必修	30			○	病院勤務経験
疾病治療学Ⅳ	さまざまな臨床的分野での代表的な疾病の診断・治療など、看護を行う上で不可欠な基礎的な知識について学び、健康障害を抱える対象の看護の展開に有機的に結びつけられるよう学ぶ。	必修		15		○	病院勤務経験
疾病治療学Ⅴ	さまざまな臨床的分野での代表的な疾病の診断・治療など、看護をおこなう上で不可欠な基礎的な知識について学び、健康障害を抱える対象の看護の展開に有機的に結びつけられるよう学ぶ。	必修		30		○	病院勤務経験
疾病治療学Ⅵ	小児に特有な疾病の診断・治療など、看護をおこなう上で不可欠な基礎的な知識について学び、小児の成長発達段階を踏まえ、健康障害を抱える対象の看護の展開に有機的に結びつけられるような内容とした。	必修		15		○	病院勤務経験
疾病治療学Ⅶ	母性看護学の対象である女性の特徴を捉え、内分泌環境変化の時期である女性の健康障害と検査、治療について学ぶ。	必修		15		○	病院勤務経験
疾病治療学Ⅷ	主な精神疾患の精神症状の現れ方の特徴と疾病の原因、診断、治療など、看護をおこなう上で不可欠な基礎的な知識について学び、健康障害を抱える対象の看護の展開に有機的に結びつけられるよう学ぶ。	必修		15		○	病院勤務経験
健康科学	時代の変化に応じて健康の概念や人々の健康に対する捉え方が変化している。ヘルスプロモーションの概念を取り入れた健康教育が重要な位置を占めている。そこで現在の健康教育のあり方やその考えを学ぶ。	必修		30		○	研究所勤務経験
保健医療論	医療のあり方が大きく変貌しつつある今日、医療の変遷を知らずにこの変貌した時代や看護の目指す目標を明確にすることは難しい。医療の変遷を知り、現在の保健医療システム・サービスの現状と課題について学ぶ。	必修			15	○	病院勤務経験
公衆衛生学	公衆衛生の目的は、生活者のさまざまな健康について学び、健康で活力ある福祉社会を作り上げることにある。公衆衛生の活動において、個々の疾病予防に対する自然環境へのアプローチとともに社会や経済、文化・風俗、習慣など人間の行動や生活習慣に着目する社会的環境へのアプローチを学ぶ。	必修		15		○	病院勤務経験
社会福祉	国民の最低限生活を保障する社会保障制度、社会的な保護を要する者への支援を行う社会福祉制度がある。社会保障、社会福祉制度は、高齢化の急速な進行と年金制度の成熟化、介護保険制度の創設などにより、誰もが必ずかわりをもつ普遍的な制度として意識されるようになった。生活者の健康を保障する社会の制度を理解し、看護を提供する上で社会資源を活用する能力の基礎知識を学ぶ。	必修		45		○	病院勤務経験
看護と法律	医療に関連する法の基礎知識、看護職に必要な法規を学び、専門職業人として法的責任を自覚した行動が取れるための基礎知識を学ぶ。	必修			15	○	病院勤務経験
基礎看護学概論Ⅰ	看護学概論は、すべての看護学の基礎となる科目である。看護は対象である「人間」の「健康」に携わる職業である。専門職業人として「看護とは何か」を考え看護提供システムの視点や、人として対象に向き合うことに伴う役割や倫理などを学ぶ内容とした。	必修	30			○	病院勤務経験
基礎看護学概論Ⅱ	先人の看護理論についての変遷や理論の特徴について学ぶ。また、これから学習を進めるヘンダーソンの看護に対する考え方を著書の「看護の基本となるもの」の討議をしながら学び、現時点での自らの看護観をまとめる。 看護研究の基礎的な知識である研究の意義や方法、倫理的配慮の必要性について学び、統合分野の単元「看護実践と理論」でまとめる事例研究につなげる内容とする。	必修	30			○	病院勤務経験
基礎看護学方法論Ⅰ	すべての看護の基盤となる技術を学ぶ科目とした。看護技術は、対象の生命の尊厳・人権を守り、対象にとって安全・安楽な技術を提供することが求められる。看護援助の基本となる技術の考え方や基本原則・安楽で効果的な動き・医療事故防止のための医療安全と対象の療養環境整備の技術を学ぶ。 また、看護の提供場面において、人間関係成立・発展のための技術であるコミュニケーション技術の基礎知識を学ぶ。	必修	30			○	病院勤務経験

基礎看護学方法論Ⅱ	看護職者が独自の判断を必要とする場面が増え、看護の役割は対象の身体状況全体を客観的、系統的に観察する能力が求められている。対象の健康上の問題を生活の視点で捉える必要性を理解し、観察のための具体的方法の基礎知識を学ぶ。看護師の「目」「手」「耳」を使って診察の技法を活用してみる。また、身体の状態をとらえるのに最も基本的で、かつ最も重要なバイタルサインを学ぶ。身体各部の計測の意義を理解し、正しい測定方法について学ぶ。	必修	30			○	病院勤務経験
基礎看護学方法論Ⅲ	対象の日常生活行動に対する理解を深め、健康課題を有する対象の日常生活を整えるために必要な援助技術を科学的根拠に基づいて学ぶ。	必修	30			○	病院勤務経験
基礎看護学方法論Ⅳ	健康課題を有する対象の日常生活を整えるために必要な援助技術を科学的根拠に基づいて学ぶ。人間にとっての清潔の意義を理解し、身体各部の清潔の援助方法と衣生活を整える援助について学ぶ。また、対象の健康状態に焦点をあてた看護の方法を学ぶ。さらに、感染予防策として滅菌物の取扱いについての基礎知識・技術を学ぶ。	必修	30			○	病院勤務経験
基礎看護学方法論Ⅴ	臨床の場で活用する頻度が高く、健康課題を有する対象に共通している検査や、治療・処置時の援助技術である薬物療法、輸血療法に伴う基礎的技術を安全・安楽かつ的確に実施できるよう学ぶ。	必修	30			○	病院勤務経験
基礎看護学方法論Ⅵ	呼吸を整えるための酸素療法や吸入療法及び吸引療法、救命救急処置、創傷処置、苦痛緩和への援助に伴う基礎的技術を安全・安楽かつ的確に実施できるよう学ぶ。	必修	30			○	病院勤務経験
基礎看護学方法論Ⅶ	看護実践とは看護を必要とする対象の看護問題やその原因を明らかにし、それに対して看護師がどのような援助を行っていきけるかを具体的目標とともに表明したうえで、その目標や援助の計画にそって看護技術を駆使し実践を行い、評価し、さらに次の実践へとつなげていく螺旋階段のような営みである。看護過程は、看護実践の進め方の手順や考え方である。看護過程の流れは問題解決過程であり、看護を科学的に行うための方法でもある。看護過程の方法を学ぶ内容とした。	必修	30			○	病院勤務経験
基礎看護学方法論Ⅷ	既習のフィジカルアセスメントに必要な診察技法を用いて、各身体機能別のフィジカルアセスメントの方法を学ぶ。また、疾病治療学で学んだ知識と関連させてアセスメントの方法を学ぶ。また、フィジカルアセスメントを用いて対象の全身状態を理解し、対象の状況に合わせて必要な援助技術を選択し、基礎的な看護技術の演習を通して学ぶ。	必修		30		○	病院勤務経験
成人看護学概論	成人期にある対象を生活者、成長・発達およびさまざまな健康状態の側面から理解する。成人期において発達課題を達成しつつある対象を身体的・精神的・社会的側面からとらえ、成人の特性を学ぶ。さらに成人の生活と健康の動向を学び、成人期における健康の保持・増進及び疾病の予防の重要性を理解し、さらに健康日本21などの健康戦略を学習し、成人期における健康を保つシステムを理解する。成人期にある対象を健康生活の急激な破綻から回復を促す看護、健康生活の慢性的な揺らぎの再調整を促す看護、障害をもちながらの生活とリハビリテーションを支える看護、人生の最期のときを支える看護を必要とする対象の看護の特徴を学ぶ。また、成人は自立した存在であることから、セルフケア能力を向上させるかわかりと成人への基本的アプローチと看護に必要な概念を学び、倫理的配慮と看護者の役割について考える。看護実践の最も重要な基盤となる、人間関係を発展させるプロセスを学ぶ。	必修	30			○	病院勤務経験
成人看護学方法論Ⅰ	健康の急激な破綻から回復の状態にある対象と看護者の人間関係発展過程を紙上事例で理解し、救急救命時、周手術期その状況に応じた看護の特徴、術後合併症予防に必要な周手術期の看護技術を学ぶ。さらに、侵襲的治療の代表的な化学療法、放射線療法を受ける対象の特徴と看護、緩和ケアについて学ぶ。	必修	30			○	病院勤務経験
成人看護学方法論Ⅱ	ライフサイクルにおける成人期の特徴を踏まえ、生命と生活を維持している呼吸・循環機能に障害をもつ対象について理解し、看護の役割と援助方法について学ぶ。また、呼吸循環管理に必要な看護技術を学ぶ。	必修	30			○	病院勤務経験
成人看護学方法論Ⅲ	ライフサイクルにおける成人期の特徴を踏まえ、疾病コントロールを必要とする対象のセルフケア行動形成への支援について理解すると共に、生命と生活を維持している機能に障害をもつ対象の特徴を理解し、機能障害に応じた看護の役割と援助方法について学ぶ。成人看護学の特徴的な看護技術を学ぶ。	必修		30		○	病院勤務経験
成人看護学方法論Ⅳ	ライフサイクルにおける成人期の特徴を踏まえ、生活行動制限のある対象のセルフケア再獲得に向け、ボディイメージの変化や障害をもちながら生活する対象の特徴を知り、必要な援助方法と看護の役割について学ぶ。さらに、生命と生活を維持している機能に障害をもつ対象の特徴を理解し、機能障害に応じた看護の役割と援助方法について学ぶ。	必修		30		○	病院勤務経験
成人看護学方法論Ⅴ	成人の健康の状態に応じた看護の特徴を踏まえ、健康生活の急激な破綻から回復にある対象、慢性的な揺らぎの再調整を必要とする対象、人生の最期のときを過ごしている対象の事例を通し看護過程の展開の方法を学ぶ。	必修		30		○	病院勤務経験
老年看護学概論	老年期の発達段階の特徴と高齢者を取り巻く環境について学び、加齢に伴う身体的・精神的・社会的側面から高齢者への理解を深める。また、高齢者を支援し、社会資源について学び、老年看護の目的や役割について理解する。	必修	30			○	病院勤務経験
老年看護学方法論Ⅰ	加齢による変化や、高齢者に特徴的な疾患や症状が、生活に及ぼす影響を捉え、QOLの維持・向上へ向けた援助について学ぶ。	必修		45		○	病院勤務経験

老年看護学方法論Ⅱ	認知機能の障害に対する看護について学び、対象とその家族への支援を通して高齢者の尊厳について理解を深める。また、看護過程・アクティビティケアなどの演習を通して実践へ向けた援助方法を学ぶ。	必修	30		○	病院勤務経験
小児看護学概論	小児看護の対象である子どものとらえ方や、さまざまな統計資料から現代家族の特徴について学び、小児看護において子どもと家族は、ひとつの援助対象であることを学ぶ。また、子どもの権利を尊重し、子どもと家族の最善の利益を守るための小児看護における倫理について学ぶ。 子どもの特性の理解として、成長・発達原則、発達理論、形態的・機能的成長・発達、心理社会的発達、小児の栄養、発育・発達の評価について学び、成長・発達に対する理解を深める。子どもを取り巻く家族あるいは社会環境を含めた広い視野で対象を理解するために、小児の出生・死亡・疾病構造の変化と関連づけながら、子どもの健康を守るためにはどのような法律や施策があるのかを学ぶ。子ども親および小児看護の歴史を振り返り、小児保健医療の動向や今後の課題について考える。最後に、各発達段階の特徴を踏まえ、発達段階における健康課題について、演習や発表を通して共通理解する。	必修	30		○	病院勤務経験
小児看護学方法論Ⅰ	「子どもの健康の保持・増進、疾病予防のための看護」では、小児各期の発達段階に応じた日常生活や、子どもの成長・発達を促す援助・家族への援助について学ぶ。 「健康状態の急激な破綻から回復の促進の看護」「健康状態の慢性的な揺らぎの再調整を必要とする状態の看護」「障がいのある状態とリハビリテーションを行う状態の看護」「人生の最期のときの看護」では、子どもの様々な健康状態における看護の特徴を学び、それぞれの健康状態に特有な健康障害や入院が子どもの成長・発達に与える影響と子どもの反応、子どもと家族の生活に及ぼす影響について理解を深める。また、疾病治療学Ⅵの学習をふまえ、各健康状態に関連した頻度の高い疾患や、直面上しやすい健康上の課題について学ぶ。さらに健康回復のための援助について学び、小児看護の知識を深める。	必修	45		○	病院勤務経験
小児看護学方法論Ⅱ	小児看護学方法論Ⅰでは、小児看護学概論・方法論Ⅰで学んだ知識を踏まえ、小児看護に必要な看護技術について学ぶ。小児技術の中でも、特に実践の頻度が多く、留意を要する技術項目を精選した。小児の看護技術を実践する際には、子どもに対し、一人の人間として尊重する姿勢を大切にしながら、発達段階に応じた援助技術の選択や、子どもの反応や状況に合わせて対応していく必要がある。現在の小児医療の現場では、プレパレーションは、特別な行為ではなく、日常的に行われるべき倫理的な作業の一つであり小児看護において学ぶ意義は大きい。実際の場面でこれらを展開できるよう、演習を取り入れながら小児看護に必要な看護技術を習得する。また、学んだ知識を統合し、応用する能力を養うために看護過程を展開し学習する。	必修	30		○	病院勤務経験
母性看護学概論	母性看護の対象であるすべての女性を内分泌的な変化から見た発達段階にわけて身体的・心理的・社会的な側面から理解する内容とした。また、近年の母性看護をめぐる社会的な変化を広く捉え、母性看護の機能と役割を理解する内容とした。	必修	45		○	病院勤務経験
母性看護学方法論Ⅰ	さまざまな健康状態にある母性看護の対象：妊婦・産婦・褥婦および新生児の特徴を踏まえて援助方法を理解する内容とした。	必修	30		○	病院勤務経験
母性看護学方法論Ⅱ	母性看護を展開するために必要な看護過程の展開方法やヘルスアセスメントに必要な技術や対象との援助関係形成のための技術や援助技術を理解し習得する内容とした。	必修	30		○	病院勤務経験
精神看護学概論	本科目では、精神看護の基盤的な概念となる心について学ぶ。精神看護学では、すべての人々の心の健康について考え対象理解を深める。また、家庭や学校、職場における人間関係の中で心は影響し合っていることを学習する。さらに、心の健康の維持とライフサイクルにおける心の健康と発達について学び、現代社会の社会病理からみた心のあり方と精神看護学の位置付けを学ぶ。精神保健福祉の歴史的な変遷から、今日の制度の成り立ちまでを学び、入院中の患者の処遇及び精神保健福祉法と関連付けて学習する。また、精神看護に用いる看護理論を学ぶことで、知識や技術と態度を養う。	必修	30		○	病院勤務経験
精神看護学方法論Ⅰ	本科目では、精神科の診療に伴う診察や検査時の看護の基本的な援助について学ぶ。また、幻覚妄想や不安などの精神症状に対する看護について学び、精神障害者の抱える「生活のしづらさ」を改善するための生活技能訓練と、社会療法および薬物療法について学習する。 精神科リハビリテーションについて学び、精神障害者がその人らしく地域や病院で自立的に生活できる援助方法を学ぶ。発達段階別の危機と災害時などの特殊な場面における心の働きを学ぶことで、対象の理解を深めていく。精神科看護におけるリスクマネジメントについて考え、対象にとつての安全について学ぶ。	必修	30		○	病院勤務経験
精神看護学方法論Ⅱ	本科目では、事例を通して精神に障害をもつ対象を統合的（身体的・精神的・社会的側面）に理解し、健康な側面に注目しながら看護実践に必要な看護過程の展開（援助方法）を理解する。精神障害者の理解と看護を実践するために、必要な人間関係形成の方法援助を発展させるためにプロセスレコードを用いて自己洞察、自己理解、患者と看護師の相互作用について学ぶ内容とする。また、精神障害者を理解する上で必要な、統合失調症をはじめとする精神疾患をもつ患者の看護について学び、精神障がい者がその人らしく生活できる援助方法を学習する。	必修	45		○	病院勤務経験

在宅看護論概論	在宅で療養しながら生活している対象とその家族を理解し、その人らしい生活や自立を支えていく必要性を学ぶ内容とした。 在宅看護の特徴と対象の特性を理解し、家族を含めた支援を展開できる視点を深めていく。また、療養者と家族を支えていくために必要な社会資源について学ぶ。	必修		30		○	病院勤務経験
在宅看護論方法論Ⅰ	在宅看護の中心となる訪問看護では、訪問者としての一般常識やマネー人間関係形成のためのコミュニケーション力が必要となる。また、療養者・家族の思いや自立性を大切に療養者・家族に合った援助方法が求められる。そこで、人間関係づくりをふまえて、在宅におけるリスクマネジメントを含めた看護技術、また関係職種との連携方法について学び、地域の中で療養者・家族を支え続けていくための援助について学習する。	必修		30		○	病院勤務経験
在宅看護論方法論Ⅱ	在宅看護の対象となる療養者の抱えている疾患は多岐にわたり、複数の疾患や障害を持っていることも多い。それに伴い在宅でも多くの医療処置が実施されるようになった。ここでは、様々な療養環境の中で生活している療養者・家族を支えていくための技術や制度について学び、療養者・家族の思いを大切にしながら地域の中で支え続けていくための看護過程の展開方法について学習する。	必修		45		○	病院勤務経験
医療安全	基礎看護学方法論Ⅰの安全を守る、感染予防を推進する技術の学びをふまえて、医療安全を学ぶ意義、医療安全管理体制の基礎的考えを理解し看護職として求められる技術を理解する。現場で起きている事故の特性と防止策などを学ぶ。さらに、対象と場の特徴から危険因子を査定し、危険を予測し、批判的に思考することや、優先度を考えて実践することの重要性を学ぶ。また、療養環境は、医療従事者にとってリスクの高い場所であることを認識し、適切な感染管理体制と感染予防対策の基本を学習する。	必修		30		○	病院勤務経験
国際看護と災害看護	国際社会において看護師として諸外国との協力のあり方を学習する。県下において国際活動を行っている施設や国際活動に携わる人々を通して国際協力の現状を理解し、今後の活動の動機付けになる内容とした。又、我が国の災害対策、災害救助活動を学び、災害時の看護の特徴と基本的な援助について理解する。これらの学習を通して、看護に対する広い視野と課題について考え、専門性の意識を高める。	必修		30		○	病院勤務経験
看護管理と事例研究	看護におけるマネジメントの意義を理解し、マネジメントを「ケアマネジメント」「看護サービスのマネジメント」の2つの概念から捉える。「ケアマネジメント」とは対象者に提供されるケアを調整・統制する視点から学び、「看護サービスのマネジメント」とは、看護職が提供するサービス全体を組織として捉え、調整・統制するマネジメントのプロセスと機能について学ぶ。又、看護マネジメントに必要な基礎的知識、技術を学ぶ内容とした。 事例研究では、基礎看護学概論Ⅱで学んだ研究の基礎をふまえて、自己の看護実践を振り返り（3年次の臨地実習）、理論と統合させながら事例研究をまとめる内容とした。	必修		30		○	病院勤務経験
看護技術の統合演習	卒業時の看護技術の到達は患者の状態、その場に応じた状況判断ができることが重要である。統合実習の前段階として、臨床に近い状況での看護技術の実際を学習する。複数患者への対応、患者、チームメンバー等の他者との調整、割り込み状況への対処を含めた看護技術を学ぶ。	必修		30		○	病院勤務経験
小	計		975	855	150		

基礎看護学実習Ⅰ	医療施設における看護援助場面の見学を通して、看護の機能と役割を理解するとともに、看護師としての基本姿勢の基盤をつくる。	必修	45			○	病院勤務経験
基礎看護学実習Ⅱ	看護過程を活用し、対象の基本的欲求を理解して生活上の援助を行なうことで、看護の基礎的能力を養う。	必修	90			○	病院勤務経験
成人看護学実習Ⅰ	健康生活の慢性的な揺らぎの再調整を必要とする対象を理解し、セルフマネジメントを支援する看護が実践できる。	必修		90		○	病院勤務経験
成人看護学実習Ⅱ	健康生活の急激な破綻から回復にある対象を理解し、機能回復および社会復帰に向けての看護が実践できる能力を養う。	必修			90	○	病院勤務経験
成人看護学実習Ⅲ	成人期にある対象の特徴を捉え、成人のさまざまな健康状態に応じた看護が実践できる能力を養う。	必修			90	○	病院勤務経験
老年看護学実習Ⅰ	老年期の特性を踏まえ、高齢者の生活機能障害および生活上の課題を理解し、日常生活適応への看護を習得する	必修		90		○	病院勤務経験
老年看護学実習Ⅱ	健康上の課題のある高齢者を理解し、看護を実践する基礎的能力と高齢者を尊重する態度を養う。	必修			90	○	病院勤務経験
小児看護学実習	成長・発達過程にある子どもを全人的にとらえ、さまざまな健康状態にある子どもと家族の健康の保持・増進・回復に向けて、看護を実践するために必要な基礎的能力を養う。	必修			90	○	病院勤務経験
母性看護学実習	母子保健活動の実際から、保健医療福祉チームの一員としての役割を理解し、母性看護の対象に応じた看護の基礎的能力を養う。	必修			90	○	病院勤務経験
精神看護学実習	精神科看護の実際から、保健医療福祉チームの一員としての役割を理解し、精神看護の対象に応じた看護の基礎的能力を養う。	必修			90	○	病院勤務経験
在宅看護論実習	地域で生活している療養者とその家族を理解し、看護の実際を経験することにより、その人らしい生活や自立を援助するための基礎的能力を養う。	必修			90	○	病院勤務経験
統合実習	病院における看護管理の実際を知るとともに、チームの一員として既習した知識と技術を統合し看護を実践できる基礎的能力を養う。	必修			90	○	病院勤務経験
小 計			135	180	720		
			1110	1035	870		

目 次

1 教育方針

建学の理念・教育理念・教育目的・教育目標	1
看護の主要概念	2

2 教育課程の考え方

期待する卒業生像	3
教育課程の構造図	4
カリキュラムデザイン	5
各分野の教育内容の考え方	6
教育課程進捗表（3年課程）	15
教科外活動	16

3 教育内容

基礎分野

科学的思考の基盤	17
人間と社会・生活の理解	22

専門基礎分野

人体の構造と機能	39
疾病の成り立ちと回復の促進	50
健康支援と社会保障制度	80

専門分野 I

基礎看護学	91
-------	----

専門分野 II

成人看護学	117
老年看護学	138
小児看護学	147
母性看護学	155
精神看護学	162

統合分野

在宅看護論	171
看護の統合と実践	179

教 育 方 針

建学の精神

「生命を尊重する、人間性豊かな専門職業人の育成」

教育理念

「愛・智・技」

「愛」とは、思いやり、優しさ、気配りといった、人間として生まれつき備えている性質。

「智」とは、豊富な知識に留まることのない人間のもつ優れた知恵。

「技」とは、理論に裏付けされた質の高い技術。

看護師として必要な専門的知識・技術・態度を修得し、自己教育力を高めながら、社会に貢献できる人材の育成を目指している。

教育目的

看護師として必要な知識・技術・態度を培い、社会に貢献しうる有能な人材を育成する。

教育目標

- 1 生命の尊厳と高い倫理観に基づいた豊かな人間性を養う。
- 2 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解する能力を養う。
- 3 対象の健康上の課題に対応するために、科学的根拠に基づいた看護を実践できる基礎的能力を養う。
- 4 保健医療福祉における看護師の役割を認識し、チームの一員として他職種と協働できる能力を養う。
- 5 看護への探求心を持ち専門職業人として学習し続ける能力を養う。

看護の主要概念

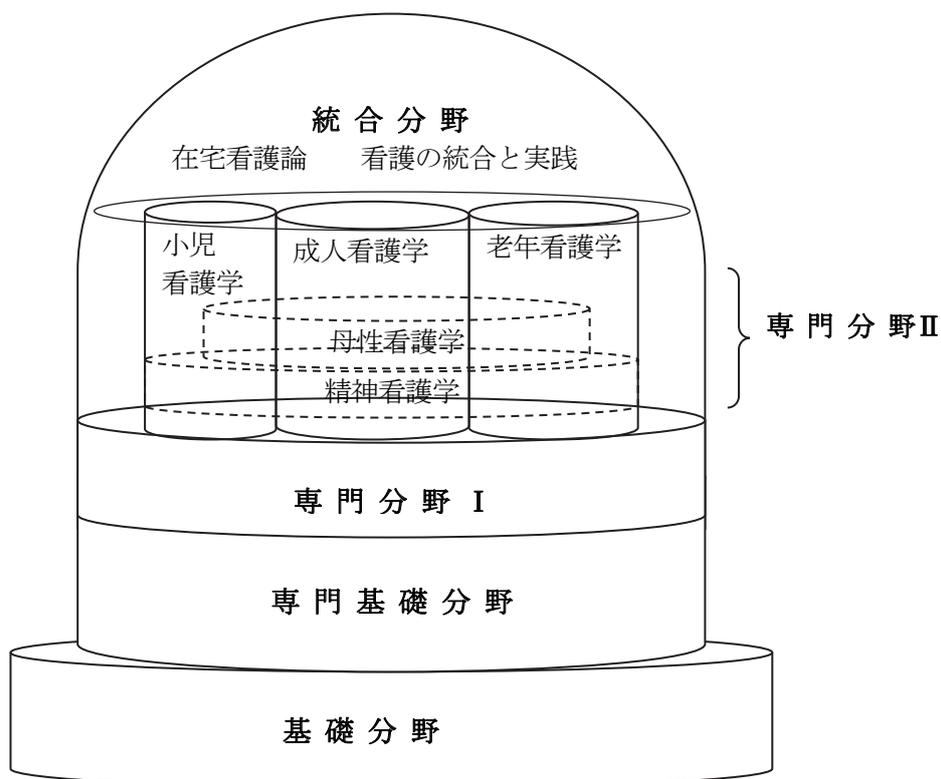
概 念	内 容
人 間	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間は、身体的・精神的・社会的に統合された存在である。 2. 人間は、基本的欲求をもつ存在である。 3. 人間は、多様な価値観をもつ独自の存在である。 4. 人間は、自立（＝自律）した存在である。 5. 人間は、基本的人権を有し、尊厳をもつ存在である。 6. 人間は、成長発達し続ける存在である。 7. 人間は、環境と相互作用し、変化し続ける存在である。 8. 人間は、社会的にそれぞれの役割を担い、生活している存在である。
環 境	<ol style="list-style-type: none"> 1. 環境は人間を取り巻く全てである。 2. 環境は、常に人間と相互に影響しあい変化し続けている。 3. 環境は、人間の生活と健康に影響を及ぼしている。 4. 環境は、外部環境・内部環境があり、内部環境の恒常性の維持は、外部環境が相互にかかわっている。
健 康	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康は、身体的・精神的・社会的に調和の取れた状態である。 2. 健康は、最良の健康から死までの連続的な健康状態である。 3. 健康は、常に環境と影響しあい流動的に変化する。 4. 健康は、人間の基本的権利であり自ら獲得するものである。
看 護	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護は、あらゆる健康状態にある個人とその家族、または集団を対象とする。 2. 看護は、その人らしい生活を支え、セルフケアができるように援助を行う。 3. 看護は、対象である人と看護者との人間関係を基盤として行われる。 4. 看護は、科学的根拠に基づいて健康状態や変化に対応するために働きかける。 5. 看護は、保健医療福祉チームと協働し、独自の機能と役割を担う。 6. 看護は、社会の変動に伴って変化する保健医療福祉ニーズに対応する。
教 育	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育は、学習者と教授者との相互関係の中でともに成長していく過程である。 2. 教育は、学習者の可能性を引き出し、その可能性を学習者自身が主体的に伸ばしていけるように働きかける。 3. 教育は、社会性を育み、人間形成に働きかける。 4. 教育は、成長発達を援助し、自己成長を促す。

教育課程の考え方

期 待 す る 卒 業 生 像

教育目標	卒業生像	主な関連科目
1 生命の尊厳と高い倫理観に基づいた豊かな人間性を養う。	1)自己及び他者を尊重することができる。 2)生命の尊厳を守ることができる。 3)他者の思いを知り、配慮することができる。 4)自己洞察でき、他者と協調することができる。 5)社会の規範、道徳に基づいた行動をとることができる。 6)創造性を高めることができる。 7)社会に関心を持つことができる。 8)国際的視野を持つことができる。 9)心の健康を維持するための対処能力を持つことができる。	論理的思考・情報科学 人間関係論・英語 家族社会学・教育学 発達心理学・倫理学 生活科学・文化人類学 生活とスポーツ 健康科学 精神看護学 看護の統合と実践
2 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解する能力を養う。	1)人間を身体的・精神的・社会的側面から統合体として捉えることができる。 2)成長発達段階から人間を捉えることができる。 3)基本的欲求を持つ存在として人間を捉えることができる。 4)人間には多様な価値観があることを認識することができる。 5)環境と相互に影響しあう存在として人間を捉えることができる。	人間関係論・家族社会学 発達心理学 生活科学・文化人類学 基礎看護学・成人看護学 老年看護学・小児看護学 母性看護学・精神看護学 在宅看護論 看護の統合と実践
3 対象の健康上の課題に対応するために、科学的根拠に基づいた看護を実践できる基礎的能力を養う。	1)あらゆる健康レベルから対象を捉えることができる。 2)セルフケア＝自立（自律）できる存在として対象を捉えることができる。 3)理論を活用しアセスメントすることができる。 4)根拠に基づいた看護援助を考えることができる。 5)看護技術の基本を身につけることができる。 6)行った援助を振り返り、技術の向上を図ることができる。 7)対象の状況に応じて安全に援助することができる。 8)看護におけるリスクマネジメントの重要性を理解することができる。	論理的思考・人間工学 生活科学・教育学 形態と機能（Ⅰ～Ⅲ） 生化学・栄養学 微生物学・病理学・薬理学 疾病治療学（Ⅰ～Ⅷ） 基礎看護学・成人看護学 老年看護学・小児看護学 母性看護学・精神看護学 在宅看護論・健康科学 看護の統合と実践
4 保健医療福祉における看護師の役割を認識し、チームの一員として他職種と協働できる能力を養う。	1)看護の専門性、独自性を自覚することができる。 2)看護者として責任を自覚することができる。 3)チームの一員として協調することができる。 4)他職種の役割を理解することができる。 5)他職種との連携調整の必要性を理解することができる。 6)社会資源の活用と調整方法を理解することができる。	人間関係論 基礎看護学 保健医療論 公衆衛生学・社会福祉 看護と法律 看護の統合と実践
5 看護への探求心を持ち専門職業人として学習し続ける能力を養う。	1)看護者として倫理に基づいた行動をとることができる。 2)看護を探求する姿勢を持ち続けることができる。 3)主体的に学び続ける姿勢を持つことができる。 4)自己の看護観を表現することができる。	論理的思考 倫理学 基礎看護学 看護の統合と実践

教育課程の構造図



教育課程の構築の考え方

「基礎分野」は、専門基礎分野、専門分野Ⅰ、専門分野Ⅱ、統合分野の基礎となり、看護を実践する人として、幅広いものの見方、考え方そして人間理解に必要な基礎的能力を身につける内容とする。基礎分野の広がりには人間育成を表す。

「専門基礎分野」は、専門分野Ⅰ、専門分野Ⅱ、統合分野の支持科目と位置づけ、人間の構造と機能を系統立てて理解し、健康・疾病・障害に関する知識、判断力を強化し、看護実践で活用可能な内容とする。また、健康や障害の状態に応じて、社会資源を活用できるように保健医療福祉について理解する内容とする。

「専門分野Ⅰ」は、各看護学及び在宅看護論の基礎となる内容を強化し、基礎分野と専門基礎分野を土台に専門分野Ⅱ及び統合分野と有機的に関連し合い、看護に必要な基礎的実践能力を養う内容とする。また看護師として、倫理的な判断をする基礎的能力を養う内容とする。

「専門分野Ⅱ」は、基礎分野と専門基礎分野、専門分野Ⅰを基盤に、小児看護学、母性看護学、成人看護学、老年看護学、精神看護学で構成し、対象の成長発達段階に応じた看護を実践する基礎的能力を養う内容とする。専門分野Ⅱの母性看護学は生殖機能の発達・成熟・衰退する時期の女性及び家族に焦点を当て、他の看護学と一部重なる科目として位置づける。精神看護学は、あらゆる発達段階の人々の心の健康に焦点を当てて学習するため、各看護学に横断するように位置づけた。

統合分野の「在宅看護論」は対象特性をふまえて、専門分野Ⅱで学んだ看護をもとに、地域で生活しながら療養する人々とその家族を理解し、在宅での看護の基礎を学ぶ内容である。そのため専門分野Ⅱの上に位置する。「看護の統合と実践」では基礎分野から専門分野Ⅱにおいて学習した知識と技術を統合して実践できる内容とした。

3年	専門基礎分野	専門分野Ⅱ			統合分野
2年	基礎分野	専門基礎分野	専門分野Ⅰ	専門分野Ⅱ	統合分野
1年	基礎分野		専門基礎分野	専門分野Ⅰ	専門分野Ⅱ

各分野の考え方

	教育内容	科目名	考え方
基礎分野	科学的思考の基盤	論理的思考 人間工学 情報科学	<p>科学的思考の基盤においては、科学的根拠のある看護実践のためには論理的な考え方を身につける必要があり、「論理的思考」「人間工学」「情報科学」の科目を設定した。</p> <p>「論理的思考」客観的に物事を認識するための論理性は、すべての科学分野において重要である。論理的思考の形式と法則を学び、自己表現できる能力を養うことを目的とした。</p> <p>「人間工学」は人間を取り巻く環境や日常生活動作を物理学的視点で理解するために設定した。</p> <p>「情報科学」はコンピュータなどの基本操作をふまえて、看護のデータ分析に必要な統計の基礎や統計処理に関する方法を学び、看護研究などに必要な統計的手法を理解する内容とした。さらに倫理観に基づいて情報管理できる能力を養う内容とした。</p>
	人間と生活・社会の理解	人間関係論 英語 家族社会学 教育学 発達心理学 倫理学 生活科学 生活とスポーツ 文化人類学	<p>人間と生活・社会の理解においては、人間と社会を幅広く理解できる内容と国際化へ対応する能力、コミュニケーション能力と高い倫理観を養うことを目的とした。</p> <p>「人間関係論」は人間関係の意義を理解し、コミュニケーションの基本とカウンセリングの基本・技法を学び、人間関係を発展させるコミュニケーション能力を高める内容とした。</p> <p>「英語」は、これまでの教育による英語実践能力の向上を念頭に、専門的学習へ導くための科目と捉え、看護ケアの場面での英会話や、看護英語の文献の読解を学ぶ内容とした。</p> <p>「家族社会学」家族は、社会の影響を受けて存在している現代は、社会、就労形態の変化に伴い家族の形態や機能が多様化している。社会の構造や家族の形態・機能を学ぶことは、患者や患者を取り巻く家族を理解することにつながり、家族を含めた看護を考える科目とした。</p> <p>「教育学」は、人間形成における教育の機能を理解し、人間の可能性を引き出すための教育の方法や評価、指導技術を学び、看護実践に生かすことができるように設定した。</p> <p>「発達心理学」は人間の発達課題、心理・社会的危機について理解する内容とする。</p> <p>「倫理学」は人間としてのあり方、生き方などを考えることにより、医療にかかわる者としての生命尊重や相手を尊重し、倫理に基づく行動の基礎を学ぶ内容とした。</p> <p>「生活科学」は、生活を構成する要素との関連性を理解し、人間の生活を総合的に理解するとともに生活環境と健康との関連について学ぶ内容とした。</p> <p>「生活とスポーツ」は生活の中での運動に焦点を当て、学習する内容とした。心と体のバランスは健康を考える上で重要である。運動は、心のバランスを保つ上でも必要である。また、運動による筋力 up は、転倒予防、生活習慣病の予防にもつながる。生活の中でとりいれられる運動を実践することは、自らの健康維持にも役立ち自らの</p>

	教育内容	科目名	考え方
			<p>健康維持にも役立つ、看護を实践する上での指標となる。</p> <p>「文化人類学」では、世界の様々な民族の社会・文化を学び、自らの文化を考え、自己と他者の理解を深める科目とした。また、異なる文化を理解することは、他国の生活習慣、病気や健康に対する価値観などを理解することになり、国際看護を展開するために必要とされる知識を学ぶ内容とした。</p>
専門基礎分野	人体の構造と機能	形態と機能Ⅰ 形態と機能Ⅱ 形態と機能Ⅲ 生化学・栄養学	<p>人体の構造と機能においては、人体を人間の生活行動に焦点を当てて理解し、健康・疾病・障害に関する観察力、判断力を強化するため、「形態と機能」、「生化学・栄養学」を学ぶ内容とした。形態機能は、ある特定の機能に焦点をあてて形態（外から見た人の形や働き）を観る、つまり看護の対象である人間の生活行動に焦点を当てて形態や機能を学ぶ科目である。</p> <p>「形態と機能Ⅰ」では、疾病治療学との関連で、基本的な解剖学的用語や身体の構成を学び、人体を全体的に捉える内容を含めた。環境との調節を図りながら生活をするヒトの恒常性維持に関連する形態と機能として体液の分類・分布・量・電解質を捉える。恒常性を維持するための物質の流通に関連する形態と機能として、流通の媒体を血液、流通路（循環器）として血管・リンパ管、流通の原動力として心臓を捉え、流通路（循環器）や息をする（呼吸器）に関する形態と機能を理解する内容を学習する。</p> <p>「形態と機能Ⅱ」では、ヒトの生活行動に焦点をあてた形態と機能のうち「食べる」「トイレに行く＝排泄」の2つの生活行動を学ぶ内容とした。</p> <p>また、恒常性維持のための調節機構に関連する形態と機能として、神経性調節：受容器、中枢神経、末梢神経、液性調節：ホルモンとして捉える。そのうち、液性調節：ホルモンの形態と機能を学ぶ内容とした。</p> <p>「形態と機能Ⅲ」では、恒常性維持のための調節機構に関連する形態と機能として、神経性調節：受容器、中枢神経、末梢神経を学ぶ内容とした。また、ヒトの生活行動に焦点をあてた「動く」やヒトとしての社会生活を営むうえで欠かせない感覚：「話す・聞く・見る」、「お風呂に入る＝皮膚」の形態と機能を学ぶ内容とした。「子供を生む＝生殖」という生活行動に関する形態と機能に人体の発生をあわせて学ぶ内容とした。</p> <p>「生化学・栄養学」では、「生化学」は生体物質の基本的知識とその物質代謝を基にして、病気や病態を捉える科目である。物質の代謝物が数値化されたものは、臨床に広く応用されている生化学検査であり、その検査の意味をも理解することにつながり、看護ケアをする上での科学的判断の根拠につながる科目である。「栄養学」は、人間にとっての栄養の意義を理解し、発達段階に応じた食事の形態および健康障害時の食事療法の基本を理解する内容とした。</p>
	疾病の成り立ちと回復	微生物学 病理学	<p>疾病の成り立ちと回復の促進については、疾病の成り立ちや回復に対する基礎的知識を学び、健康・疾病・障害に</p>

	教育内容	科目名	考え方
専門基礎分野	の促進	薬理学 疾病治療学Ⅰ 疾病治療学Ⅱ 疾病治療学Ⅲ 疾病治療学Ⅳ 疾病治療学Ⅴ 疾病治療学Ⅵ 疾病治療学Ⅶ 疾病治療学Ⅷ	<p>関する観察力、判断力を強化するため、「微生物学」、「病理学」、「薬理学」、「疾病治療学」を学ぶ内容とした。</p> <p>「微生物学」は、高分子有機化合物を他の生物に再利用可能な小さな分子に分解したり、人間に有益をもたらす食物を作り出したり、人間や動植物に病気を引き起こしたりという多様な面がある。微生物学を学ぶことにより、微生物がどこにいて、どのようにしてヒトに感染し病気を起こすのか、それを治療し予防するにはどうしたらよいかなどを学ぶ内容とする。</p> <p>「病理学」は、病気の原因を追究し、病気になった患者の身体に生じている変化がどのようなものであるかを知る科目であり、患者の病気の診断・検診及び病気の予防にも生かされる。看護にとって根拠に基づいた的確な看護を行うためには、人間の構造と機能を理解したうえで、病気の原因あるいは経過についても正確な知識を養っておかなければならない。病理学（＝病気の原因や経過）を知ることが、日常行っている看護活動の根拠となりうる。また、疾病の発生傾向や発生要因などについても理解することは、予防的視点から看護に取り組むことにつながる。</p> <p>「薬理学」：薬は病気によって身体機能が正常より亢進、あるいは低下した状態のときに正常な状態に近づけるようにはたらく化学物質である。細胞内は複雑な調整機構が働いているが、この膨大な調節機構の一部に働いた薬物は体内のさまざまな機能へ影響を与えている可能性があり、本来の治療効果を期待した薬物から、副作用や有害作用を受けることもある。このように薬の基本的性質を理解し、病気の回復促進につながる援助の根拠となるような学習内容とした。</p> <p>疾病治療学については、教育内容全体にかかわる内容を治療総論とし、その他を系統別に大別し、さまざまな臨床の分野での代表的な疾病の診断・治療など、看護を行う上で不可欠な基礎的な知識について学び、健康障害を抱える対象の看護の展開に有機的に結びつけられるような内容とした。また、成長発達段階が影響する小児期に特徴的な疾病と治療、すべての発達段階に発生しうる精神障害に関する内容、母性看護学の対象である内分泌環境の変化の時期にある女性の疾病と治療の内容を取り出し、科目を設定した。</p> <p>「疾病治療学Ⅰ」では、治療総論として、外科的治療、麻酔、ペインコントロール、放射線療法、臨床検査について学習し、看護援助の基礎知識とする内容とした。</p> <p>「疾病治療学Ⅱ」では、呼吸・循環機能障害とその治療に関する内容とした。</p> <p>「疾病治療学Ⅲ」では、消化・内分泌・代謝・血液・造血機能障害その治療に関する内容とした。</p> <p>「疾病治療学Ⅳ」では、腎・泌尿器・生体防御機能障害・感染症とその治療に関する内容とした。</p> <p>「疾病治療学Ⅴ」では、脳・神経・運動機能障害・眼・耳鼻咽喉・歯科・口腔・皮膚疾患とその治療に関する内容とした。</p>

	教育内容	科目名	考え方
専門基礎分野			<p>「疾病治療学Ⅵ」では、小児の特徴的な疾病の診断・治療など、看護を行う上で不可欠な基礎的な知識について学び、小児の成長発達段階をふまえ、健康障害を抱える対象の看護の展開に有機的に結びつけられるような内容とした。</p> <p>「疾病治療学Ⅶ」では、母性看護学の対象である女性の特徴を捉え、内分泌環境変化の時期である女性の健康障害と検査、治療を理解する内容とした。</p> <p>「疾病治療学Ⅷ」では、主な精神疾患の精神症状の現れ方の特徴と疾病の原因、診断、治療について学び、看護師・患者関係成立、発展の必要性を理解するとともに、健康障害に応じた看護に生かすことができる内容とした。</p>
	健康支援と社会保障制度	健康科学 保健医療論 公衆衛生学 社会福祉 看護と法律	<p>健康支援と社会保障制度の教育内容において、保健医療福祉に関する基本概念、関係制度、関係職種の役割を理解するとともに、健康や障害の状態に応じ社会資源の活用ができるような基礎的な能力を養う内容とした。</p> <p>「健康科学」では、人々の健康維持増進のための健康教育のあり方やその考えを学ぶ科目とする。</p> <p>「保健医療論」では、医療のあり方が大きく変貌しつつある今日、医療の変遷を知らずにこの変貌した時代や看護の目指すべき目標を明確にすることはできない。医療の変遷を知り、現在の保健医療システム・サービスの現状と課題を理解する内容とした。</p> <p>「公衆衛生学」では、生活者のさまざまな健康について、健康で活力ある福祉社会を作り上げる公衆衛生の目的を学ぶ内容とした。国民の健康に関する状況と生活環境を学び、人々が健康を享受するために望ましい制度や公衆衛生活動の実際を学ぶ内容とした。</p> <p>「社会福祉」では、生活者の健康を保障する社会の制度を理解し、それらを社会資源として活用する能力の基礎知識とする科目とした。国民の最低限の生活を保障する社会保障制度、社会的な援護を要する者への支援を行う社会福祉制度がある。この社会保障、社会福祉制度は、高齢化の急速な進行と年金制度の成熟化、介護保険制度の創設などにより、誰もが必ずかかわりをもつ普遍的な制度として意識されるようになった。社会保障、社会福祉の知識は、看護を提供する上で必要な知識となる。</p> <p>「看護と法律」では、医療に関連する法の基礎知識、看護職に必要な法規を学び、専門職業人として法的責任を自覚した行動が取れるための基礎知識を学ぶ。また、労働関係法規を学び、患者や看護者の労働環境からくる健康問題・健康対策なども理解することにつながる。</p>
専門分野Ⅰ	基礎看護学	基礎看護学概論Ⅰ 基礎看護学概論Ⅱ 基礎看護学方法論Ⅰ 基礎看護学方法論Ⅱ 基礎看護学方法論Ⅲ 基礎看護学方法論Ⅳ 基礎看護学方法論Ⅴ	<p>専門分野Ⅰの看護学である「基礎看護学」は、各看護学の基礎・基本・原則的な部分を担っている。看護師が最初に学ぶ専門分野であり基礎となるため、単位数や教育内容が広範囲に及ぶ。そのため、基礎分野、専門基礎分野に連動し、専門分野Ⅱ、統合分野との学習内容の重複を避け、他分野との関連性を整理し、段階的に習熟できるようにした。</p> <p>「基礎看護学概論」は、看護学を学ぶ基礎的な概念、看</p>

	教育内容	科目名	考え方
専門分野 I		基礎看護学方法論VI 基礎看護学方法論VII 基礎看護学方法論VIII 基礎看護学実習 I 基礎看護学実習 II	<p>護の対象、目的や役割などを学ぶ内容とした。また、研究の基礎の単元は、これから学ぶ各看護学の学習と関連づけて、実践した看護を理論的に整理する基礎とする内容とした。</p> <p>「基礎看護学方法論」は、共通基本技術、日常生活援助技術、診療の補助技術、看護過程、フィジカルアセスメントの実際に分けて整理した。対象のニーズや生活行動に焦点をあてた援助技術は、専門基礎分野の「形態と機能」と関連させながら整理をした。診療の補助技術は、他看護学との関連性を検討し、整理した。</p> <p>「基礎看護学実習 I」では、対象へ安全・安楽な日常生活援助を実践する内容とした。</p> <p>「基礎看護学実習 II」では、受け持った対象への看護過程を展開する内容とした。</p>
専門分野 II	成人看護学	成人看護学概論 成人看護学方法論 I 成人看護学方法論 II 成人看護学方法論 III 成人看護学方法論 IV 成人看護学方法論 V 成人看護学実習 I 成人看護学実習 II 成人看護学実習 III	<p>専門分野 II の看護学教育内容の全体構造は、看護の目的、看護倫理、対象の理解、健康状態別の看護から構成した。科目構造は、「概論」「方法論」から構成した。概論では各看護学の基本となる概念やその領域における対象を理解し、看護の概要を学ぶ。方法論では健康状態別の看護を中心に機能障害別の方法もふまえて各看護学の対象の看護を学ぶ内容とした。</p> <p>成人看護学の看護の対象は青年期から壮年期・向老期までの人々で、ライフサイクルのなかで最も長く心身ともに充実した時期である。また、職業生活、家庭生活、人間関係も複雑で多様な役割を担い、自ら自立（＝自律）していかなければならない存在である。成人看護学では、これらのライフサイクルの対象の特徴を理解し、さまざまな健康状態、機能障害の看護の方法と健康課題が生活に密接にかかわっていることをふまえた健康回復に向けた看護の方法を学ぶ。</p> <p>成人看護学の構造は、成人期にある対象の特徴と看護の目的を含む看護の概要を学ぶ科目と、健康の状態やその状況に応じて看護の役割、看護の方法を学ぶ科目で構成し、成人期にある対象を統合体として捉え援助するために、身体機能の変調を軸に健康障害を健康状態別・系統別・治療処置別にあわせ、機能障害別看護の方法を学習する。また、各機能障害別を看護の特徴で、健康状態別を健康生活の急激な破綻から回復を促す看護、健康生活の慢性的な揺らぎの再調整を促す看護、障害をもちながらの生活とリハビリテーション、人生の最期のときを支える看護の学習内容とした。さらに、成人の健康の状態に応じた看護過程では、それぞれの健康障害のある対象の看護過程を展開できる能力を向上させることを目的として設定した。成人看護学では、基礎看護学で習得した看護技術を基本に、成人看護学に特徴的な看護技術の習得を目指す内容とした。</p> <p>「成人看護学実習」では、成人期にある対象の特徴を捉え、健康の状態に応じた対象へ看護実践できる基礎的能力を養う。構成として、「成人看護学実習 I」、「成人看護学実習 II」、「成人看護学実習 III」と設定した。</p>
	老年看護学	老年看護学概論 老年看護学方法論 I	<p>「老年看護学概論」では、老年期の発達段階の特徴と高齢者を取り巻く環境について学び、加齢に伴う身体的・精</p>

	教育内容	科目名	考え方
専 門 分 野 Ⅱ		老年看護学方法論Ⅱ 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ	<p>神的・社会的側面から高齢者への理解を深める。また、高齢者を支援し、社会資源について学び、老年看護の目的や役割について理解する。</p> <p>「老年看護学方法論Ⅰ」では、加齢による変化や、高齢者に特徴的な疾患や症状が、生活に及ぼす影響を捉え、QOLの維持・向上へ向けた援助について学ぶ。</p> <p>「老年看護学方法論Ⅱ」では、認知機能の障害に対する看護について学び、対象とその家族への支援を通して高齢者の尊厳について理解を深める。また、看護過程・アクティビティケアなどの演習を通して実践へ向けた援助方法を学ぶ。</p> <p>「老年看護学実習」では、既習した講義を基盤に、実習Ⅰにおいては、高齢者個々に対して尊重した態度で支援・援助を行いつつ、看護師としての人間関係のあり方を学び、QOLの向上を目指した高齢者の日常生活・セルフケアへの援助、自立への支援について老人保健施設及びその付帯施設のサービスを通して経験する。実習Ⅱでは、疾患により生活への障害のある高齢者の看護については病院において高齢者及び家族を対象に実施する。また、高齢者の生活を支える保健・医療・福祉の施策の活用を通して他職種との協働・連携を経験し、老年看護の課題と役割を学ぶ。</p>
	小児看護学	小児看護学概論 小児看護学方法論Ⅰ 小児看護学方法論Ⅱ 小児看護学実習	<p>小児看護学では、専門分野Ⅰの学習をふまえて、対象である「子ども」の成長・発達の特徴や発達課題、家族を含む看護の特性を中心に学ぶ。子どもと家族を一つの単位としてとらえ、子どもと家族が自らの力で健康を維持し、幸福に生活していくことができるように支援していくことを基本理念とする。常に環境から影響を受けやすい存在であることをふまえ、現代の子どもと家族の特徴およびその環境をより広い視点からとらえ、さまざまな健康状況にある子どもと家族の看護について学ぶ内容とする。</p> <p>「小児看護学概論」では、子どもの権利を尊重し子どもと家族の最善の利益を守る上での、小児看護の機能と役割、倫理について学ぶ。子どもの心身の成長・発達の特徴を理解するとともに、子どもを取り巻く家族や社会・自然環境を含めた視点で小児看護の対象を理解する。</p> <p>「小児看護学方法論Ⅰ」では、健康な生活を送るために必要な援助について学び、成長・発達を支援するための看護について学ぶ。次に、本校の考える健康状態に応じて、小児看護の様々な場、状況に応じた看護について学ぶ。また、その健康状態に特徴的な疾患の看護について学ぶ組み立てにした。</p> <p>「小児看護学方法論Ⅱ」では、現在の小児医療・小児看護の現場では病気のケアの重要な要素として位置づけられているプレパレーション技術や小児看護に必要な看護技術について学ぶ。小児看護学で学んだ知識を統合し応用する能力を養うため、紙上事例を用いて看護過程を展開する。また、その事例の中から、プレパレーション演習を取り入れ、小児看護における実践力を養う。</p>

	教育内容	科目名	考え方
専 門 分 野 II			「小児看護学実習」では、これらの学習をふまえて健康な小児からさまざまな健康状態にある小児まで、学習の場を広く設定し、それぞれの学生が子どもや家族と関わることで、成長・発達の過程にある子どもを全人的に捉え、子どもが本来持っている力が発揮できるように子どもと家族を支援していくために必要な基礎的能力を養うことをねらいとする。
	母性看護学	母性看護学概論 母性看護学方法論 I 母性看護学方法論 II 母性看護学実習	「母性看護学概論」では、母性看護の対象であるすべての女性を内分泌的な変化から見た発達段階にわけて身体的・心理的・社会的な側面から理解する内容とした。また、近年の母性看護をめぐる社会的な変化を広く捉え、母性看護の機能と役割を理解する内容とした。 「母性看護学方法論 I」では、さまざまな健康状態にある母性看護の対象：妊婦・産婦・褥婦および新生児の特徴をふまえて援助方法を理解する内容とした。 「母性看護学方法論 II」では、母性看護を展開するために必要な看護過程の展開方法やヘルスアセスメントに必要な技術や対象との援助関係形成のための技術や援助技術を理解し習得する内容とした。 「母性看護学実習」では、マタニティサイクルにある女性及び新生児の看護を中心としながら女性の健康支援を学習する内容とした。
	精神看護学	精神看護学概論 精神看護学方法論 I 精神看護学方法論 II 精神看護学実習	精神看護学は、広義で捉えると「すべての発達段階にある人間の心に関わる」また、狭義においては「精神疾患を抱えた患者に関わる」と位置づけられている。このことから精神科のみならず他の診療科や施設などにおいて、精神看護の考え方や方法がますます必要とされるようになってきた。さらに、看護において基本的な技術であるコミュニケーションの技術を活用し、対象の理解を深め円滑な人間関係を築くための学びを深める領域である。 「精神看護学概論」では、精神看護の基盤となる概念で心について学ぶ。精神看護学では、すべての領域にある人々の心の健康について考え、対象理解を深める。また、家庭や学校、職場における人間関係の中で、心は影響し合い育まれることを学習する。さらに、心の健康の維持とライフサイクルにおける心の健康と発達について学び、現代社会の社会病理からみた心のあり方と、精神看護学の位置づけを学ぶ。精神保健福祉の歴史的な変遷から、今日の制度の成り立ちまでを学び、入院中の患者の処遇及び精神保健福祉法と関連付けて学習する。更に精神看護に用いる看護理論を学ぶことで、知識や技術と態度を養う。 「精神看護学方法論 I」では、精神科の診療に伴う診察や検査時の看護の基本的な援助について学ぶ。特に、幻覚妄想や不安などの精神症状に対する看護について学び、精神障がい者の抱える「生活のしづらさ」を改善するための生活技能訓練をはじめとする、社会療法や薬物療法などについて学習する。また、精神科リハビリテーションについて学び、精神障がい者がその人らしく、地域や病院で自立

	教育内容	科目名	考え方
専門分野Ⅱ			<p>的に生活できる援助方法を学ぶ。さらに、発達段階別の危機と災害時などの特殊な場面における心の働きを学ぶことで、対象の理解を深めていく。また、精神科看護におけるリスクマネジメントについて考え、対象にとっての安全について学ぶ。</p> <p>「精神看護学方法論Ⅱ」では、事例を通して、精神に障がいをもつ対象を統合的（身体的・精神的・社会的側面）に理解し、健康な側面に注目しながら看護実践に必要な看護過程の展開（援助方法）を理解する。精神障がい者の理解と看護を実践するために、必要な人間関係形成の方法援助を発展させるためにプロセスレコードを用いて自己洞察、自己理解、患者と看護師の相互作用について学ぶ内容とする。また、精神障がい者を理解する上で必要な、統合失調症をはじめとする精神疾患をもつ患者の看護について学び、精神障がい者がその人らしく、生活できる援助方法を学習する。</p> <p>「精神看護学実習」では、精神保健医療福祉における看護の役割・機能および精神を障がいされた人と、その家族の理解を深め、健康の保持増進、回復への支援の方法について学ぶ。精神看護は、精神の健康問題に直面している個人及び家族に対して継続的な働きかけが大切である。また患者と看護者の人間関係が治療的な関係を築き、看護者として自己洞察の必要性を学ぶことができる。チーム医療については多職種での役割を知り連携することの意味を学ぶことができる。</p>
統合分野	<p>統合分野では、看護の集大成としてこれまで学んできた知識と技術を統合して実践できる能力を養う必要がある。統合分野は在宅看護論と看護の統合と実践から構成する。</p> <p>在宅看護論</p>	<p>在宅看護概論 在宅看護方法論Ⅰ 在宅看護方法論Ⅱ 在宅看護論実習</p>	<p>「在宅看護概論」では、在宅看護の対象である療養者および家族の特徴や生活者としての対象の特性を理解し、その人らしい生活や自立を支えていく必要性を学ぶ。また、療養者と家族を支えていくために必要な社会資源について学び、在宅看護の特徴と療養者および家族を含めた支援を展開できる視点を深めていく。</p> <p>「在宅看護方法論Ⅰ」では、在宅看護の中心である訪問看護の訪問者としての一般常識やマナー、人間関係形成のためのコミュニケーション力について理解する。また、療養者・家族の思いや自立性を大切にしてお互いに合った援助方法が求められる。そこで、人間関係づくりをふまえて、在宅におけるリスクマネジメントを含めた看護技術、また関係職種との連携方法について学び、地域の中で訪問看護の対象を支え続けていくための援助について学習する。</p> <p>「在宅看護方法論Ⅱ」では、在宅療養者の疾患は多岐にわたり、複数の疾患・障害を抱えている場合も多い。それに伴い在宅でも多くの医療処置が実施されている。ここでは、様々な療養環境の中で生活している療養者・家族を支えていくための技術や制度について学び、療養者・家族の思いを大切にしながら地域の中で支え続けていくための看護過程の展開・援助の工夫について学習する。</p> <p>「在宅看護論実習」では、地域で生活している療養者と</p>

	教育内容	科目名	考え方
統合分野	看護の統合と実践	医療安全 国際看護と災害看護 看護管理と事例研究 看護技術の統合演習 統合実習	<p>その家族を理解し、その人らしい生活や自立を支援するための社会資源の活用や療養環境を整える方法を工夫し対象（療養者、家族）に合わせた援助の実際を学ぶ。また、看護だけでなく、在宅療養を支える多職種との連携、それぞれの役割についても学習する。</p> <p>看護の統合と実践では、基礎分野から専門分野において学習した知識、技術を統合し、臨床現場の実務に即した看護を実践できる能力を養う。また、看護の機能と役割の拡大に伴うチーム医療・看護ケアにおける看護師としての調整、看護マネジメントができる能力を養う内容および看護基礎教育での看護技術の総合的評価を行う内容とした。</p> <p>「医療安全」では、基礎看護学方法論Ⅰの安全を守る・感染予防を推進する技術の学びをふまえ、医療安全を学ぶ意義、医療安全管理対策の基本的考え方を理解し、看護職として求められる知識と技術、現場で起きている事故の特性と防止策などを学ぶ内容とした。また、療養環境は、医療従事者にとって感染リスクの高い場所であることを認識し、看護行為が感染源とならないよう気をつけるとともに、自己の安全を守る必要がある。適切な感染管理と感染予防対策の基本を学ぶ内容とした。</p> <p>「国際看護と災害看護」では、国際社会において看護師として諸外国との協力のあり方及び県下において国際活動を行っている施設や国際活動に携わる人々を通して国際協力の現状を理解し、今後の活動の動機付けになる内容とした。また、我が国の災害対策、災害援助について現状を通して災害時の看護の特徴と基本的な援助について理解する内容とした。</p> <p>「看護管理と事例研究」では、看護管理の目的と機能及び組織の一員としてのリーダーシップとメンバーシップを理解し、看護をマネジメントできる基礎的能力を養う内容とした。「事例研究」では、基礎看護学概論Ⅱで学んだ研究の基礎をふまえ、自己の看護実践を振り返り、理論と統合させながら事例研究をまとめる内容とした。</p> <p>「看護技術の統合演習」では、卒業時の看護技術の到達は患者の状態、その場に応じた状況判断ができることが重要である。また、統合実習の前段階として、臨床に近い状況での看護技術を学ぶ必要がある。複数患者への対応、患者、チームメンバー等の他者との調整、割り込み状況（予期しない患者の反応、突発的な事態、時間切迫など）への対処を含めた看護技術を学ぶ内容とした。</p> <p>「統合実習」は、病院における看護管理の実際を知るとともに、チームの一員として看護を実施し、看護専門職としての役割を理解し、自覚と責任を養うために設定した。複数の患者を受け持ち、患者の状態を把握し、優先順位を考えた援助ができる内容とした。また、実習全体を通して看護専門職として自己の振り返りが表現できる内容とした。</p>

教育課程進度表

分野	教育内容		科目	看護学科								
				学則		1年次		2年次		3年次		
				単位	時間	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
基礎分野	科学的思考の基礎		論理的思考	1	30	30						
			人間工学	1	15	15						
			情報科学	1	30			30				
	人間と生活・社会の理解		人間関係論	1	30	30						
			英語	2	45	45						
			家族社会学	1	30			30				
			教育学	1	30	30						
			発達心理学	1	30	30						
			倫理学	1	30	30						
			生活科学	1	15	15						
		生活とスポーツ	1	30	30							
		文化人類学	1	30				30				
小計			13	345	255		90			0		
専門基礎分野	人体の構造と機能		形態と機能Ⅰ	1	30	30						
			形態と機能Ⅱ	1	30	30						
			形態と機能Ⅲ	1	30	30						
			生化学・栄養学	1	30		30					
	疾病の成り立ちと回復の促進		微生物学	1	30	30						
			病理学	1	30	30						
			薬理学	1	30		30					
			疾病治療学Ⅰ	1	30		30					
			疾病治療学Ⅱ	1	30		30					
			疾病治療学Ⅲ	1	30		30					
			疾病治療学Ⅳ	1	15			15				
			疾病治療学Ⅴ	1	30			30				
	健康支援と社会保障制度		疾病治療学Ⅵ	1	15			15				
			疾病治療学Ⅶ	1	15				15			
			疾病治療学Ⅷ	1	15				15			
			健康科学	1	30			30				
			保健医療論	1	15					15		
			公衆衛生学	1	15					15		
			社会福祉	2	45					45		
		看護と法律	1	15						15		
小計			21	510	300		180			30		
専門分野Ⅰ	基礎看護学		基礎看護学概論Ⅰ	1	30	30						
			基礎看護学概論Ⅱ	1	30	30						
			基礎看護学方法論Ⅰ	1	30	30						
			基礎看護学方法論Ⅱ	1	30	30						
			基礎看護学方法論Ⅲ	1	30	30						
			基礎看護学方法論Ⅳ	1	30	30						
			基礎看護学方法論Ⅴ	1	30		30					
			基礎看護学方法論Ⅵ	1	30		30					
			基礎看護学方法論Ⅶ	1	30		30					
			基礎看護学方法論Ⅷ	1	30			30				
	臨地実習	基礎看護学	基礎看護学実習Ⅰ	1	45	45						
			基礎看護学実習Ⅱ	2	90		90					
			小計	13	435	405		30			0	
専門分野Ⅱ	成人看護学		成人看護学概論	1	30	30						
			成人看護学方法論Ⅰ	1	30		30					
			成人看護学方法論Ⅱ	1	30		30					
			成人看護学方法論Ⅲ	1	30			30				
			成人看護学方法論Ⅳ	1	30			30				
	臨地実習	成人看護学	成人看護学方法論Ⅴ	1	30			30				
			成人看護学実習Ⅰ	2	90				90			
			成人看護学実習Ⅱ	2	90						90	
	老年看護学		成人看護学実習Ⅲ	2	90						90	
			老年看護学概論	1	30		30					
			老年看護学方法論Ⅰ	2	45			45				
	臨地実習	老年看護学	老年看護学方法論Ⅱ	1	30			30				
			老年看護学実習Ⅰ	2	90				90			
			老年看護学実習Ⅱ	2	90						90	
	小児看護学		老年看護学実習Ⅲ	2	90						90	
			小児看護学概論	1	30		30					
			小児看護学方法論Ⅰ	2	45			45				
	臨地実習	小児看護学	小児看護学方法論Ⅱ	1	30			30				
			小児看護学実習	2	90						90	
母性看護学概論			2	45			45					
母性看護学		母性看護学方法論Ⅰ	1	30			30					
		母性看護学方法論Ⅱ	1	30				30				
		母性看護学実習	2	90						90		
臨地実習	母性看護学	精神看護学概論	1	30			30					
		精神看護学方法論Ⅰ	1	30			30					
		精神看護学方法論Ⅱ	2	45				45				
精神看護学		精神看護学実習	2	90						90		
		小計	38	1,320	150		630			540		
		在宅看護論		在宅看護概論	1	30			30			
在宅看護方法論Ⅰ	1			30				30				
在宅看護方法論Ⅱ	2			45					45			
臨地実習	在宅看護論			在宅看護実習	2	90						90
				医療安全	1	30						30
				国際看護と災害看護	1	30						30
看護の統合と実践				看護管理と事例研究	1	30						30
		看護技術の統合演習	1	30					30			
		統合実習	2	90						90		
臨地実習	看護の統合と実践	小計	12	405	0		105			300		
		合計	97	3,015	1110		1035			870		

教科外活動

目的

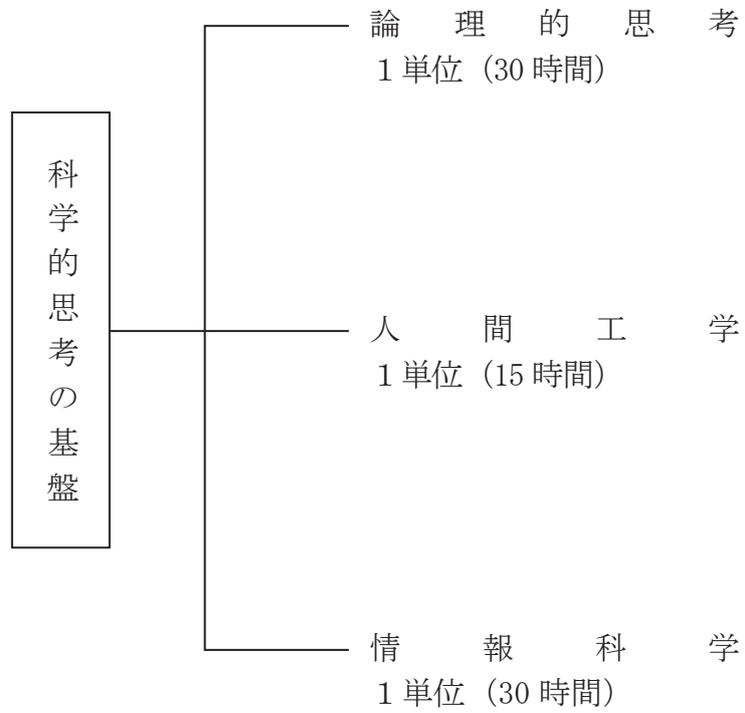
教科外活動を通して看護学生としての自覚及び協調性を養い、豊かな人間性を育む

項目	学 年			ねらい
	1年	2年	3年	
入学式	2			看護学生としての自覚と誇りを持ち、これからの学校生活に向けて決意を新たにす
		2	2	先輩としての自覚と誇りを持ち、新入生の歓迎と後輩指導の必要性を認識する
新入生ガイダンス	10			新たな学校生活に適応するために、学則や諸規程、教育課程について理解する
新入生歓迎会	6	6	6	学生間の親睦と連帯感を養う
健康診断	2	2	2	各自、健康状態を把握し、健康の保持増進を図る
防災訓練	2	2	2	防災訓練を通して防災に対する意識を高め、学校生活の安全確保を図る
学校祭（準備を含む） 隔年開催	12	12	12	日ごろの学習成果を広く地域の人々に紹介し交流の場とする。また、学生間の交流と学生が主体的に学習する機会とする
体育祭：隔年開催	6	6	6	スポーツを通して体力向上とチームワークを高める
地域活動	6	6		地域での活動を通してコミュニケーション能力を養い、今後の看護実践に活かす
宣誓式		4		看護の道への誇りと責任を自覚し生涯を通して学習し続けていく決意と看護師にふさわしい態度を身につける
	2		2	宣誓する学生を祝福すると共に、看護学生として、職業に対する意識を高める
ケーススタディ発表	2	2		ケーススタディ発表に参加し、自己の看護観を深める
卒業式		2		自己の目的を再認識し看護学生としての自覚を新たにす
			4	3年間の学校生活を締めくくり専門職業人としての出発を自覚する
特別講演・講義	36	6	26	幅広い知識と教養を身につける 既習教科の理解を深める
H R	4	4	4	クラス運営を円滑にするため、意見交換の場とする

基礎分野

科学的思考の基盤

科目体系



科 目 名	論理的思考
単 位 (時 間 数)	1 単位 (30 時間)
履 修 年 次	1 年次 前期
講 義 の 概 要	論理的思考の形式と法則を学び、文章の読解を通じて論理的思考の基礎を養う。
目 標	1. 論理的思考及びその言語的表現について理解する。 2. 思考の矛盾や妥当性を判断する能力を身につける。 3. 事実を正しく解釈し言語的に表現することを身につける。

講 義 内 容

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
1 3	1. 論理学の概要	1) 論理学の原理と概念 (1) 人間の思考 (2) 論理的思考 (3) 論理的思考の方法 ①演繹的 ②帰納的 ③背理法 ④対偶 ⑤ド・モルガンの法則	講義	6	
4 8	2. 論理的記述法	1) 論文の構成と組み立て 2) 論文の内容の基本 3) 論文の読み方と自己表現	講義 演習	10	
9 14	3. 論理的思考と自己表現	1) 道筋を立てた表現の仕方 2) 論理的発言の基礎 3) 論理的に話すための用語	講義 演習	12	
15		テスト		2	

テ キ ス ト	その都度資料提示
参 考 文 献	野矢茂樹：新版論理トレーニング 産業図書 野矢茂樹：論理トレーニング101題 産業図書 望月和彦：ディベートのすすめ 有斐閣 土田昭司：社会調査のためのデータ分析入門 有斐閣
評 価 方 法	テスト、演習課題で評価する。

【講義出席チェック】

回	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
日 時															
出 席															

科 目 名 人間工学
 単 位 (時 間 数) 1 単位 (15 時間)
 履 修 年 次 1 年次 前期
 講 義 の 概 要

人間工学は、人間とそのまわりの環境をシステムとしてとらえ、これらの関係について解剖学、生理学、心理学などの領域から検討し、安全性、快適性、合理性を追求する学問である。本講義では人間を取り巻く生活環境、人間の動作の特徴を物理学的視点で学ぶ。

自然環境である光・音・振動などの性質を理解することは、よりよい生活環境の調整につながる。又、光・音・振動などの性質は多くの医療機器に活用されている。その原理を理解することは、検査や治療上の注意事項と関連できるようになり、誤作動による医療事故の防止にもつながる。また、人体の運動力学を学び、効果的なケアにつながる。

- 目 標
1. 人間工学的な考え方が理解できる。
 2. 人間を取り巻く環境や日常生活動作が物理学とどのように結びついているか理解する。
 3. 人体の運動力学の基本を理解する。

講 義 内 容

回	単 元	学 習 内 容	授 業 形 態	時 間	備 考
1	1. 人間工学とは	1) 人間工学とは 2) 人間工学の変遷 3) 看護に人間工学を活かす	講義	2	
2 3 4	2. 人間を取り巻く生活環境と物理	1) 振動、音 (1) 音の性質と特徴 (2) 振動の人体への影響 (3) 音波と超音波 2) 光 (1) 明るさの測定 (2) 光と色、レンズ 3) 圧力 4) 電子と磁気 5) 原子と放射線	講義	6	
5 6 7	3. 人間の形態的特徴と筋力的特徴	1) 力とつりあい 2) 動体力学 3) 姿勢と動作	講義	6	
8		テスト		1	

テ キ ス ト 平田雅子：完全版ベッドサイドを科学する 学研 2020 年

参 考 文 献 豊岡 了：系統看護学講座 基礎 物理学 医学書院

評 価 方 法 テスト

【講義出席チェック】

回	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
日時									
出席									

科 目 名	情報科学
単 位 (時 間 数)	1 単位 (30 時間)
履 修 年 次	2 年次 前期
講 義 の 概 要	看護「情報」と「コミュニケーション」の専門職である看護師にとって情報通信技術はその専門性を発揮するために必要不可欠なものである。看護師は患者の情報を安全に活用し、情報をもとに関わりを持つ仕事であるため、講義では情報とは何か看護に関連づけて学ぶ内容とする。また、看護の専門性を発揮するための看護研究に必要なデータ収集や統計的手法も学ぶ。
目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報科学の基礎を学び、人と情報社会との関係・看護との関連について理解する。 2. 情報の収集・蓄積・分析の能力を身につけ、情報の整理と活用の基礎を理解する。 3. 一般的な統計の概念、統計の方法について理解する。 4. 社会現象、衛生の動向を客観的に捉え、統計の客観的推定解釈ができる。 5. 看護研究に必要な統計的手法を理解する。

講 義 内 容

回	単 元	学 習 内 容	授 業 形 態	時 間	備 考
1 2 3	1. 情報と情報化社会	<ol style="list-style-type: none"> 1) 情報とは 2) 情報の定義と特徴 3) 情報化社会 	講義	6	
4 5 13	2. 保健医療における情報	<ol style="list-style-type: none"> 1) 保健医療と情報 2) 看護と情報 3) 医療における情報システム 4) 情報倫理と医療倫理 5) 患者の権利と情報 6) 個人情報の保護 7) コンピュータリテラシーとセキュリティ 8) 情報処理 <ul style="list-style-type: none"> ・既存の情報の収集方法 ・調査によるデータ収集方法 ・図書室で文献検索 	講義	20	
14 15	3. 情報の発表とコミュニケーション	<ol style="list-style-type: none"> 1) 最終研究発表 プレゼンテーション 	演習	4	

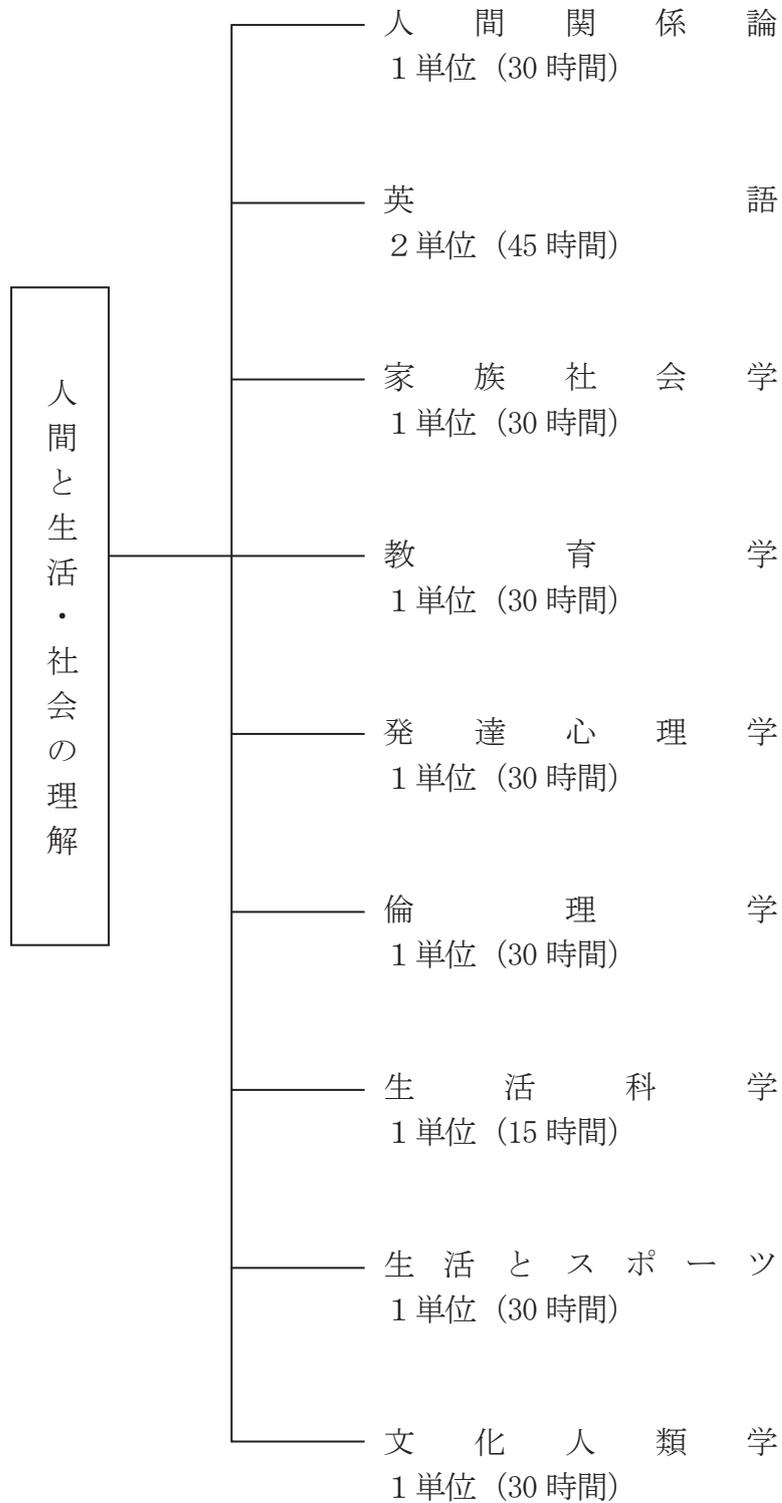
テ キ ス ト	中山 和弘：系統看護学講座 別巻 看護情報学 医学書院 2021 年
参 考 文 献	宮川 祥子：情報科学 ノーベルヒロカワ 国民衛生の動向
評 価 方 法	演習課題で評価する

【講義出席チェック】

回	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
日時															
出席															

人間と生活・社会の理解

科目体系



科 目 名	人間関係論
単 位 (時 間 数)	1 単位 (30 時間)
履 修 年 次	1 年次 前期
講 義 の 概 要	人間関係の意義を理解し、人間関係発展のためのコミュニケーション技術とカウンセリングの基本・技法を学ぶ。
目 標	1. 人間関係の意義を理解する。 2. 人間関係発展のためのコミュニケーションの基本について理解する。 3. さまざまな生活場面での自己表現法としてアサーションスキルを身につける。

講 義 内 容

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
1 ↳ 4	1. 人間関係の基本的意義	1) 人間関係の存在としての人間 2) 社会化としての人間発達 3) 社会化と個性化 4) 社会的相互作用と社会的役割 (1) 人間関係における社会的相互作用とは (2) 社会的相互作用とその諸相 (3) 社会的役割とは (4) 役割関係における葛藤とその解決 5) 人間関係の諸相 (1) 職場の人間関係 (2) 地域における人間関係	講義 講義	2 6	
5 ↳ 9	2. コミュニケーションとは	1) コミュニケーションの基本概念 (1) マスコミュニケーション (2) パーソナルコミュニケーション 2) コミュニケーションの基本構造 (1) 送り手・受け手 (2) 希望・象徴・信号 3) 言語的・非言語的コミュニケーション (1) 言語表現と非言語表現 (2) 非言語表現の種類と意味 4) コミュニケーションの障害 (1) コミュニケーションの歪みに関する問題 ①送り手の問題 ②受け手の問題 ③人間関係と距離 5) 援助的コミュニケーション (1) カウンセリングの基本・技法 (2) 面接技法 ①初対面の面接時の対応 ②傾聴する技法	講義 講義	6 4	
10	3. 自己表現とアサーション	1) アサーションの基礎知識 (1) アサーションとは	講義	2	

回	単元	学習内容	授業形態	時間	備考
		(2) アサーションの必要性 (3) 自己と他者との関係性			
11 ～ 14	4. アサーションの 実際	1) アサーションの実際 (1) 相手の立場を理解し共感しながら自分の主張も上手に自己表現していけるアサーティブな人間関係法を学ぶ。 (2) 会話の場面を設定しロールプレイする。 (3) ロールプレイした内容を記述し、自己及び他者との関係性を振りかえる。	演習 (グループワーク)	8	
15		テスト		2	

テキスト 石川ひろの他：系統看護学講座 基礎分野 人間関係論 医学書院
 参考文献 服部 祥子：人を育む人間関係論 医学書院 2003年
 評価方法 テスト、演習課題で評価する。

【講義出席チェック】

回	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
日時															
出席															

科目名	英語
単位(時間数)	2単位(45時間)
履修年次	1年次 前・後期
講義の概要	専門的学習へ導くための科目と捉え、看護ケアの場面での英会話や、看護英語の文献の読解を学ぶ。
目標	1. 日常の診療及び看護における基礎的な英会話を習得する。 2. 医療・看護に関する外国文献・資料を読解する基礎的能力を身につける。

講義内容

回	単元	学習内容	授業形態	時間	備考
1 ～ 7	1. 基礎英語 2. 外来における 日常英会話	1) 外来における英会話 (1) 初診時の会話 (2) 外来における個人情報収集 (3) 診療申込みの記入 (4) 症状の訴え方、人体名称 (5) 問診(症状のきき方) (6) 病歴聴取と疾患名 (7) 外来診察室での会話	講義	14	
8 ～ 11	3. 医療関連長文	2) 医療関連長文 3) 海外での妊娠・出産・育児体験談 4) 看護長文(症例研究) 5) 海外の看護・医療事情&専門用語	講義	8	
12		テスト		1	
13 ～ 19	4. 病棟における 日常英会話	6) 病棟における英会話 (1) バイタルサイン測定 (2) 検査の説明Ⅰ (3) 検査の説明Ⅱ (4) 手術の説明と準備 (5) 術後処置 (6) 動作を伴うベッド周辺の会話 7) 実習室でのグループ発表	講義 演習 (グループ ワーク)	12 2	
20 ～ 23	5. 文献の読解	8) 看護論文・文献解読 (1) 看護論文Ⅰ (2) 看護論文Ⅱ 9) グループ発表	講義 演習 (グループ ワーク)	6 2	
24		テスト		1	

テキスト	平野 美津子他: Talking with Your Patients in English 成美堂 2019年
参考文献	
評価方法	テスト、演習課題で評価する。

【講義出席チェック】

回	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
日時															
出席															
回	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔						
日時															
出席															

科 目 名	家族社会学
単 位 (時 間 数)	1 単位 (30 時間)
履 修 年 次	2 年次 前期
講 義 の 概 要	社会の構造や家族の形態・機能を学ぶ。患者や患者を取り巻く家族を理解し、家族を含めた看護を考える視点を学ぶ。
目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会的存在としての人間を理解する。 2. 社会の構造・機能や変化を通して、個人・家族・集団の関係を多角的に理解する。 3. 家族の機能について理解する。 4. よりよい社会の形成や生活の向上を考えて看護が展開できる能力を身につける。

講 義 内 容

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
1 3	1. 人間と社会の関係	<ol style="list-style-type: none"> 1) 人間と社会の関係 <ol style="list-style-type: none"> (1) 社会とは (2) 人間と社会の関係 2) 社会の成り立ち <ol style="list-style-type: none"> (1) 個人と社会 (2) 集団と社会 3) 地域社会における生活とその変化 <ol style="list-style-type: none"> (1) 地域の変化と再形成 (2) 地域社会と生活周期 (3) 社会全体の都市化 	講義	6	
4 5	2. 家族の機能と役割	<ol style="list-style-type: none"> 1) 家族とは 2) 家族の歴史的発達 	講義	4	
6 7	〃	1) 家族の機能と役割	講義	4	
8 9	〃	<ol style="list-style-type: none"> 1) 現代家族の諸問題 2) 沖縄の文化と家族 	講義	4	
10 11	3. 家族を理解するための理論	1) 家族発達理論	講義	4	
12 13	〃	1) 家族システム理論	講義	4	
14	〃	1) 家族ストレス対処論	講義	2	
15		テスト		2	

テ キ ス ト	講義でその都度資料提示
参 考 文 献	鈴木 和子： 家族看護学 日本看護協会出版会 米林 喜男： 社会学 メヂカルフレンド社
評 価 方 法	テスト

【講義出席チェック】

回	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
日時															
出席															

科 目 名	教育学
単 位 (時 間 数)	1 単位 (30 時間)
履 修 年 次	1 年次 前期
講 義 の 概 要	人間にとっての教育の意義を理解し、家庭・社会・学校における教育の特徴を学ぶ。 教育の原理・方法・評価方法、現代教育の諸問題を学び、健康教育や保健教育を具体的に提供する能力を養う。
目 標	1. 教育の原理を基盤として、人間形成における教育の意義と機能について理解する。 2. 教育の目的、方法、学習指導の基礎的知識を理解する。 3. 教育的機能の意義を理解し、看護における指導の基礎的技術を身につける。

講 義 内 容

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
1	1. 人間にとっての教育の意味	1) 人間の成長と教育 (1) 教育の意義 (2) 教育の機能	講義	2	
2 3 4	2. 家族・社会の教育	1) 家庭教育 2) 生涯教育と社会教育 3) 学校教育制度	講義	6	
5	3. 現代教育の諸問題	1) 問題とその背景 (要因) (1) 問題解決に対する取り組み	講義	2	
6 7	4. 教育の目的と方法	1) 教育目的と目標 2) 教育の方法の原則 3) 学習指導 (1) 学習指導の意義・目標 (2) 教育内容と教材 (3) 学習指導の原理 4) 学習指導の形態 (1) 個別指導 (2) 集団指導 5) 指導技術とは	講義	4	
8	5. 教育評価	1) 教育評価の意義と目的 2) 教育評価の方法	講義	2	
9 10	6. 指導技術	1) 看護の教育機能 (1) 看護における指導教育とは (2) 指導技術の基本 (3) 指導技術のプロセス	講義	4	
11 12 13 14 15	7. 指導案作成	1) 看護における指導場面での指導案作成 (1) 対象：幼児の集団 青年期の集団 壮年期の集団 (2) 身近な健康問題を捉えてグループワークで所定の用紙に指導案を作成し、提出する。 例：虫歯の予防について	演習 (グループワーク)	10	・担当講師と専任教諭のチームティーチングとする。

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
		たばこの害について 肥満について			

テ キ ス ト

参 考 文 献 多鹿 秀継： 発達と学習の心理 学文社
人間と教育 日本看護協会出版会

評 価 方 法 演習課題で評価する。

【講義出席チェック】

回	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
日時															
出席															

科 目 名	発達心理学
単 位 (時 間 数)	1 単位 (30 時間)
履 修 年 次	1 年次 前期
講 義 の 概 要	看護の対象である人間の発達課題、心理・社会的危機について理解し看護実践における対象理解について学ぶ。
目 標	人間の発達課題、心理・社会的危機について理解する。

講 義 内 容

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
1 3	1. 人間の発達	1) 発達とは (1) 上昇的变化と下降的变化 2) ライフサイクルからみた人間の発達 (1) ライフサイクルとは (2) ライフサイクルと人間の発達 (3) 人間の発達の特殊性 3) 代表的な発達理論 (1) ピアジェの発達理論 (2) エクリソンの発達理論	講義	6	
4 5	2. 発達段階と発達課題	1) 発達段階 (1) 発達段階の意義 (2) 発達段階の種類 (3) 発達段階の現在	講義	4	
6	3. 乳児期の発達	1) 発達課題 (1) 社会的愛着の発達 (2) 対象の永続性 (3) 感覚運動的知能と原始的因果関係 (4) 運動機能の成熟 2) 心理・社会的危機 (1) 信頼対不信	講義	2	
7	4. 幼児初期の発達	1) 発達課題 (1) セルフコントロール (2) 認知と言葉の発達 (3) 空想と遊び (4) 移動能力の完成 2) 心理・社会的危機 (1) 自律対恥・疑惑	講義	2	
8	5. 前期の発達	1) 発達課題 (1) 性役割同一視 (2) 初期の道徳性発達 (3) 具体的操作 (4) 集団遊び 2) 心理・社会的危機 (1) 積極性対罪悪感	講義	2	
9	6. 学童中期の発達	1) 発達課題 (1) 社会的協力：同性仲間集団 (2) 自己評価 (3) 技能の学習 (4) チームプレイ	講義	2	

回	単元	学習内容	授業形態	時間	備考
		2) 心理・社会的危機 (1) 勤勉対劣等感			
10	7. 青年前期の発達	1) 発達課題 (1) 身体的成熟 (2) 形式的操作 (3) 仲間集団における成員性 (4) 異性関係 2) 心理・社会的危機 (1) 集団同一性対疎外	講義	2	
11	8. 青年後期の発達	1) 発達課題 (1) 両親からの自律 (2) 性役割同一性 (3) 道徳性の内在化 (4) 職業選択 2) 心理・社会的危機 (1) 個人的同一性対役割拡散	講義	2	
12	9. 成人前期の発達	1) 発達課題 (1) 結婚 (2) 出産 (3) 仕事 (4) ライフ・スタイル 2) 心理・社会的危機 (1) 親密性対孤立	講義	2	
13	10. 成人期の発達	1) 発達課題 (1) 家庭の経営 (2) 育児 (3) 職業の管理 2) 心理・社会的危機 (1) 生殖性対停滞	講義	2	
14 15	11. 老年期の発達	1) 発達課題 (1) 新しい役割と活動のエネルギーの再方向づけ (2) 自分の人生の受容 (3) 死に対する見方の発達 2) 心理・社会的危機 (1) 統合対絶望	講義	4	

テキスト 前原 武子：発達支援のための生涯発達心理学 ナカニシヤ出版
 参考文献 平山論、鈴木隆男編：発達心理学の基礎 ミネルウア書房
 バーバラ M・ニューマン、フィリップ R・ニューマン著 福富謙・伊藤
 恭子訳：生涯発達心理学 川島書店
 評価方法 演習課題で評価する。

【講義出席チェック】

回	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
日時															
出席															

科 目 名 倫理学
 単 位 (時 間 数) 1 単位 (30 時間)
 履 修 年 次 1 年次 前期
 講 義 の 概 要

人間とは何か、人間は如何に生きるべきか、人間・生命の尊厳とは何か、といった倫理的問題は古来より東西において様々なかたちで議論されてきたが、現代になると、急激な科学技術や生命科学の進歩によって、人類がかつて経験したことがなく、かつ、これまでの倫理観では対応の難しい様々な倫理的問題が浮上し、医療や看護の領域でも切実な問題となっている。

この講義では、講義全体を1. 倫理とは何か、2. 人間の行動と倫理、3. 倫理学の諸相、4. 現代の倫理問題、の3つのテーマを考察・検討し、医療や看護に携わる者の倫理的あり方について皆さんと共に考えてゆく。

- 目 標
1. 倫理に関する基本的な考え方や生き方について学び、これまでの自分自身の考え方、感じ方と比較しながら、より善い自己のあり方について考える。
 2. さまざまな価値観の比較・検討や現代における医療と倫理問題を掘り下げ、患者をケアする看護師として重要な倫理的あり方・行為を身につける。

講 義 内 容

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
1 3	1. 倫理とは何か	イントロダクション (全体的説明) 1) 倫理とは 2) 規範とは 3) 道徳とは	講義	6	
4	2. 人間の行動と倫理	1) 人間の存在の意味 2) 人間にとっての倫理の意味	講義	2	
5 6	3. 倫理学の諸相	1) アリストテレス (善) 2) ベンサム (功利主義) 3) カント (人間尊重の精神) 4) 儒教の倫理観 (招魂再生と孝の理論) 5) 仏教の倫理観 (諸行無常と諸法実相) 6) 日本における倫理観 (祖先崇拝を中心に)	講義	4	
7 8	4. 現代における倫理的問題 (生命倫理とケア論を中心に)	1) 生命倫理の定義と争点 人工妊娠中絶・安楽死と尊厳死・ 脳死と臓器移植	講義	4	
9 14	5. 現代生活における倫理的課題	1) ケア論 ケア論の成り立ち・定義・重要性 主なケアの定義・種類・役割と重要性 (1) ~緩和ケア・ホスピスケア・ ターミナルケア~ 主なケアの定義・種類・役割 と重要性	講義	12	

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
		2) スピリチュアルケア スピリチュアルケアの歴史的成り立ちと定義・スピリチュアルパイ ントスピリチュアルケア スピリチュアリティと文化的影 響・スピリチュアルと宗教的関係 ～宗教的スピリチュアルと非宗教 的スピリチュアル～			
15		テスト		2	

テ キ ス ト

参 考 文 献 和辻 哲郎：人間の学としての倫理学 岩波新書 1934 年
倫理学 世界思想社

松木 光子：看護倫理学：ヌーベルヒロカワ

評 価 方 法 テスト

【講義出席チェック】

回	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
日時															
出席															

科 目 名	生活科学
単 位 (時 間 数)	1 単位 (15 時間)
履 修 年 次	1 年次 前期
講 義 の 概 要	生活環境と健康の関連について学び、自分自身の生活を健康の視点から思考する意義について学ぶ。
目 標	人間の生活とは何か、生活を構成する要素の関連性について理解し、生活を営む側面から人間を理解する。

講 義 内 容

回	単 元 名	学 習 内 容	授 業 形 態	時 間	備 考
1 (3	1.生活とは 2.人間と食生活	1) 生活とは何か (1) 人間の生活 (2) 生活の構成 2) 人間と食生活 (1) 人間が生活の中で食べることの意味 3) 健康を保つための食生活 (1) 発達段階に応じた食生活と健康	講義	6	
4 5	3.人間と衣生活	1) 人間が生活の中で衣服を着ることの意味 2) 健康と衣服 (1) 衣服による気候調整 (2) 衣服による健康への影響 3) 社会と衣服 (1) 服装によるコミュニケーション (2) 服装と自己の形成 (3) 服装と社会的役割	講義	4	
6 (8	4.人間と住生活	1) 人間と住生活 (1) 人間の生活と住居 2) 生活行動と住環境 3) 健康と住環境	講義	6	
9		テスト		1	

テ キ ス ト	その都度資料提示
参 考 文 献	中根芳一 他：私たちの生活科学 理工学社 山本直成 他：生活科学 理工学社 佐々木隆 他：生活科学概論 同文書院
評 価 方 法	テスト

【講義出席チェック】

回	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
日 時									
出 席									

科 目 名 生活とスポーツ
 単 位 (時 間 数) 1 単 位 (30 時 間)

履 修 年 次 1 年 次 前 期

講 義 の 概 要 心と体のバランスは健康を考える上で重要である。運動は、心のバランスを保つ上でも必要である。また、運動による筋力アップは、転倒予防、生活習慣病の予防にもつながる。生活の中でとりいれられる運動を実践することは、自らの健康維持にも役立ち、看護を实践する上での指標となる。生活の中での運動に焦点を当て、学習する。

- 目 標
1. スポーツの持つ健康への意義と実践を交えながら理解する。
 2. 健康な生活を送るうえで必要な身体運動のメカニズムについて理解を深める。
 3. 運動習慣を身につける。

講 義 内 容

回	単 元	学 習 内 容	授 業 形 態	時 間	備 考
1 2	1. 健康と運動	1) 運動の目的 2) 健康管理と運動 3) 発達段階・性別・経験にあわせた運動の必要性	講義	4	
3	2. 運動の種類と効果	1) 有酸素運動 2) 柔軟性と障害予防 3) ダイエットとシェイプアップ	講義	2	
4 5	3. 体力測定とその評価	1) 自己の体力測定とその評価	実技	4	
6 7 14	4. 実技	1) バレーボール 2) バドミントン・(卓球) 3) 健康体操	実技	18	
15		テスト		2	

テ キ ス ト

参 考 文 献

評 価 方 法 テスト、実技で評価する。

【講義出席チェック】

回	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
日 時															
出 席															

科 目 名	文化人類学
単 位 (時 間 数)	1 単位 (30 時間)
履 修 年 次	2 年次 後期
講 義 の 概 要	さまざまな民族の文化や社会を知ることによって、自らの文化や社会、さらに人間について学ぶ。異文化理解の枠組み、制度化された人間関係、儀礼や信仰のありようを学ぶ。
目 標	さまざまな民族の社会・文化を学び、自らの文化を考え、自己と他者の理解を深める。

講 義 内 容

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
1 2	1. 人間と文化	1) 文化人類学の目的と方法 2) 文化とは何か (1) 自文化と異文化 (2) 文化の概念	講義	4	
3 4	2. 文化人類学の流 れとフィールド ワーク	1) 文化人類学の流れと異文化理解 2) フィールドワーク	講義	4	
5 6 7	3. 人と人とのつな がり	1) 人と人とのつながり (1) 親と子・家族とは (1) 親族関係と親族の組織化	講義	6	
8 9 10	4. 人生と時間	1) 儀礼の諸相 (1) 聖と俗 (2) 通過儀礼	講義	6	
11 12 13 14	5. 信仰と世界観	1) 宗教の専門家たち 2) シャーマニズムの世界 3) 沖縄の文化と生活 (1) 信仰・儀礼 (2) 健康観 (3) 死生観	講義	8	
15		テスト		2	

テ キ ス ト	波平エリ子：トートーメーの民俗学講座－沖縄の門中と位牌祭祀 ボーダーインク
参 考 文 献	波平 恵美子：系統看護学講座 基礎分野 文化人類学 医学書院
評 価 方 法	テスト

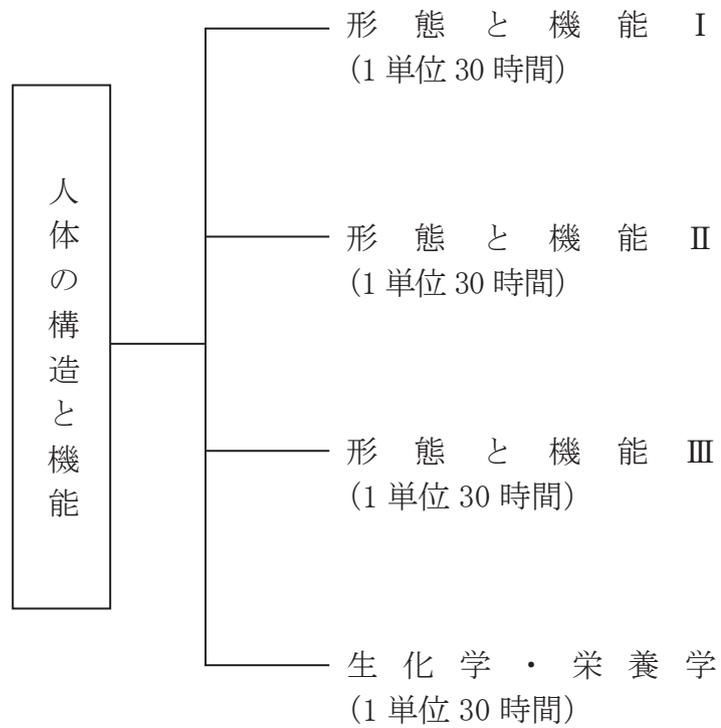
【講義出席チェック】

回	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
日 時															
出 席															

專門基礎分野

人体の構造と機能

科目体系



科 目 名 形態と機能 I
 単 位 (時 間 数) 1 単 位 (30 時 間)

履 修 年 次 1 年 次 前 期

講 義 の 概 要 疾病治療学との関連で、基本的な解剖学的用語や身体の構成を学び、人体を全体的に捉える内容を含めた。環境との調節を図りながら生活をするヒトの恒常性維持に関連する形態と機能として体液の分類・分布・量・電解質と捉える。恒常性を維持するための物質の流通に関連する形態と機能として、流通の媒体を血液、流通路（循環器）として血管・リンパ管、流通の原動力として心臓を捉え、流通路（循環器）や息をする（呼吸器）に関する形態と機能を理解する内容を学ぶ。

- 目 標
1. 個体としてのヒトの構成を理解する。
 2. 生活行動である「息をする」に関連するヒトの形態と機能を理解する。
 3. 恒常性を維持するための物質の流通（流通路）に関連する形態と機能を理解する。

講 義 内 容

回	単 元	学 習 内 容	授 業 形 態	時 間	備 考
1 4	1. 身体の構造と成長発達	1) 身体の構造と成長発達 (1) 生命とは (2) 人体の特徴 ①直立2足歩行 ②脳の発達 (3) ヒトの形成 ①個体発生：受精卵から人体へ ②系統発生：進化の過程 ③生後発生：生理的早産、 発育、老化 2) 人体の概要と解剖学用語 (1) 解剖学的正常性と方向用語 (2) 面と断面 (3) 部位を示す用語 (4) 人体内部の腔所 3) 細胞と組織 (1) 細胞：増殖、体細胞と生殖細胞 (2) 組織 ①上皮組織：上皮、腺 ②支持組織：結合組織、骨 ③筋組織：骨格筋、平滑筋、心筋 ④神経組織 (3) 器官 4) 内部環境の恒常性 (1) ホメオスタシスとは (2) 体液の分布と量：間質液、 リンパ・体液 (3) 体液の電解質 (4) 間質とリンパの機能 (5) 体温	講義	8	

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
5) 9	2. 息をする	1) ヒトの生活行動：「息をする」 (1) 息を吸う・息を吐く ①呼吸器の構造 ア) 気道：鼻腔・咽頭・喉頭・気管・気管支 イ) 肺 ウ) 胸膜・縦隔 ②呼吸運動 ③呼吸運動の神経支配 ④肺気量 (2) ガス交換 ①外呼吸と内呼吸 ②血液によるガスの運搬	講義	10	
10) 14	3. 恒常性を維持するための物質の流通	1) 恒常性を維持するための物質の流通 (1) 流通路 ①血管 ア) 大(体)循環と小(肺)循環 イ) 血管の構造と種類 ②リンパ管とリンパ節 (2) 流通の原動力 ①心臓の構造 ②刺激伝導系と調節 ③血圧と影響因子	講義	10	
15		テスト		2	

テ キ ス ト 菱沼 典子：看護形態機能学 生活行動からみるからだ 日本看護協会出版会 2011年
林正 健二：ナーシンググラフィカ1 解剖生理学 メディカ出版
坂井 建雄：系統看護学講座 専門基礎 人体の構造と機能 [1] 人体の構造と機能1 医学書院 2018年

参 考 文 献

評 価 方 法 テスト

【講義出席チェック】

回	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
日時															
出席															

科 目 名 形態と機能Ⅱ

単 位 (時 間 数) 1 単位 (30 時間)

履 修 年 次 1 年次 前期

講 義 の 概 要 「形態と機能Ⅱ」では、ヒトの生活行動に焦点をあてた形態と機能のうち「食べる」「トイレに行く＝排泄」の2つの生活行動を学ぶ内容とした。

また、恒常性維持のための調節機構に関連する形態と機能として、神経性調節：受容器、中枢神経、末梢神経、液性調節：ホルモンとして捉える。そのうち、液性調節：ホルモンの形態と機能を学ぶ内容とした。

- 目 標
1. 恒常性を維持するための物質の流通（流通の媒体）に関連する形態と機能を理解する。
 2. 生活行動である「食べる」に関連するヒトの形態と機能を理解する。
 3. 生活行動である「トイレに行く」に関連するヒトの形態と機能を理解する。
 4. 内部環境の恒常性維持に関連する形態と機能を理解する。

講 義 内 容

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
1 3	1. 恒常性を維持するための物質の流通	1) 恒常性を維持するための物質の流通 (1) 流通の媒体：血液 ①血液の成分 ②血球の生成と破壊 ③血液の機能 ア) 血液恒常性の維持 ・ 膠質浸透圧の維持 ・ 血漿phの調整(酸・塩基平衡) イ) 物質の運搬 ・ ホルモン、栄養素等の運搬 ・ 酸素・二酸化炭素の運搬 ・ 老廃物の運搬、熱の運搬 ウ) 進入物に対する防衛 ・ 食作用、免疫、非特異的防御機構 ・ 特異的防御機構 エ) 血液凝固：止血	講義	6	
4 8	2. 食べる	1) ヒトの生活行動：「食べる」 (1) 食欲・姿勢 ①空腹感、満腹感 ②渇き (2) 食行動 ①食物を口まで運ぶ ②食物の性質の判断 ③口の準備 (3) 咀嚼し味わう (4) 飲み込む：嚥下 (5) 消化と吸収 ①消化管の構造と機能 食道・胃・十二指腸・小腸・大腸・栄養素の消化と吸収	講義	10	

回	単元	学習内容	授業形態	時間	備考
		②膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能 ③消化液の作用 ④消化液分泌の調節 ⑤吸収後の養分			
9 { 11	3. トイレに行く	1) ヒトの生活行動：「トイレに行く＝排泄」 (1) 排尿 ①尿意 ②排尿 ア) 排尿路の構造 イ) 尿の貯蔵と排尿 ③尿の生成 ア) 腎臓の構造と機能 イ) 尿生成のメカニズム：濾過・再吸収・分泌 ④体液量調節の機構 ア) レニン－アンギオテンシン－アルドステロン系 イ) 抗利尿ホルモン (2) 排便 ①結腸・直腸・肛門の構造と排便のメカニズム ア) 便意 イ) 排便	講義	6	
12 { 14	4. 恒常性維持のための調節機構	1) 恒常性維持のための調節機構 (1) 液性調節（内分泌系） ①主な内分泌器官 ②ホルモンの作用機序 ③ホルモン分泌の調節 ④恒常性維持のためのホルモンの働き ア) 体液量の調節 イ) 代謝速度の調節 ウ) 蛋白合成の促進 エ) 血糖の調節 オ) 血中ナトリウム、血中カリウムの調節 カ) 血中カルシウムの調節 (2) ストレスと恒常性の維持	講義	6	
15		テスト		2	

テ キ ス ト 菱沼典子：看護形態機能学 生活行動からみるからだ 日本看護協会出版会 2011年
林正 健二：ナーシンググラフィカ1 解剖生理学 メディカ出版
坂井 建雄：系統看護学講座 専門基礎 人体の構造と機能 [1] 人体の構造と機能1 医学書院 2018年

参 考 文 献

評 価 方 法 テスト

【講義出席チェック】

回	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
日時															
出席															

科 目 名 形態と機能Ⅲ

単 位 (時 間 数) 1 単位 (30 時間)

履 修 年 次 1 年次 前期～後期

講 義 の 概 要 「形態と機能Ⅲ」では、恒常性維持のための調節機構に関連する形態と機能として、神経性調節：受容器、中枢神経、末梢神経を学ぶ内容とした。また、ヒトの生活行動に焦点をあてた「動く」やヒトとしての社会生活を営むうえで欠かせない感覚：「話す・聞く・見る」、「お風呂に入る＝皮膚」の形態と機能を学ぶ内容とした。

「子供を生む＝生殖」という生活行動に関する形態と機能に人体の発生をあわせて学ぶ内容とした。

- 目 標
1. 生活行動である「動く」に関するヒトの形態と機能を理解する。
 2. ヒトの社会生活を営むうえで欠かせない感覚：「話す・聞く」「お風呂に入る」「子どもを生む」に関連するヒトの形態と機能を理解する。
 3. 「子供を生む＝生殖」、ヒトの発生に関連する形態と機能を理解する。

講 義 内 容

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
1 4	1. 恒常性維持のための調節機構 2. 眠る	1) 恒常性維持のための調節機構 (1) 神経性調節 ①受容器：情報を得る ア) 見る イ) 聞く ウ) 嗅ぐ エ) 触れる オ) 平衡覚 ②中枢神経：認識を判断し記憶する ア) 脳：大脳・間脳・脳幹(中脳・橋・延髄)・小脳 イ) 脊髄 ③末梢神経：情報を伝える ア) 脳神経と脊髄神経 イ) 自律神経と体性神経 ④どのように情報を伝えるのか 1) ヒトの生活行動：「眠る」 (1) からだのリズム ①サーカディアンリズム ②基礎的な休息－活動周期 (2) 睡眠の生理 (3) 眠り ①ノンレム睡眠 ②レム睡眠 ③睡眠パターン	講義	8	
5 6	3. 話す・聞く・見る・触れて感じる	1) ヒトの生活行動：「話す・聞く」 (1) 声を出す ①大脳の言語野 ②発声に関わる器官 (2) 聞く ①耳の構造	講義	4	

回	単元	学習内容	授業形態	時間	備考
	4. お風呂に入る	②聴覚と平衡覚 (3) 言葉 2) ヒトの生活行動：「見る」 (1) 受容器：情報を得る：視神経 (2) 目の構造 1) ヒトの生活行動：「お風呂に入る」 (1) 垢を落とす (2) 皮膚と付属物 ①表皮：ケラチノサイト ②汗腺・脂腺・毛 (3) 皮膚・粘膜の血管と神経 (4) 温まる			
7 { 11	5. 動く	1) ヒトの生活行動：「動く」 (1) 姿勢 ①体位と構え ②赤ちゃんが歩くまでの過程 ③立位の保持 (2) 神経から筋への指令と筋の収縮 (3) 意図的でない運動：反射 (4) 意図的な運動：随意運動 (5) 骨格・骨格筋・関節 ①骨格 ②関節 ③骨格筋 ④筋の収縮 (6) 日常生活での基本的動き ①歩く ②つまむ ③表情	講義	10	
12 { 14	6. 子どもを生む	1) ヒトの生活行動：「子どもを生む」 (1) 男と女 ①遺伝による男と女 ②ホルモンによる男と女 (2) 遺伝子組み換え (3) 性交と受精 ①女性生殖器と生殖機能 ア) 女性生殖器の構造 イ) 生殖のための機能 ウ) 乳房の構造 ②男性生殖器と生殖機能 ア) 男性生殖器の構造 イ) 生殖のための機能 (4) 赤ちゃん ①分化 ②胎盤 (5) 性周期とホルモン (6) 出産	講義	6	
15		テスト		2	

テキスト 菱沼典子：看護形態機能学 生活行動からみるからだ 日本看護協会出版会 2011年
 林正 健二：ナーシンググラフィカ1 解剖生理学 メディカ出版
 坂井 建雄：系統看護学講座 専門基礎 人体の構造と機能〔1〕人体の構造と機能1：医学書院 2018年
 参考文献
 評価方法 テスト

【講義出席チェック】

回	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
日時															
出席															

科 目 名	生化学・栄養学
単 位 (時 間 数)	1単位 (32時間)
履 修 年 次	1年次 後期
講 義 の 概 要	人体を構成する化学物質の性状、その分布および代謝を理解する。 また、健康と食生活の関わりについて理解し、栄養学の基礎を学ぶ。
目 標	1. 代謝に関連する酵素の働きや3大栄養素の代謝のメカニズムを理解する。 2. 人間にとっての栄養の意義を理解し、発達段階に応じた食事の形態および健康障害時の食事療法の基本を理解する。

講 義 内 容

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
1 2	1. 代謝と酵素	1) 代謝とは 2) 物質代謝とエネルギー 3) 酵素性質と分類 4) アインザイム	講義	4	
3	2. 糖質代謝	1) 糖質の種類と機能 2) 糖質代謝の過程	講義	2	
4	3. 脂質代謝	1) 脂質の種類と機能 2) 脂質代謝の過程	講義	2	
5	4. たんぱく質代謝	1) たんぱく質の種類と機能 2) たんぱく質代謝の過程	講義	2	
6 7	5. 遺伝情報を担う物質	1) 核酸の種類、構造、機能 2) 遺伝子と染色体の構造	講義	4	
8	6. ビタミンとホルモン	1) ビタミンの種類と機能 2) ホルモンの種類と機能	講義	2	
9		テスト		1	
10	7. 健康と栄養	1) 栄養の意義 2) からだに必要な栄養 3) 食品中のエネルギー量 4) からだが必要とするエネルギー量 5) 食生活・厚生労働省の指針	講義	4	
11	8. 食品と食品群・栄養状態と評価	1) 日本食品成分表 2) 各種食品群の分類表と特徴 3) 栄養アセスメントの意義・目的 4) 身体計測・臨床検査	講義	2	
12 13	9. ライフサイクルにおける栄養と形態	1) 乳幼児期の栄養 2) 学童期の栄養 3) 思春期・青年期の栄養 4) 成人期の栄養 5) 妊娠・授乳期の栄養 6) 老年期の栄養	講義	4	・発達段階と食事の形態について学習する。
14 15	10. 療養生活と栄養	1) 病院食の分類 (1) 一般食 (1) 特別食 2) 検査のための食事 3) 疾病別食事療法 4) 栄養補給法	講義	4	
16		テスト		1	

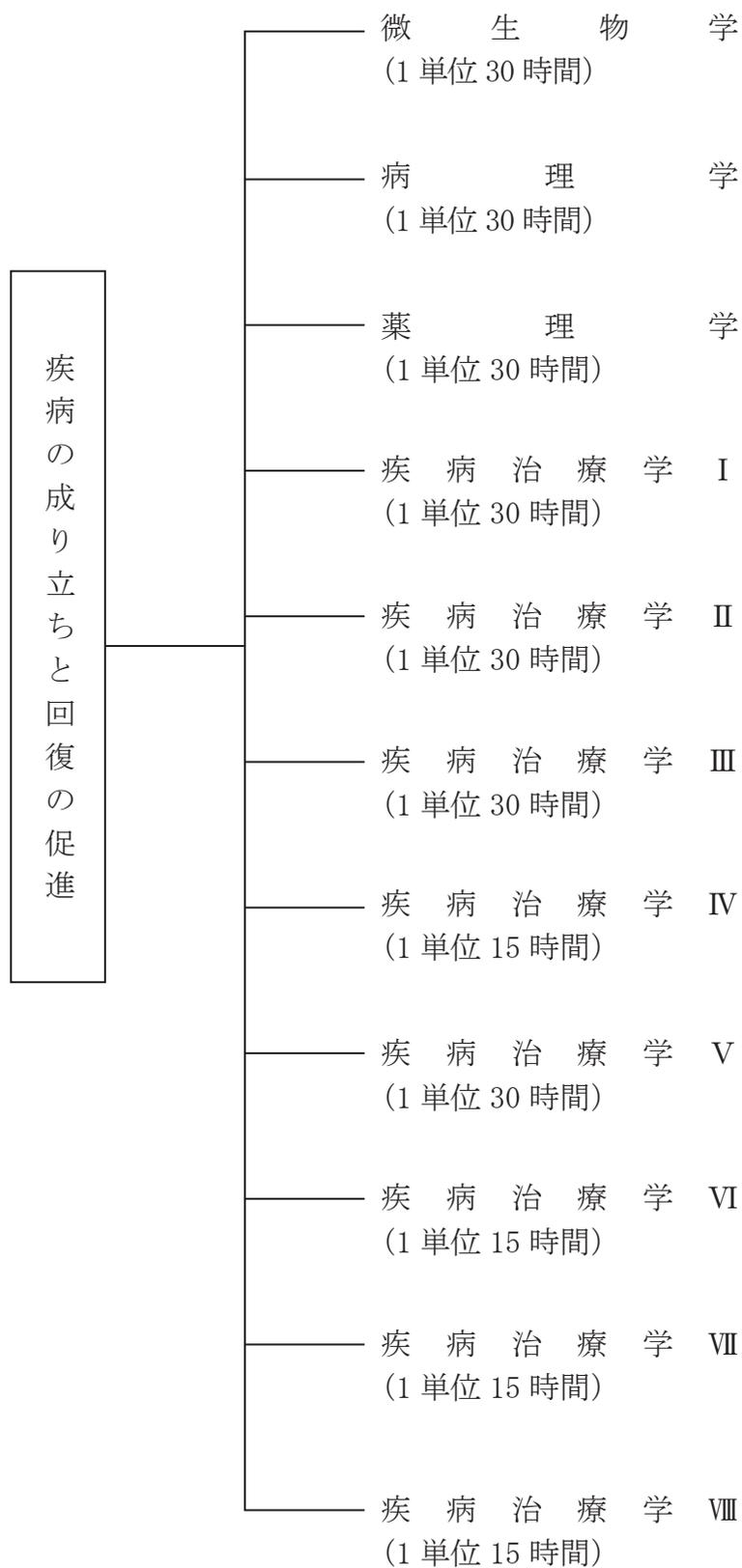
テキスト 畠山 鎮次：系統看護学講座 専門基礎 人体の構造と機能 [2] 生化学 医学書院 2019年
 小野 章史他：系統看護学講座 専門基礎 人体の構造と機能 [3] 栄養学 医学書院 2020年
 参考文献
 評価方法 テスト

【講義出席チェック】

回	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯
日時																
出席																

疾病の成り立ちと回復の促進

科目体系



科 目 名	微生物学
単 位 (時 間 数)	1 単位 (30 時間)
履 修 年 次	1 年次 前期
講 義 の 概 要	微生物学を学ぶことにより、微生物がどこにいて、どのようにしてヒトに感染し病気を起こすのか、それを治療し予防するにはどうしたらよいかなどを学ぶ。
目 標	健康を脅かす微生物の基礎知識を理解する。

講 義 内 容

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
1 2	1. 微生物の分布と人体	1) 微生物の分布と人体	講義	4	
3 4 5	2. 微生物の種類と特徴	1) 細菌 2) 真菌 3) ウイルス 4) 原虫	講義	6	
6 7 8	3. 感染経路と潜伏期間	1) 病原微生物の感染経路と潜伏期間	講義	6	
9 10 11	4. 化学療法と薬剤耐性	1) 病原微生物に対する化学療法と薬剤耐性	講義	6	
12 13	5. 予防処置と感染防御	1) 病原微生物に対する予防処置と感染防御	講義	4	
14	6. 病原体の検出法	1) 細菌学的検査法 2) ウイルス学的検査法 3) 真菌学的検査 4) 原虫学的検査	講義	2	
15		テスト		2	

テ キ ス ト	南嶋 洋一他：系統看護学講座 専門基礎 疾病のなりたちと回復の促進 [4] 微生物学 医学書院 2018 年
参 考 文 献	
評 価 方 法	テスト

【講義出席チェック】

回	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
日 時															
出 席															

科 目 名	病理学
単 位 (時 間 数)	1 単位 (30 時間)
履 修 年 次	1 年次 前期
講 義 の 概 要	<p>病理学は、病気の原因を追究し、病気になった患者の身体に生じている変化がどのようなものであるかを学ぶ。患者の病気の診断・検診及び病気の予防について学ぶ。</p> <p>病理学を知るとは、日常行っている看護活動の根拠となりうる。また、疾病の発生傾向や発生要因などについても理解することは、予防的視点から看護に取り組むことにつながる。</p>
目 標	疾病の原因や身体に生じる変化・メカニズムを理解する。

講 義 内 容

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
1 2	1. 病気の原因	1) 病気の原因 (1) 内因：素因遺伝・染色体異常 内分泌障害・免疫 (2) 外因：栄養障害 物理的・化学的 生物学的因子 (3) 医原病と公害病 2) 疾病の分類	講義	4	
3 4	2. 循環障害	1) 充血とうっ血 2) 側副循環 (1) 側副循環による障害 ① 門脈圧亢進症における側副循環 3) 出血 (1) 破綻性出血と濾出性出血 (2) 出血性素因の原因 4) 血液凝固と血栓症 (1) 止血の機序 (2) 血栓形成の機序 5) 虚血と梗塞 6) 塞栓症 7) 体液の調節障害 (1) 浮腫 (2) 脱水 (3) 電解質異常 8) ショック (1) ショックの原因・病態 (2) ショックの分類 9) 高血圧 (1) 二次性高血圧症の分類 (2) 高血圧の合併症	講義	4	
5	3. 炎症	1) 炎症とは	講義	4	

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
6		(1) 炎症の原因 (2) 炎症の症状 2) 炎症基本病変 3) 急性炎症のメカニズム 4) 急性炎症の種類 5) 炎症の経過に影響する因子 6) 慢性炎症と肉芽腫性病変 7) 炎症の全身への影響			
7 8	4. 代謝障害	1) 細胞の損傷と適応 2) 物質沈着 3) 脂質代謝障害と疾患 4) たんぱく質代謝障害と疾患 5) 糖質代謝障害と疾患	講義	4	
9 10	5. 免疫とアレルギー	1) 生体における免疫系の役割 2) アレルギーとは 3) アレルギーの分類 4) 自己免疫疾患 (1) 自己抗体 (2) 自己免疫疾患の分類 5) 免疫不全症 (1) 免疫不全の原因別分類 6) 移植と免疫 (1) 拒絶反応 (2) 組織適合抗原	講義	4	
11 { 13	6. 腫瘍	1) 腫瘍とは 2) 腫瘍の分類 (1) 悪性度による分類 (2) 組織発生による分類 3) 腫瘍の発生病理 (1) 腫瘍の発生機序 (2) 腫瘍の発生原因 4) 悪性腫瘍の転移と進行度 (1) 腫瘍の広がり (2) がんの進行度 (3) 腫瘍が宿主に及ぼす影響 5) 腫瘍の診断 (1) 細胞診検査と組織診検査 (2) 腫瘍マーカー	講義	6	
14	7. 先天異常	1) 先天異常とは (1) 先天異常の原因と分類 ① 個体発生と先天異常 ア) 遺伝障害 イ) 胎児障害 2) 遺伝子異常と疾患 3) 遺伝性疾患 (1) 遺伝性疾患とメンデルの法則 (2) 伴性 (劣性) 遺伝病の遺伝様式	講義	2	

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
	8. 老化と死	4) 染色体異常による疾患 5) 胎児の障害 (1) ヒト胚形成における催奇形物質に対する感受性 (2) 主な胎児障害の原因 1) 細胞の老化と個体の変化 2) 個体の死			
15		テスト		2	

テ キ ス ト 大橋 健一他：系統看護学講座 専門基礎 疾病のなりたちと回復の促進 [1] 病理学 医学書院 2021 年
田中 越郎：系統看護学講座 専門基礎 疾病のなりたちと回復の促進 [2] 病態生理学 医学書院 2016

参 考 文 献

評 価 方 法 テスト

【講義出席チェック】

回	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
日時															
出席															

科 目 名	薬理学
単 位 (時 間 数)	1 単位 (30 時間)
履 修 年 次	1 年次 後期
講 義 の 概 要	薬の基本的性質を理解し、患者に使われている薬物についての副作用を理解する。また、患者の病気の回復促進につながる援助の根拠を学ぶ。
目 標	1. 薬理学の基礎知識を理解する。 2. 健康障害に対する薬物療法の作用機序、人体への影響について理解する。

講 義 内 容

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
1 3	1. 薬理学の基礎知識	1) 薬物の分類 2) 薬物の吸収と代謝 3) 薬物の効果と有害作用	講義	6	
4 6	2. 治療薬とその特徴	1) 主な治療薬の種類と特徴 (1) 抗感染症薬 (2) 抗がん薬 (3) 免疫治療薬	講義	6	
7 8	3. 治療薬とその特徴	1) 主な治療薬の種類と特徴 (1) 抗アレルギー薬・抗炎症薬 (2) 末梢神経活動に作用する薬物 (3) 中枢神経作用薬	講義	4	
9 11	4. 治療薬とその特徴	1) 主な治療薬の種類と特徴 (1) 循環器系に作用する薬物 (2) 呼吸器に作用する薬物 (3) 消化器に作用する薬物	講義	6	
12 13	5. 治療薬とその特徴	1) 主な治療薬の種類と特徴 (1) 生殖器系に作用する薬物 (2) 物質代謝に作用する薬物 (3) 皮膚科用薬・眼科用薬 (4) 救急時の使用薬物	講義	4	
14	6. 薬物の取り扱い・消毒薬の種類と特徴	1) 薬物の取扱いと保管方法 2) 消毒薬の種類と特徴	講義	2	
15		テスト		2	

テ キ ス ト	岡 充弘：系統看護学講座 専門基礎 疾病のなりたちと回復の促進 [2] 薬理学 医学書院
参 考 文 献	
評 価 方 法	テスト

【講義出席チェック】

回	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
日時															
出席															

科 目 名	疾病治療学 I (治療総論)
単 位 (時 間 数)	1 単位 (30 時間)
履 修 年 次	1 年次 後期
講 義 の 概 要	放射線療法、麻酔、ペインコントロール、外科的治療の基礎、臨床検査について学び、看護援助の基礎知識とする。
目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 放射線による診断と治療について理解する。 2. さまざまな健康障害を治療するときに共通する麻酔とペインコントロール、外科的治療の基礎について理解する。 3. 臨床検査の基礎を理解する。

講 義 内 容

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
1 (3	1. 放射線による診断と治療	<ol style="list-style-type: none"> 1) 放射線とは <ol style="list-style-type: none"> (1) 放射線の医学利用 <ol style="list-style-type: none"> ①放射線の診断への応用 ②放射線の治療への応用 2) 放射線診断 <ol style="list-style-type: none"> (1) X線診断 <ol style="list-style-type: none"> ①マンモグラフィ ②消化管造影検査 ③X線CT (2) MRI (3) 超音波診断 (4) 核医学診断 (5) サーモグラフィ 3) 放射線治療 <ol style="list-style-type: none"> (1) 放射線の人体への影響 <ol style="list-style-type: none"> ①細胞に与える放射線の影響 <ol style="list-style-type: none"> ア) 放射線感受性 イ) 放射線量と細胞死 ②正常細胞に対する放射線の影響 <ol style="list-style-type: none"> ア) 正常組織の放射線感受性 イ) 放射線による正常組織の障害 ウ) 耐容線量 (2) 悪性腫瘍と放射線療法 <ol style="list-style-type: none"> ①悪性腫瘍の放射線感受性 ②治療可能比 ③照射方法 4) 放射線防護と管理 <ol style="list-style-type: none"> (1) 放射線防護に関わる病院の義務と医療従事者の権利・義務 (2) 放射線防護の基本と健康管理 <ol style="list-style-type: none"> ①X線診断時の防護 ②核医学診断時の防護 ③放射線治療時の防護 	講義	6	

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
4 5	2. 麻酔	1) 麻酔の役割 2) 麻酔科による術前管理 3) 麻酔の種類と概要 (1) 全身麻酔 ①前投薬と全身麻酔 ②麻酔の導入 ③気道確保法 ④麻酔中麻酔後の合併症 ⑤術中の管理 ⑥全身麻酔からの覚醒 (2) 伝達麻酔の種類と特徴	講義	4	
6 7	3. ペインコントロール	1) 痛みのメカニズム (1) 痛みとは (2) 痛みの分類 ①生体痛と内臓痛 ②誘因による痛みの分類 ③急性痛と慢性痛 2) 疼痛の発生機序 3) 癌性疼痛の成り立ち 4) 癌性疼痛のコントロール (1) WHOによる癌性疼痛治療法 ①WHO 3段階治療ラダー ②WHO癌疼痛治療法の原則 ③オピオイドについて (2) 癌性疼痛に対する神経ブロックの適応 (3) 硬膜外鎮痛について (4) 癌性疼痛に用いる基本薬	講義	4	
8) 11	4. 外科的治療の基礎	1) 手術侵襲と生体反応 (1) 手術侵襲の意味 (2) 手術侵襲に対する生体反応 2) 手術後の疼痛管理 (1) 術後疼痛のメカニズム (2) 術後疼痛が生体に及ぼす影響 (3) 術後鎮痛法の適応と利点・欠点 3) 後合併症 (1) 術後合併症の分類と予防 ①手術操作そのものに起因する合併症 ②手術侵襲に起因する合併症 ③術後管理に関連する合併症 4) 熱傷と治療 5) 創傷管理 (1) 創傷治癒過程 ①治癒段階と創部の変化 ②手術創部の合併症 (2) 創傷治癒に影響する因子 ①全身的因子 ②局所的因子 ・ 浸潤 温度 感染 酸素	講義	8	

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
		(3) 創部に対する消毒の功罪 (4) 創傷管理法 ①創傷治癒を目的とするドレッシング法の適用 6) ドレナーズの管理 (1) ドレナーズの種類と目的 (2) ドレナーズの合併症			
12 13	5. 臨床検査の基礎	1) 臨床検査とその役割 (1) 診療における臨床検査の役割 (2) 臨床検査の種類 (3) 臨床検査の評価 2) 検体の採取と保存 (1) 化学検査 (2) 免疫・血清検査 (3) ホルモン検査 (4) 微生物検査 (5) 病理検査 (6) 生理機能検査	講義	4	
14 15	6. 救急医療の概論と実際	1) 救急医療とは 2) 救急医療の現状 (1) 初期・2次・3次救急医療 (2) 救命救急センター (3) 広域救急医療情報 3) 救命救急士制度 4) 救急診断の重要性 (院内・院外) (1) 情報収集 (2) 診断の優先順位 (3) 診断の手順と判断 身体所見・病歴・検査所見 5) 救急医療の実際	講義	4	
16		テスト		2	

テ キ ス ト 矢永 勝彦編：系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院
香春 知永他：系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護学 [4] 臨床看護
総論 医学書院
尾尻 博也他：系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学 医学書院
渡辺 晋一他：系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学 [12] 皮膚 医
学書院
奈良 信雄編：系統看護学講座 別巻 臨床検査 医学書院

参 考 文 献 北村 聖編：臨床病態学 ヌーベルヒロカワ

評 価 方 法 テスト

【講義出席チェック】

回	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯
日時																
出席																

科 目 名	疾病治療学Ⅱ（呼吸器・感染症・循環器）
単 位（時 間 数）	1単位（30時間）
履 修 年 次	1年次 後期
講 義 の 概 要	さまざまな臨床の分野での代表的な疾病の診断・治療など、看護を行う上で不可欠な基礎的な知識について学び、健康障害を抱える対象の看護の展開に有機的に結びつけられるよう学ぶ。
目 標	1. 呼吸器系疾患の診断過程と治療について理解する。 2. 感染症の疾患の診断過程と治療について理解する。 3. 循環器系疾患の診断過程と治療について理解する。

講 義 内 容

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
1 (3	1.呼吸器系疾患の 診断過程と治 療	1) 呼吸器系の病態生理 (1) 換気障害 (2) 拡散障害 (3) 換気－血流比不均衡 (4) 右－左短絡 2) 呼吸器系の症状と概要 (1) 呼吸困難 ①自覚的呼吸困難感 ・人工呼吸時の呼吸困難感 ②他覚的呼吸困難の症状 (2) 肺性脳症 ① ハイポキシア ② CO ₂ ナルコーシス 3) 肺気腫 (1) 概念・病因・病態生理・発生 機序 (2) 診断過程 (3) 治療 ①重症度別標準治療 ・在宅酸素療法 4) 急性呼吸促迫症候群 (1) 概念・病因・病態生理・発生 機序 (2) 診断過程 (3) 治療 ①人工呼吸療法 ア) 間欠的陽圧呼吸 イ) 持続陽圧呼吸 ウ) PEEP ②人工呼吸療法の合併症	講義	6	
4 5		1) 肺癌 (1) 外科的治療 ①手術時の体位と開胸法 ②開胸アプローチ ③肺切除に伴う侵襲 (2) 胸腔ドレナージ	講義	4	

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
		①胸腔ドレナージの概要 ②胸腔ドレーンの管理 ア) ウォーターシール方式 イ) ボトル方式 ③抜管の基準 2) 気胸 (1) 診断過程 (2) 治療			
6 { 9	2. 感染症の診断過程と治療	1) 感染症とは (1) 感染のメカニズム 2) 生体防御と感染 (1) 非特異的防御機構 (2) 特異的防御機構 3) 感染症の診断 (1) 臨床における抗菌薬を選択するまでの基本的なアプローチ (2) 病原体の推定・決定 (3) 検体の採取・輸送 ①検体採取時の留意点 ②検体採取法と輸送 4) 感染症の治療 (1) 抗菌薬の選択に重要な指標 (2) 起炎病原体の推定、分離、同定 (3) 抗菌薬の薬動力学と体内動態 ①抗菌薬の組織移行性 ②薬剤の抗菌活性 ③抗菌薬投与法の設定 ア) 投与経路 イ) 投与間隔 ウ) 投与量 エ) 副作用、副現象 5) 主な疾患と治療 (1) 上気道感染症 ・かぜ症候群・インフルエンザ (2) 下気道感染症 ・肺炎・肺結核 (3) 心血管系感染症 ・感染性心内膜炎 (4) 消化管感染症 ・食中毒を主とした消化管感染症 (5) 皮膚軟部組織感染症	講義	8	
10 { 13	3. 循環器系疾患の診断過程と治療	1) 動脈硬化症 (1) 概要・病態生理 2) 虚血性心疾患 (1) 狭心症 ①概要・病因・病態生理・発生機序 ②診断過程 ア) 心臓カテーテル検査 イ) 運動負荷心電図 (2) 心筋梗塞 ①概要・病因・病態生理・発生機序	講義	8	

回	単元	学習内容	授業形態	時間	備考
		②診断過程 ③急性心筋梗塞の経過と合併症 ア) 心筋の状態 イ) 心電図の変化 ウ) 血中心筋逸脱酵素の変化 エ) 合併症の出現 (3) 治療 ①心臓カテーテル治療 (PCI) ②薬物治療 ③冠動脈バイパス術 (外科的治療) ④合併症の予防 ⑤心臓リハビリテーション 3) 不整脈 (1) 不整脈の原因 (2) 重症不整脈の心電図パターン ①頻脈型不整脈の心電図 ②徐脈型不整脈の心電図 (3) 不整脈の病態生理 (4) 治療 ①不整脈の薬物療法 ②電氣的除細動 ③ペースメーカー治療 4) 心不全 (1) 心不全の病態生理 (2) 心不全の治療			
14 15		1) 弁膜症 (1) 概要・病因・病態生理・発生機序 (2) 診断過程 (3) 外科的治療 ①人工弁置換術と管理 2) 虚血性心疾患における外科的治療 (1) 冠動脈バイパス術と管理	講義	4	
16		テスト		2	

テ キ ス ト 浅野浩一郎他：系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学〔2〕 呼吸器医学書院
 岩田健太郎他：系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学〔11〕 アレルギー膠原病 感染症 医学書院
 吉田 俊子他：系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学〔5〕 循環器医学書院

参 考 文 献
 評 価 方 法 テスト

【講義出席チェック】

回	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
日時															
出席															

科 目 名	疾病治療学Ⅲ（消化器・内分泌・代謝・免疫・アレルギー・血液・造血器）
単 位（時間数）	1単位（30時間）
履 修 年 次	1年次 後期
講 義 の 概 要	さまざまな臨床の分野での代表的な疾病の診断・治療など、看護を行う上で不可欠な基礎的な知識について学び、健康障害を抱える対象の看護の展開に有機的に結びつけられるよう学ぶ。
目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 消化器系疾患の診断過程と治療について理解する。 2. 内分泌・代謝系疾患の診断過程と治療について理解する。 3. 免疫・アレルギー系疾患の診断過程と治療について理解する。 4. 血液・造血器系疾患の診断過程と治療について理解する。

講 義 内 容

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
1 3	1. 消化器系疾患の 診断過程と治 療	<ol style="list-style-type: none"> 1) 慢性ウイルス性肝炎 <ol style="list-style-type: none"> (1) 概念・病因・病態生理・発生機序 <ol style="list-style-type: none"> ①黄疸の病態 (2) 診断過程 <ol style="list-style-type: none"> ①診断に必要な検査 <ol style="list-style-type: none"> ア) 肝機能検査 イ) 肝炎の病像とウイルスマーカー (3) 治療 <ol style="list-style-type: none"> ①インターフェロン療法 (4) 予防 2) 肝硬変 <ol style="list-style-type: none"> (1) 概念・病因・病態生理・発生機序 <ol style="list-style-type: none"> ①門脈圧亢進症の病態 <ol style="list-style-type: none"> ア) 腹水の発生機序 イ) 側副血行路の形成 ウ) 腹部臓器の鬱血（食道静脈瘤） エ) 肝性脳症の成因 (2) 診断過程 <ol style="list-style-type: none"> ①診断に必要な検査 (3) 治療 <ol style="list-style-type: none"> ①腹水の治療 ②食道静脈瘤に対する内視鏡的硬化療法 ③肝性脳症の治療 3) 膵炎（急性膵炎） <ol style="list-style-type: none"> (1) 病因・病態生理・発生機序 (2) 診断過程 <ol style="list-style-type: none"> ①診断に必要な検査 (3) 治療 	講義	6	
4 5		<ol style="list-style-type: none"> 1) 大腸癌 <ol style="list-style-type: none"> (1) 診断過程 <ol style="list-style-type: none"> ①診断に必要な検査 	講義	4	

回	単元	学習内容	授業形態	時間	備考
		ア)注腸造影 ②大腸癌の分類 (2) 外科的治療 ①手術方式と適応 ア)切除部位別に見た術後障害 ②人工肛門造設 ア)ストーマーの位置決定 2) 胃癌 (1) 診断過程 ①診断に必要な検査 ア)胃内視鏡検査 イ)上部消化管造影 ウ)造影剤と画像の関係 (2) 外科的治療 ①手術方式と適応 ②胃摘出に関連した諸問題 ア)ダンピング症候群の発生機序 イ)ビタミンB12の吸収			
6 8	2. 内分泌・代謝系疾患の診断過程と治療	1) 糖尿病 (1) 概要・病態生理・発生機序 (2) 診断過程 ①診断に必要な検査 (3) 治療 ①薬物療法 ②食事療法 ③運動療法 (4) 合併症 ①糖尿病性腎症 ア) 糖尿病性腎症のメカニズム イ) 糖尿病性腎症の発症と進展 ウ) 糖尿病性腎症の早期診断と治療 ②糖尿病性自律神経障害 ア) 糖尿病性自律神経障害の発症と進展 イ) 糖尿病性自律神経障害の病態と治療 ③糖尿病性網膜症 ア) 糖尿病性網膜症の発症と進展 イ) 糖尿病性網膜症の病態と治療 ④糖尿病性の急性合併症 ア) 低血糖昏睡の病態と治療 イ) ケトアシドーシスの病態と治療	講義	6	
9 10	3. 内分泌・代謝系疾患の診断過程と治療	1) 甲状腺疾患 (1) バセドウ病 ①バセドウ病の発生機序	講義	4	

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
		②診断過程 ア) 診断に必要な検査 ③治療 ア) ホルモン療法 (2) 甲状腺クリーゼ ①診断過程 ②治療 (3) 橋本病 ①発生機序 ②診断過程 ③治療 ア) ホルモン補充療法			
11 12	4. 免疫・アレルギー系疾患の診断過程と治療	1) 全身性エリテマトーデス (1) SLEの病態 (2) 臨床症状 (3) 診断過程 ①診断に必要な検査 ア) 免疫学的検査 ②全身性エリテマトーデス分類基準 (4) 治療 ①免疫抑制療法 ア) ステロイド療法の実際 ・経口剤投与方法 ・連日投与方法 ・間欠的投与方法 ・パルス療法 イ) 妊娠とステロイド療法 2) 関節リウマチ (1) 概要・病態・発生機序 (2) リウマチの症状 (3) 診断過程 ①診断に必要な検査 ②関節リウマチの診断基準 ③関節破壊の進行度の分類 (4) 治療 ①薬物を主とする基本的な治療 ア) リウマチ治療薬の選択法 ②手術療法	講義	4	
13 15	5. 血液・造血器系疾患の診断過程と治療	1) 白血病 (1) 白血病の病態 (2) 診断過程 ①診断に必要な検査 (3) 治療 ①化学療法 ②骨髄移植 2) 悪性リンパ腫 (1) 悪性リンパ腫の病態	講義	6	

回	単元	学習内容	授業形態	時間	備考
		(2) 診断過程 ①診断に必要な検査 ②病期診断 (3) 治療 3) 播種性血管内凝固症候群 (1) 病態・発生機序 (2) 診断過程 ①診断に必要な検査 (3) 治療 ①抗凝固療法 ②補充療法 ア) 主な輸血用血液製剤 イ) 輸血療法の基本的な考え方 ウ) 輸血の副作用			
16		テスト		2	

テキスト 飯野 京子他：系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学 [4] 血液・造血器 医学書院
 南川 雅子他：系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学 [5] 消化器 医学書院
 黒江 ゆり子他：系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学 [6] 内分泌・代謝 医学書院
 井手 隆文他：系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学 [11] アレルギー膠原病 感染症 医学書院

参考文献
 評価方法 テスト

【講義出席チェック】

回	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
日時															
出席															

科目名	疾病治療学Ⅳ（腎・泌尿器・生殖器）
単位（時間数）	1単位（15時間）
履修年次	2年次 前期
講義の概要	さまざまな臨床の分野での代表的な疾病の診断・治療など、看護を行う上で不可欠な基礎的な知識について学び、健康障害を抱える対象の看護の展開に有機的に結びつけられるよう学ぶ。
目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 腎臓系疾患の診断過程と治療について理解する。 2. 泌尿器系疾患の診断過程と治療について理解する。 3. 生殖器系疾患の診断過程と治療について理解する。

講 義 内 容

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
1 4	1. 腎臓系疾患の診断過程と治療	<ol style="list-style-type: none"> 1) 腎疾患の症状と病態生理 <ol style="list-style-type: none"> (1) 尿の異常 (2) 浮腫 (3) 高血圧 (4) 尿毒症 (5) 電解質異常や酸-塩基平衡異常に伴う症候 2) 診断と検査 <ol style="list-style-type: none"> (1) 腎臓病の診断について <ol style="list-style-type: none"> ①慢性腎臓病とは ②腎不全とは ③臨床症候群による糸球体腎炎の分類 ④病変部位・病理組織像・原因などに着目した分類 (2) 検査の意義と方法 <ol style="list-style-type: none"> ①尿検査 ②糸球体濾過機能の評価 ③尿細管機能検査 ④腎生検 <ol style="list-style-type: none"> ア) 腎生検の適応と禁忌 イ) 腎生検の方法と検査後管理 3) 急性腎不全 <ol style="list-style-type: none"> (1) 概要・病期と病態生理 (2) 診断過程： <ol style="list-style-type: none"> ①急性腎不全の鑑別 (3) 治療 4) 慢性腎不全 <ol style="list-style-type: none"> (1) 概要・病期・病態生理 (2) 臨床症状 (3) 診断過程 (4) 治療 <ol style="list-style-type: none"> ①保存療法 ②血液透析療法 <ol style="list-style-type: none"> ア) ブラッドアクセスの種類・管理 イ) 血液透析の原理 ③腹膜透析療法 	講義	8	

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
		ア) 腹膜透析の原理 5) ネフローゼ症候群 (1) 概要・病期・病態生理 ①蛋白尿のメカニズム ②浮腫のメカニズム (2) 診断過程 (3) 合併症と治療			
5 6	2. 泌尿器系疾患の 診断過程と治 療	1) 前立腺肥大 (1) 概要・病期・病態生理 (2) 診断過程 (3) 治療 ①薬物療法 ②手術療法 (4) 合併症と予後 2) 膀胱腫瘍 (1) 病因・病態生理 (2) 診断過程 (3) 治療 ①尿路変更術 3) 神経因性膀胱 (1) 概要・病期・病態生理 ①神経因性膀胱の分類 ②病態生理 ア) 排尿に関する中枢神経系の役 割 イ) 排尿に関する抹消神経系の役 割 ③診断過程 ④治療 4) 腎移植 (1) 腎移植の適応 (2) ドナーの選択 (3) 免疫抑制療法	講義	4	
7 8	3 生殖器系疾患 の診断過程と 治療	1) 乳がん (1) 概要・病期・病態生理 (2) 診断過程 ①乳房異常をきたす主な疾患と 症状 ②乳房の自己診断法 (3) 治療 ①手術療法 ア) 手術療法の適応と特徴 イ) 乳房切除術とドレナージ ウ) 乳房再建術 ②ホルモン療法	講義	4	・男性の 乳癌の 発症に ついて も学習 する。
9		テスト		1	

テキスト 今井 亜矢子他：系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学 [8] 腎・泌尿器 医学書院
 末吉 浩他：系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学 [9] 女性生殖器 医学書院
 参考文献
 評価方法 テスト

【講義出席チェック】

回	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
日時									
出席									

科 目 名	疾病治療学V (脳・神経・運動器・眼・皮膚・歯科・口腔・耳鼻咽喉)
単 位 (時 間 数)	1単位 (30時間)
履 修 年 次	2年次 前期
講 義 の 概 要	さまざまな臨床の分野での代表的な疾病の診断・治療など、看護を行う上で不可欠な基礎的な知識について学び、健康障害を抱える対象の看護の展開に有機的に結びつけられるよう学ぶ。
目 標	1. 脳・神経系疾患の診断過程と治療について理解する。 2. 運動器系疾患の診断過程と治療について理解する。 3. 眼・皮膚・歯科・口腔・耳鼻咽喉疾患の診断過程と治療について理解する。

講 義 内 容

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
1) 5	1.脳・神経系疾患の診断過程と治療	1) 脳血管障害 (1) 概念・病因・病態生理・発生機序 ①くも膜下出血 ②脳内出血 ③脳梗塞 (2) 診断の過程 ①意識障害患者に対する神経学的診察 ②診断に必要な検査 ア) 脳脊髄液検査 (腰椎穿刺) (3) 治療 ①くも膜下出血の外科的治療 ②脳室・脳槽ドレナージの設定方法と管理 ③抗血栓療法 ④脳内出血急性期の保存的治療 ⑤頭蓋内病変が原因となる意識障害の治療 2) 脳腫瘍 (1) 概念・病因・病態生理・発生機序 (2) 診断過程 (3) 治療 3) 脳神経の変性疾患 (1) パーキンソン病 ① 概念・病因・病態生理・発生機序 ② 診断過程 ③ 治療 ア) パーキンソン病治療薬の作用・副作用 (2) 筋萎縮性側索硬化症 ① 概念・病因・病態生理・発生機序 ② 診断過程	講義	10	

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
		③ 治療と予後 (3) アルツハイマー病 ①概念・病因・病態生理・発生機序 ②診断過程 ・アルツハイマー型認知症と脳血管性認知症の鑑別 ③治療と予後			
6 { 8	2. 運動器系疾患の 診断過程と治療	1) 運動器系の症状と病態生理 (1) 形態の異常 (1) 関節運動の異常 ①関節拘縮 ②関節強直 ③動揺関節 2) 骨折 (1) 骨折の分類 (2) 骨折治癒の病態生理 (3) 骨折の治療 ①整復 ②固定 ア) 外固定 ・ギプス包帯法 ・牽引療法 ・骨接合術 ・機能的装具療 ③後療法 3) 大腿骨近位部骨折 (1) 病態生理 (2) 診断過程 ①診断に必要な検査 (3) 治療 ①手術療法 4) その他の骨折、脱臼 (1) 病態生理 (2) 診断過程 ①診断に必要な検査 (3) 治療 5) 筋・腱・靭帯の損傷 (1) 病態生理 (2) 診断過程 ①診断に必要な検査 (3) 治療 ①手術療法 ②腱損傷後のリハビリテーション 6) 脊椎の疾患 (1) 病態生理 (2) 診断過程 ①診断に必要な検査 (3) 治療 ①手術療法 7) 脊髄損傷 (1) 病態生理 (2) 診断過程 (1) 治療 8) 骨腫瘍 (1) 病態生理 (2) 診断過程 (3) 治療	講義	6	

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
9 10	3. 眼疾患の診断過程と治療	1) 屈折、調節の異常 (1) 屈折異常 (2) 調節障害 (老視と調節麻痺) 2) 結膜の病気 (1) 流行性角結膜炎 (2) アレルギー性結膜炎 3) 角膜の病気 4) 水晶体の病気 白内障 5) 網膜の病気 (1) 糖尿病性網膜症 6) 緑内障	講義	4	
11	4. 皮膚疾患の診断過程と治療	1) アトピー性皮膚炎 2) 脂漏性皮膚炎 3) 蕁麻疹 4) 皮膚感染症 (1) 白癬 (2) 疥癬 (3) 単純ヘルペス 5) 皮膚癌	講義	2	
12 13	5. 歯科・口腔疾患の診断過程と治療	1) 歯の異常と疾患 (1) う蝕・歯随疾患の病態 (2) 診断過程 (3) 治療 2) 歯周組織の疾患 (1) 病態生理、診断過程、治療 3) 口唇・口蓋裂 (1) 病態生理、診断過程、治療 4) 顎関節の疾患 (1) 病態生理、診断過程、治療 5) 唾石症 (1) 病態生理、診断過程、治療	講義	4	
14 15	6. 耳鼻咽喉疾患の診断過程と治療	1) 耳疾患 (1) 外耳炎 (2) 中耳炎 (3) 突発性難聴 (4) メニエール病 2) 鼻疾患 (1) アレルギー性鼻炎 (2) 副鼻腔炎 (3) 上顎癌 3) 咽頭疾患 (1) 扁桃炎 (2) 声帯ポリープ (3) 唾液腺腫瘍	講義	4	
16		テスト		2	

テキスト 渡辺 晋一他：系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学 [12] 皮膚
 医学書院
 大鹿 哲郎他：系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学 [13] 眼 医学
 書院
 小松 浩子他：系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学 [14] 耳鼻咽喉
 医学書院
 渋谷 絹子他：系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学 [15] 歯・口腔
 医学書院
 井手 隆文他：系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学 [7] 脳・神経
 医学書院

参考文献
 評価方法 テスト

【講義出席チェック】

回	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯
日時																
出席																

科 目 名	疾病治療学VI (小児に特有な疾病と治療)
単 位 (時 間 数)	1 単位 (15 時間)
履 修 年 次	2 年次 前期
講 義 の 概 要	小児に特有な疾病の診断・治療など、看護を行う上で不可欠な基礎的な知識について学び、小児の成長発達段階をふまえ、健康障害を抱える対象の看護の展開に有機的に結びつけられるような内容とした。
目 標	小児に特有な疾患の診断過程と治療について理解する。

講 義 内 容

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
1	1. 出生前の疾患	1) 染色体異常 (1) 常染色体異常 (2) 性染色体異常	講義	2	
2	2. 循環器疾患	1) 先天性心疾患 (1) 主な疾患の病態 ①心室中隔欠損 ②心房中隔欠損 ③ファロー四徴 (2) 診断過程 (3) 治療 2) 川崎病 (1) 疾患の病態 (2) 診断過程 (3) 治療過程 (4) 予後と治療	講義	2	
3 4	3. 感染症 4. 呼吸器疾患 5. 免疫・アレルギー性疾患	1) 主な感染症 (1) ウイルス性感染症 (2) 細菌感染症 (3) 真菌感染症 2) 上気道の疾患 3) 気管支・肺疾患 4) 気管支喘息 (1) 気管支喘息の病態 (2) 気管支喘息の疫学 (3) 急性発作時の治療 (4) 非発作時の予防治療 5) 食物アレルギー (1) 定義・分類 (2) 食物アレルギーの疫学 (3) 症状 (4) 診断過程 (5) 治療	講義	4	
5	6. 神経・筋疾患	1) 脳性麻痺 (1) 原因と分類 (2) 症状 ①痙攣性 ②舞踏病アテトーシス型	講義	2	

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
		③運動失調型 ④混合型 (3) 診断過程 (4) 予後と治療 ①理学療法 ②作業療法 ③痙攣に対する治療 ④筋緊張に対する治療			
6	7. 未熟児・新生児の疾患	1) 新生児の異常 (1) 新生児仮死 (2) 分娩外傷 (3) 高ビリルビン血症 2) 低出生体重児の疾患 3) 未熟児の疾患 4) 成熟異常 5) 乳幼児突然死症候群	講義	2	*テキスト、「母性看護学各論」を使用する。
7	8. 消化器疾患	1) 口腔疾患（唇裂、口蓋裂） 2) 肥厚性幽門狭窄症 3) 腸重積症 4) 直腸肛門奇形（鎖肛） 5) ヒルシュスプルング病	講義	2	
8	9. 腎尿路疾患	1) 泌尿器・生殖器の奇形 2) 腎糸球体疾患 3) 腎尿細管疾患	講義	2	
9		テスト		1	

テ キ ス ト 奈良間 美保他：系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学〔2〕 小児臨床看護各論 医学書院
 森 恵美他：系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学〔2〕 母性看護学各論 医学書院
 参 考 文 献
 評 価 方 法 テスト

【講義出席チェック】

回	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
日時									
出席									

科 目 名	疾病治療学Ⅶ（女性に特有な疾病と治療）
単 位（時 間 数）	1単位（15時間）
履 修 年 次	2年次 後期
講 義 の 概 要	母性看護学の対象である女性の特徴を捉え、内分泌環境変化の時期である女性の健康障害と検査、治療について学ぶ。
目 標	1. 女性に特徴的な機能について理解する。 2. 女性ライフサイクルにおける健康上の課題について理解する。 3. 女性生殖器系疾患の診断過程と治療について理解する。

講 義 内 容

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
1 (4	1. 妊娠期の異常 2. 分娩期の異常 3. 産褥期の異常	1) ハイリスク妊娠 2) 妊娠悪阻 3) 妊娠高血圧症候群 4) 血液型不適合妊娠 5) 妊娠性糖尿病 6) 多胎妊娠 7) 流産・早産・切迫早産 8) 前置胎盤 9) 常位胎盤早期剥離 1) 胎児ジストレス 2) 帝王切開術 3) 弛緩出血 4) 軟産道の損傷 1) 子宮復古不全 2) 貧血 3) 乳腺炎 4) 産褥熱 5) マタニティーブルー 6) 痔核	講義	8	
5	4. 不妊症の診断過程と治療	1) 不妊症 (1) 不妊症の原因と検査・治療	講義	2	
6 7	5. 女性生殖器系疾患の診断過程と治療	1) 月経異常・月経随伴症状 (1) 無月経 (2) 月経困難症 2) 性感染症 (1) 梅毒 (2) 淋疾 (3) 尖圭コンジローマ (4) クラミジア感染症 3) 子宮内膜症 4) 子宮がん (1) 概要・病期・病態生理 (2) 診断過程 (3) 治療	講義	4	
8	テスト			2	

テキスト 森 恵美他：系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学〔2〕 母性看護学
 各論 医学書院
 末吉 浩他：系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学〔9〕 女性生殖器
 医学書院
 参考文献
 評価方法 テスト

【講義出席チェック】

回	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
日時								
出席								

科 目 名	疾病治療学Ⅷ（主な精神疾患の診断過程と治療）
単 位（時 間 数）	1単位（15時間）
履 修 年 次	2年次 前期
講 義 の 概 要	主な精神疾患の精神症状の現れ方の特徴と疾病の原因、診断、治療など、看護を行う上で不可欠な基礎的な知識について学び、健康障害を抱える対象の看護の展開に有機的に結びつけられるよう学ぶ。
目 標	精神疾患の診断過程と治療について理解する。

講 義 内 容

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
1	1. 精神疾患の理解	1) 精神（心）の働きと精神症状・状態像：障害をもつ人の症状と診断のための検査 (1) 精神障害をもつ人の抱える症状 (2) 精神科的診察 ①診察 ②一般検査、画像検査 ③心理検査 2) 精神疾患/障害の診断基準・分類	講義	2	
2 3 4	2. 主な疾患の診断過程と治療	1) 脳器質性精神病 2) 症状精神病 3) 統合失調症 (1) 統合失調症とは (2) 統合失調症の成因 (3) 症状の現れ方 (4) 経過と予後・治療 4) 気分障害（双極性障害・うつ病） (1) 気分障害とは (2) 躁うつ病の成因 (3) 症状の現れ方 (4) 経過と予後・治療	講義	6	
5 6		5) てんかん (1) てんかんとは (2) てんかん発作型 (3) てんかんと精神症状 (4) てんかんの検査・治療 6) 神経症と心因精神病 (1) 発生機序 (2) 診断過程 (3) 治療 7) 社会とメンタルヘルス (1) アルコール依存症 ①アルコール依存症とは ②発症要因・発症のメカニズム ③経過と症状 ④治療	講義	4	

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
		(2) 人格障害 (3) PTSD (4) 摂食障害 8) 児童・思春期に起こりやすい精神障害			
7	3 主な治療法	1) 主な精神障害の治療 (1) 薬物療法 (2) 電気ショック療法 (3) 社会復帰療法 (4) 精神療法 (5) 行動療法 (6) 活動療法 (7) 環境療法	講義	2	
8		テスト		1	

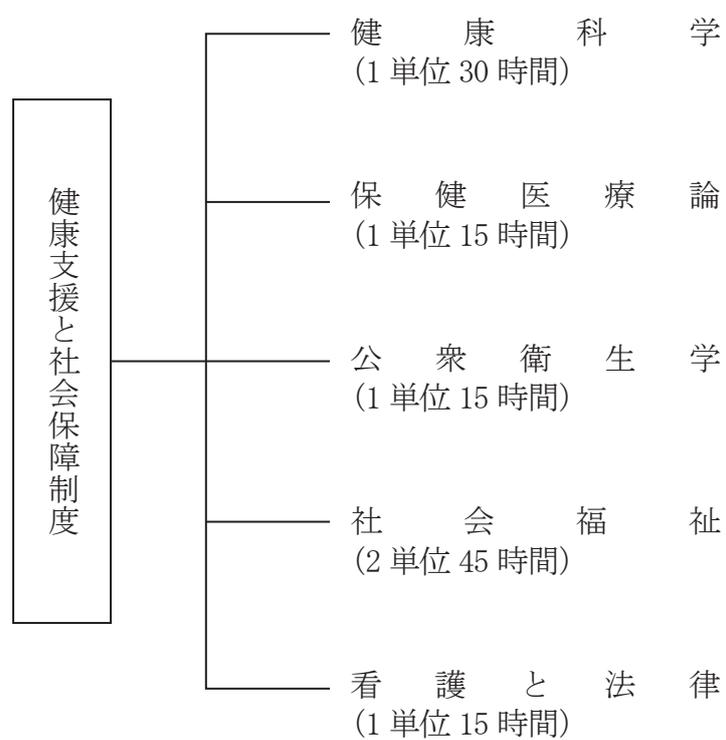
テ	キ	ス	ト	岩崎 弥生編：新体系看護学全書、精神看護学②、精神障害をもつ人の看護 メジカルフレンド社 2020
参	考	文	献	武井 麻子他：系統看護学講座 専門Ⅱ 精神看護学 [1] 精神看護の基礎 医学書院 川野雅資編：精神看護学Ⅱ ニューブルヒロカワ
評	価	方	法	テスト

【講義出席チェック】

回	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
日時								
出席								

健康支援と社会保障制度

科目体系



科 目 名	健康科学
単 位 (時 間 数)	1 単位 (30 時間)
履 修 年 次	2 年次 前期～後期
講 義 の 概 要	時代の変化に応じて健康の概念や人々の健康に対する捉え方が変化している。ヘルスプロモーションの概念を取り入れた健康教育が重要な位置を占めている。そこで現在の健康教育のあり方やその考えを学ぶ。
目 標	1. 人々の健康保持増進するための健康教育の目的や方法について理解する。 2. 自分自身の健康に関心を持ち、健康教育の技法を身につける。

講 義 内 容

回	単 元	学 習 内 容	授 業 形 態	時 間	備 考
1 { 4	1. 健康の指標	1) 健康政策 2) 健康に影響する因子 3) 健康教育 (1) 健康教育の目的 (2) 健康教育とヘルスプロモーションとの関係 4) 健康教育と行動変容 (1) 保健行動の意味 (2) 保健行動の変容 (3) 健康行動に影響する因子 5) 健康教育の内容 (1) 健康教育の対象とその選択 (2) 健康教育の方法 (3) 健康教育の計画立案 (4) 健康教育の評価	講義	8	・各看護学概論で学んだ健康の概念について想起する。
5 { 14	2. 健康教育の実際	1) 健康問題を設定する。 (1) テーマ：生活習慣病予防のための健康づくりを考える。 (2) 身近な生活習慣を捉え、グループで健康問題を設定する。 例：健康とスポーツ習慣の関係 健康のための運動、日常生活と健康 2) 健康指標となるものを活用して目標を設定する。 「健康日本21」の目標：身体活動・活動の目標 3) 計画立案する。 4) 健康行動を実行する。 5) 健康教育の評価	講義 演習 (グループワーク)	2 18	・「生活とスポーツ」で行われた体力測定とその評価及び健診結果等を参考にテーマを考える。 ・「健康日本21」を想起する。
15		テスト		2	

テ キ ス ト	松本 千明：医療・保健スタッフのための健康行動理論の基礎 医歯薬出版 2002
参 考 文 献	後閑 容子他：健康科学概論 ニューベルヒロカワ 2003
評 価 方 法	テスト、演習課題で評価する。

【講義出席チェック】

回	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
日時															
出席															

回	単元	学習内容	授業形態	時間	備考
5 6	3. わが国の医療と 経済 4. 保健医療と倫理	1) 診療報酬のしくみ (1) 診療報酬とは (2) 診療報酬のしくみ 2) 保健医療と倫理 (1) 医療倫理とは ①世界医師：ジュネーブ宣言 ②ニュールンベルク綱領 ③ヘルシンキ宣言 ④アメリカ病院協会 「患者の権利章典」とわが国の医 療法との関連 (2) リスボン宣言 3) インフォームドコンセントとQOL	講義	4	
7	5. 沖縄の保健医療 の現状	1) 沖縄県の保健医療計画と今後の課題 (1) 長寿崩壊の危機 (2) 生活習慣病予防 (3) 住民の食生活などの見直し (4) 医療従事者の確保・離島医療	講義	2	
8		テスト		1	

テ キ ス ト 小泉 俊三他：系統看護学講座 専門基礎 健康支援と社会保障制度
[1] 総合医療論 医学書院 2013

参 考 文 献

評 価 方 法 テスト

【講義出席チェック】

回	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
日時								
出席								

科 目 名	公衆衛生学
単 位 (時 間 数)	1 単位 (15 時間)
履 修 年 次	2 年次 後期
講 義 の 概 要	公衆衛生の目的は、生活者のさまざまな健康について学び、健康で活力ある福祉社会を作り上げることにある。公衆衛生の活動において、個々の疾病予防に対する自然環境へのアプローチとともに社会や経済、文化・風俗、習慣など人間の行動や生活習慣に着目する社会的環境へのアプローチを学ぶ。
目 標	国民の健康に関する状況と生活環境を学び、人々が健康を享受するために望ましい制度や組織活動を理解するとともに医療専門職の役割を理解する。

講 義 内 容

回	単 元	学 習 内 容	授 業 形 態	時 間	備 考
1	1. 健康と公衆衛生	1) 健康と公衆衛生 (1) 公衆衛生のあゆみ	講義	2	
2 3	2. 疫学と健康	1) 健康に関する指標 (1) 保健統計の基本的な考え方 (2) 人口の動向 (3) 人口の動向把握と必要な指標 2) 疫学調査 (1) 疾病の多発とその原因 (2) 疾病予防対策 (3) 疾病予防と疫学調査法 3) 保健行政	講義	4	
4	3. 環境と公衆衛生	1) 人間と生活環境 2) 健康問題と環境	講義	2	
5 { 7	4. 公衆衛生の活動	1) 公衆衛生の対象と活動 (1) 保健所・保健センターにおける活動 (2) 母子保健 (3) 地域保健 (4) 学童期の健康管理 (5) 生活習慣病予防 (6) 感染症とその予防 (7) 職場の健康保健 (8) 難病対策	講義	6	
8		テスト		1	

テ キ ス ト	神馬 征峰他：系統看護学講座 専門基礎 健康支援と社会保障制度 [2] 公衆衛生 医学書院 2019 国民衛生の動向 厚生労働統計協会 2019 - 2020
参 考 文 献	柳川 洋 編：公衆衛生マニュアル 2020 南江堂
評 価 方 法	テスト

【講義出席チェック】

回	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
日時								
出席								

科 目 名	社会福祉
単 位 (時 間 数)	2単位 (45時間)
履 修 年 次	2年次 後期
講 義 の 概 要	国民の最低限生活を保障する社会保障制度、社会的な援護を要する者への支援を行う社会福祉制度がある。社会保障、社会福祉制度は、高齢化の急速な進行と年金制度の成熟化、介護保険制度の創設などにより、誰もが必ずかかわりをもつ普遍的な制度として意識されるようになった。生活者の健康を保障する社会の制度を理解し、看護を提供する上で社会資源を活用する能力の基礎知識を学ぶ。
目 標	1. 社会保障制度と社会福祉の基本的な考え方を理解する。 2. 保健、医療、福祉の連携の意義、社会資源の活用方法を理解する。

講 義 内 容

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
1	1. 社会保障制度と社会福祉の概要	1) 社会保障の定義と概念 2) 社会保障の体系 (1) 社会保険 (2) 公的扶助 (3) 社会福祉 (4) 公衆衛生および医療 3) 社会保障の内容 (1) 所得保障 (2) 医療保障 (3) 社会福祉サービス	講義	2	
2 3	2. 社会福祉の法制度の概要	1) 社会福祉の法制度 (1) 社会福祉の法制度の歴史的展開 (2) 社会福祉サービスの内容と社会福祉のしくみ (3) 社会福祉法と福祉6法 ・生活保護法 ・児童福祉法 ・身体障害者福祉法 ・知的障害者福祉法 ・老人福祉法 ・母子及び寡婦福祉法 2) 社会福祉の組織と実施体制 3) 社会福祉の従事者と担い手	講義	4	
4	3. 現代社会の変化と動向	1) 現代社会の変化 2) 社会保障・社会福祉の動向	講義	2	
5 { 7	4. 医療保障	1) 医療保障制度の沿革 2) 医療保障制度の構造と体系 (1) 医療保障制度の類型 (2) 我が国の医療保障制度の特徴 3) 健康保険と国民健康保険 4) 高齢者医療制度 5) 保険診療のしくみ 6) 公費負担医療	講義	6	

回	単元	学習内容	授業形態	時間	備考
8) 10	5. 介護保障	1) 介護保険制度の創設背景と介護保障の歴史 2) 介護保険制度の概要 (1) 制度の基本理念 (2) 保険者・被保険者 (3) 要介護・要支援の認定と保険給付 ① 給付の種類 ② 介護給付 ③ 居宅サービス ④ 施設サービス ⑤ 予防給付 ⑥ 被保険者の自己負担 (4) 保険給付の手続きとサービス開始の流れ 3) 介護保険制度の課題と展望	講義	6	
11 12	6. 所得保障	1) 年金保険制度 2) 社会手当 (1) 児童手当 (2) 児童扶養手当 ① 特別児童扶養手当 (3) 障害者手当 3) 労働保険制度 (1) 雇用保険制度 (2) 労働者災害補償制度	講義	4	
13 14	7. 公的扶助	1) 貧困・低所得問題と公的扶助制度 2) 生活保護制度 (1) 生活保護法の目的・原理・原則 (2) 生活保護の種類 (3) 生活保護における権利・義務関係 (4) 保護の決定と実施 (5) 生活保護の現状と課題 3) 低所得対策 4) 公的扶助の近年の動向	講義	4	
15) 19	8. 社会福祉の分野とサービス	1) 高齢者福祉 (1) 高齢者の生活問題 (2) 老人福祉の沿革 (3) 老人福祉施策 (4) 老人保健施策 (5) 老人保健福祉施策 2) 障害者福祉 (1) 障害者福祉の発展の経過 (2) 障害者福祉の最近の動向 (3) 障害者の定義と実態 (4) 障害者福祉施策 (5) 障害者の就労補償 (6) 障害者の福祉の独自の課題	講義	10	

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
		(7) 障害者自立支援法 (8) 障害者自立支援法の課題 3) 児童福祉 (1) 少子高齢社会と児童福祉 (2) 児童福祉とは (3) 児童福祉の施策の現状 4) 母子及び寡婦福祉法 5) 現代における母子家庭、父子家庭の課題			
20) 23	9. 社会福祉実践と 医療・看護 10, 保健医療福祉と 看護の接点	1) 社会福祉援助とは 2) 社会福祉援助の検討課題 3) 連携の重要性 4) 社会福祉実践と医療・看護との連携 5) 連携の場面とその方法 1) 保健医療福祉にかかわる考え方の 変化 2) 保健医療福祉行政 (1) 保健医療・福祉行政の特徴 (2) 保健福祉計画 (3) 社会福祉の民間活動	講義	8	
24		テスト		2	

テ キ ス ト 福田 素生他：系統看護学講座 専門基礎 健康支援と社会保障制度
[3] 社会福祉 医学書院 2021
参 考 文 献 福祉の動向、国民衛生の動向
評 価 方 法 テスト

【講義出席チェック】

回	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
日時															
出席															
回	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓							
日時															
出席															

科 目 名 看護と法律

単 位 (時 間 数) 1 単 位 (15 時 間)

履 修 年 次 3 年 次 後 期

講 義 の 概 要 医療に関連する法の基礎知識、看護職に必要な法規を学び、専門職業人として法的責任を自覚した行動が取れるための基礎知識を学ぶ。

目 標 1. 看護に関連する法規を理解し、法的責任を自覚する。
2. 社会生活と法をつながりを理解する。

講 義 内 容

回	単 元	学 習 内 容	授 業 形 態	時 間	備 考
1 4	1. 法規の概念と医 事法規	1) 法の種類 2) 厚生労働省の任務 3) 保健師助産師看護師法 4) 医師法 5) 医療法	講義	8	
5 6		1) その他の関連法規 (1) 労働基準法 (2) 労働安全衛生法 (3) その他の労働関係法規	講義	4	
7	2. 医療過誤	1) 看護実践で生じる法的問題と責任	講義	2	
8		テスト		1	

テ キ ス ト 系統看護学講座 専門基礎 健康支援と社会保障制度 [4] 看護関係法令：医学書院

参 考 文 献

評 価 方 法 テスト

【講義出席チェック】

回	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
日時								
出席								

專 門 分 野 I

基礎看護学

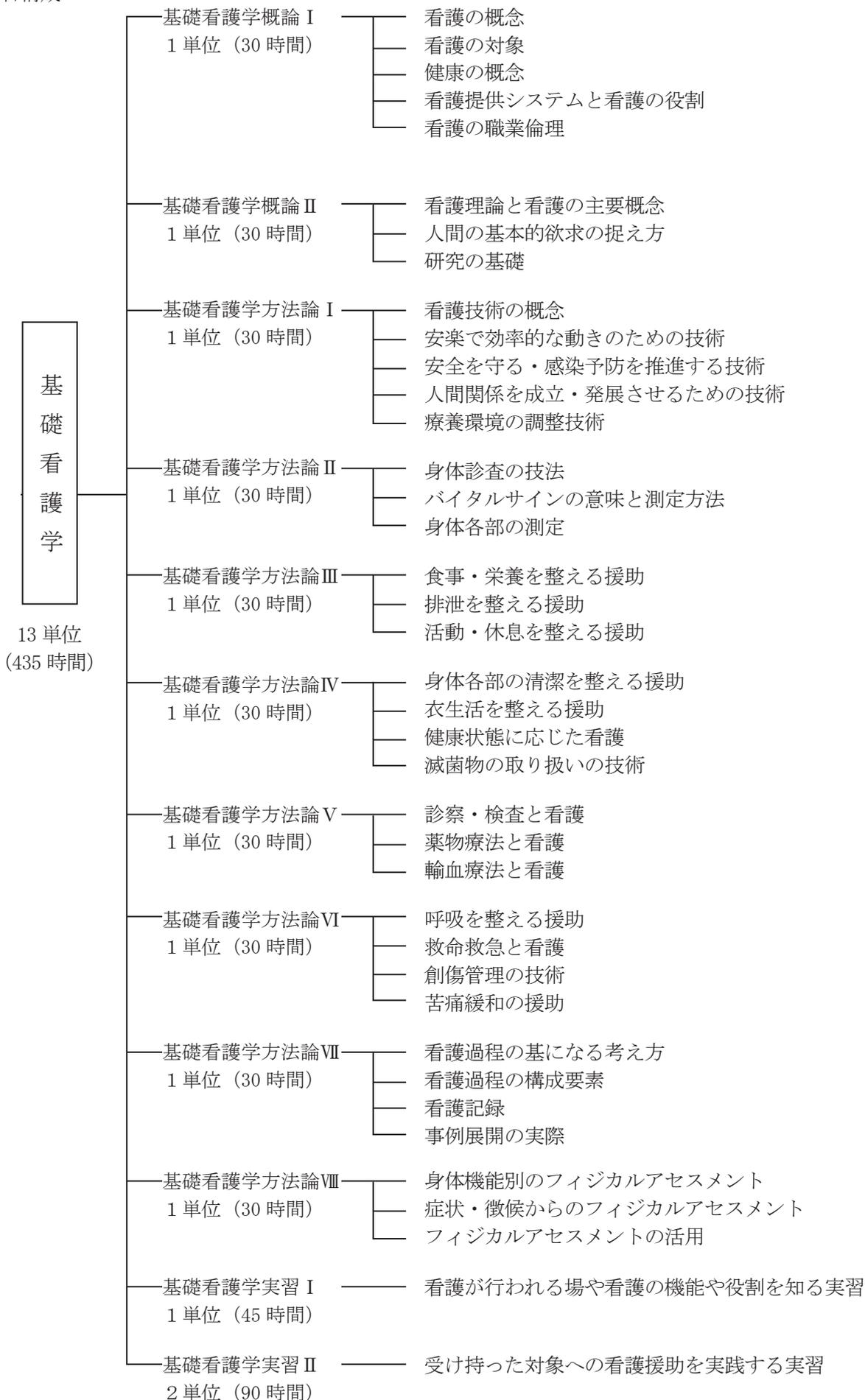
目 的

看護の基本となる概念や保健医療福祉活動における看護の役割を理解し、看護を实践する基礎となる知識・技術・態度を養う。

目 標

1. 看護の対象である人々を共感的に理解し、援助関係を築く基本的態度を身につける。
2. 看護の対象であるあらゆる健康状態の人々とその家族を生活者の視点で理解する。
3. 人々の健康上の課題に対応するために必要な基礎的知識・技術・態度を身につける。
4. 保健医療福祉チームにおける看護の役割や多職種との協働の意義を理解する。
5. 基礎看護学と他専門分野との関連性を理解し、看護に必要な主体的学習姿勢を身につける。

科目構成



13 単位
(435 時間)

科 目 名 基礎看護学概論 I

単 位 (時 間 数) 1 単位 (30 時間)

履 修 年 次 1 年次 前期

講 義 の 概 要 看護学概論は、すべての看護学の基盤となる科目であることを前提にし、看護とは何かを考える科目である。講義では「看護とは」を軸にし、対象である「生活者としての人間」、看護実践の目的である「人間の健康」について、そして人々の健康課題を解決していくための「看護提供システム」、および看護実践に伴う「看護倫理」などを学び、自己の「看護観」を培う。

目 標 1. 看護の基本となる概念について理解する。
2. 看護の対象である人間のさまざまな見方を知り、対象を統合体として捉える意味を理解する。
3. 健康の概念について理解する。
4. 看護提供システムを通して、保健医療福祉チームにおける看護職者の役割を理解する。
5. 講義・演習を通して自己の看護観を培う。

講 義 内 容

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備 考
1	1. 看護の概念	1) 看護を学ぶに当たって 2) 看護師という職業の魅力	講義 演習	2	協同学習について 事例検討
2		3) 看護の定義 4) 看護の本質 (1) 看護の歴史と看護教育制度 (2) 看護を支える理論 (看護理論家が示す看護) ①ヘンダーソン ②オレム ③ナイチンゲール	講義	2	
3		5) 看護の動向と展望 (1) 今の看護の現状 (2) 今後に向かって 地域包括ケアについて	講義	2	
4	2. 看護の対象	1) 看護の対象を学ぶ視点 (1) 人間の「こころ」と「からだ」 ①ホメオスタシスという体の反応 ②ストレスについて ③患者心理の理解	講義	2	
5		(2) 生涯発達し続ける存在としての人間 ①人間の身体的発育の特徴 ②心理・社会的側面における発達 ・人間の発達段階と課題 ・ライフサイクルから見た人間の発達	講義	2	
6			講義	2	

回	単元	学習内容	授業形態	時間	備考
7		(3) 人間の暮らしの理解 ①生活と暮らし ②生活者としての人間 2) 統合体としての人間 3) 生活、家族、地域を視野に入れた看護活動 4) 教育目標の理解 「看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的に統合された生活者とは」を理解する	演習	2	
8	3. 健康の概念	1) 健康のとらえ方 (1) WHOの健康概念 (2) 生活者としての健康 2) 保健医療の視点から見た健康状態 (1) 健康の保持・促進、疾病予防の段階 (2) 健康の急激な破綻から回復の段階 (3) 健康の慢性的な揺らぎの再調整を必要とする段階 (4) 障がいのある状態とリハビリテーションを行う段階 (5) 人生最期のとき	講義	2	
9		3) 健康に影響を与えている生活要因 (1) 自身の1週間の生活を記録する(タイムスタディ) (2) タイムスタディから健康に影響を与えている要因を探る 4) 人々の生活と健康に関する統計 (1) 人々の生活と健康を示す統計の種類 (2) ライフコースと日本人の平均像 (3) 健康指標の変化	講義 演習	2	
10	4. 看護提供システムと看護の役割	1) 職業としての看護 2) 看護職の就業状況 (1) 法的な規定 (2) 各看護職と就業状況 3) 看護職者のキャリアアップ (1) 現任教育 (2) 継続教育 4) 私の目指す看護師像	講義	2	「看護師としての私の未来」レポート提出
11		5) 看護の提供システムとは (1) サービスとしての看護 (2) サービス提供の場 (3) 看護をめぐる制度と政策	講義	2	

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
		6) 保健医療チームと看護の役割 (1) 保健、医療、福祉の概念 (2) 保健医療福祉サービスの提供の場 (3) 保健医療福祉チームと看護 ・保健医療福祉チームの必要性 ・チームの中における看護者の役割			
12	5. 看護の職業倫理	1) 倫理とは (1) 倫理・道徳・法 2) 医療をめぐる倫理の歴史的経緯と看護倫理 (1) 患者の権利とインフォームドコンセント (2) 現代医療の様々な倫理的問題	講義	2	
13		3) 医療専門職の倫理規定 (1) 世界医師会・日本医師会の取り組み (2) 国際看護協会の取り組み (3) 我が国の看護倫理への取り組み 4) 看護実践における倫理問題への取り組み (1) 看護の本質としての看護倫理 (2) 倫理原則とケアの倫理	講義	2	
14		5) 倫理問題にかかる意思決定のプロセス 6) 看護者の倫理綱領について (事例検討)	演習	2	
15		テスト		2	

テ キ ス ト 茂野香おる:系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[1] 看護学概論, 医学書院, 2020
フローレンス・ナイチンゲール著, 湯槇ます他訳:看護覚え書, 現代社, 2011

参 考 文 献 筒井真優美:看護理論—看護理論 21 の理解と実践への応用, 南江堂, 2019
宮脇美保子:新体系看護学全書 専門分野 I 基礎看護学① 看護学概論, メヂカルフレンド社, 2017

評 価 方 法 テスト、レポート

【講義出席チェック】

回	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
日時															
出席															

科 目 名 基礎看護学概論Ⅱ

単 位 (時 間 数) 1 単位 (30 時間)

履 修 年 次 1 年次 前期～後期

講 義 の 概 要 先人の看護理論についての変遷や理論の特徴について学ぶ。また、これから学習する方法論において、対象の捉え方や看護の視点へとつながる内容とする。

看護研究の基礎的知識である研究の意義や方法、倫理的配慮の必要性について学び、統合分野の単元「事例研究の実際」につなげる内容とする。

- 目 標
1. 看護理論を学ぶ意義やさまざまな理論について理解する。
 2. 看護の主要概念を理解し、本校の概念枠組みとその捉え方について理解する。
 3. 看護における研究の意義、方法、倫理的配慮の必要性を理解する。
 4. 自己の課題（学習の疑問）に基づき、文献検索の方法を理解する。

講 義 内 容

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
1	1. 看護理論と看護の主要概念	<ol style="list-style-type: none"> 1) 看護理論を学ぶ意義 2) 看護理論とは 3) 看護理論の分類と変遷 4) さまざまな看護理論 5) 主要概念 <ol style="list-style-type: none"> (1) 人間、健康、環境、看護 	講義	2	
2 └ 12	2. 人間の基本的欲求の捉え方	<ol style="list-style-type: none"> 1) 本校における枠組みとその捉え方 <ol style="list-style-type: none"> (1) 生命徴候：呼吸・循環・体温・意識状態 (2) 食事・栄養・代謝 (3) 排泄 (4) 活動・休息 (5) 清潔・衣生活 (6) 認知・知覚 (7) 性・生殖 (8) 環境 (9) 学習・健康管理 (10) 自己概念・価値・信念 (11) 役割・関係・社会保障 	講義 演習	22	
13 └ 15	3. 研究の基礎	<ol style="list-style-type: none"> 1) 看護研究の意義 <ol style="list-style-type: none"> (1) 研究とは (2) 看護研究とは (3) 看護研究の必要性 (4) 看護研究の目的（成果） (5) 看護実践と看護研究 (6) 看護理論と看護研究 (7) 看護研究における倫理的配慮 	講義	6	情報科学や英語との関連

回	単元	学習内容	授業形態	時間	備考
		2) 看護研究の研究デザインとプロセス (1) リサーチクエスション (2) 研究方法・デザイン 3) 文献検索の方法と入手方法 (1) 文献とは (2) 文献の種類 (3) 文献検索の実際 (4) 文献の読み方 4) 研究計画書の意義と内容 5) 研究論文の構成と内容 6) 研究成果の発表			統合分野の事例研究と関連して学ぶ

- テキスト 茂野香おる：系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 [1] 看護学概論，医学書院，2020
 ヴァージニア・ヘンダーソン著，湯楨ます他訳：看護の基本となるもの，日本看護協会出版会，2016
 フローレンス・ナイチンゲール著，湯楨ます他訳：看護覚え書，現代社，2011
- 参考文献 筒井真優美：看護理論－看護理論 21 の理解と実践への応用，南江堂，2019 宮脇美保子：新体系看護学全書 専門分野 I 基礎看護学① 看護学概論，メヂカルフレンド社，2017
 坂下玲子：系統看護学講座 別巻 看護研究，医学書院，2016
 黒田裕子：看護研究 STEP BY STEP，学研，2017
 川村佐和子：ナーシング・グラフィカ 基礎看護学 (4) 看護研究，メディカ出版，2018
- 評価方法 レポート

【講義出席チェック】

回	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
日時															
出席															

科 目 名 基礎看護学方法論 I

単 位 (時 間 数) 1 単 位 (30 時 間)

履 修 年 次 1 年 次 前 期

講 義 の 概 要
 すべての看護の基盤となる技術を学ぶ科目とした。
 看護技術は、対象の生命の尊厳・人権を守り、対象にとって安全・安楽な技術を提供することが求められる。看護援助の基本となる技術の考え方や基本原則・安楽で効率的な動き・医療事故防止のための医療安全と対象の療養環境整備の技術を学ぶ。
 また、看護の提供場面において、人間関係成立・発展のための技術であるコミュニケーション技術の基礎知識を学ぶ。

- 目 標
1. 看護技術の概念を学び、原則に基づいた看護技術の方法を理解する。
 2. 看護における安全、感染予防の技術を習得する。
 3. 安楽で効率的な動きのための技術の基本を理解する。
 4. 人間関係成立・発展のための技術の基本を理解する。
 5. 安全・安楽な療養環境を調整する技術を習得する。

講 義 内 容

回	単 元	学 習 内 容	授 業 形 態	時 間	備 考
1	1. 看護技術の概念	1) 看護技術の意義と目的 2) 看護技術とは 3) 看護技術の特徴 4) 看護技術の基本原則 (1) 安全・安楽・自立をめざした目的意識的直接行為 5) 看護技術の範囲 「療養上の世話」 「診療の補助」 6) 看護技術を適切に実践するための要素 7) 看護技術の発展と修得のために	講義	2	
2 (5	2. 安全を守る・感染予防を推進する技術	1) 医療・看護における安全の意義 2) 医療における安全対策の基本 (1) ヒューマンエラーとは (2) ヒューマンエラー防止対策 3) 看護事故の構造と防止の視点 4) 組織としての事故防止対策 (1) ヒヤリ・ハット事例の収集分析と事故防止対策 (2) 安全管理・リスクマネジメント 5) 感染予防の基礎知識 (1) 感染の成立の条件 (2) 院内感染の防止 6) 標準予防策 (スタンダードプリコーション) (1) 標準予防策の基礎知識 (2) 対策の実際：手洗い、手袋、マスク、ゴーグル、ガウン	講義 演習	6 2	医療安全との関連 カテーテル関連、針刺し防止などは診療の補助技術で学ぶ

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
		7) 感染経路別予防策 (1) 感染経路別予防策の基礎知識 (2) 接触予防策 (3) 飛沫予防策 (4) 空気予防策 8) 感染性廃棄物の取り扱い (1) 感染性廃棄物の基礎知識 (2) 対策の実際			
6	3. 安楽で効率的な動きのための技術	1) 安楽の意義 2) 安楽な姿勢と動作 3) 安楽で効果的な動きのための技術 (1) ボディメカニクス (2) 姿勢と動作 (3) 重心と安定性 (4) ボディメカニクスに影響を及ぼす因子 ①力学とは ②運動の法則 ③仕事 ④合力と分力 ⑤力のモーメント ⑥てこの原理 ⑦摩擦力 (5) 患者のボディメカニクス	講義	2	人間工学と関連
7 9	4. 人間関係を成立・発展させるための技術	1) コミュニケーションの意義 2) コミュニケーションの基礎知識 (1) 目的 ①コミュニケーションとは ②医療におけるコミュニケーション (2) 効果的なコミュニケーションの実際 (3) コミュニケーション障害への対応 3) プロセスレコード	講義 演習	4 2	人間関係論と関連 プロセスレコードの書き方の演習
10 13	5. 療養環境の調整技術	1) 生活環境を整える意義 2) 病床環境の調整 (1) 援助の基礎知識 ①療養生活の環境 ②病室の環境 3) 療養環境を整える援助の実際 (1) ベッド周囲の環境整備 (2) 病床を整える：マットレス・枕の条件 ベッドメーカー、リネン交換	講義 演習	2 6	環境整備・ベッドメーカーキングの演習

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
14 15	テスト	技術テスト 筆記テスト		2 2	技術テスト: スタンダード プリコーション・環境調整・ベッドメイキング

テ	キ	ス	ト	茂野香おる：系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学〔2〕 基礎看護技術 I，医学書院，2021 任和子：系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術 II，医学書院，2021 竹尾恵子：看護技術プラクティス，学研，2019
参	考	文	献	志自岐康子：ナーシング・グラフィカ 基礎看護学（3） 基礎看護技術，メディカ出版，2017 深井喜代子：新体系看護学全書 専門分野 I 基礎看護学② 基礎看護技術 I，メヂカルフレンド社，2017 坪井良子，松田たみ子：基礎看護学 考える基礎看護技術 I 看護技術の基本，ヌーベルヒロカワ，2005
評	価	方	法	テスト（筆記・技術）、レポート

【講義出席チェック】

回	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
日時															
出席															

科 目 名 基礎看護学方法論Ⅱ

単 位 (時 間 数) 1 単位 (30 時間)

履 修 年 次 1 年次 前期

講 義 の 概 要 看護職者が独自の判断を必要とする場面が増え、看護の役割として対象の身体状況全体を客観的、系統的に観察する能力が求められている。対象の健康上の問題を生活の視点で捉える必要性を理解し、観察のための具体的方法の基礎知識を学ぶ。看護師の「目」「手」「耳」を使って診察の技法を活用してみる。また、身体の状態をとらえるのに最も基本的で、かつ最も重要なバイタルサインを学ぶ。

身体各部の計測の意義を理解し、正しい測定方法について体験的に学ぶ。

- 目 標
1. ヘルスアセスメントの意義と目的について理解する。
 2. 看護におけるフィジカルアセスメントの意義と目的、診察技法について理解する。
 3. 生体におけるバイタルサインの意味を理解し、その測定方法を習得する。
 4. 身体各部の計測の目的・意義を理解し、実施できる。

講 義 内 容

回	単 元	学 習 内 容	授 業 形 態	時 間	備 考
1) 3	1. 身体診査の技法	1) 看護における観察 (1) 観察の意義と目的 (2) 観察の種類と方法、留意点 2) 看護における記録・報告 (1) 記録と報告の意義と目的 (2) 看護記録の法的位置づけ (3) 看護記録の種類 3) ヘルスアセスメント (1) ヘルスアセスメントの意義と目的 (2) フィジカルアセスメントの意義 (3) フィジカルアセスメントに必要な診察技法の基礎	講義	6	基礎看護学方法論Ⅶと関連させて学ぶ
4) 10	2. バイタルサインの意味と測定方法	1) バイタルサイン測定の意義 2) バイタルサインの基礎知識 (1) バイタルサインとは (2) バイタルサイン測定の目的 (3) バイタルサインの測定方法 ①体温測定：変動因子、体温計の種類と測定部位、体温の観察 ②呼吸測定：変動因子 ③脈拍測定・血圧測定：血圧の正常値と変動因子、血圧計の種類と扱い方、血圧の測定方法(触診法、聴診法) ④意識レベル：意識障害の原因と分類、意識レベルの把握の仕方 3) バイタルサイン測定の実際 (1) 臨床におけるバイタルサイン測定の実際 (TAの参加)	講義 演習	4 10	バイタルサイン測定の演習

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
11 13	3. 身体各部の測定	1) 身体計測の目的 2) 技術のポイント ①身長 ②体重 ③胸囲 ④腹囲 ⑤皮下脂肪厚など	講義 演習	2 4	身体計測の演習
14 15	テスト	技術テスト 筆記テスト		2 2	技術テスト: バイタルサイン測定

テ	キ	ス	ト	茂野香おる：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔2〕 基礎看護技術Ⅰ，医学書院，2021 任和子：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ，医学書院，2021 竹尾恵子：看護技術プラクティス，学研，2019
参	考	文	献	志自岐康子：ナーシング・グラフィカ 基礎看護学（3） 基礎看護技術，メディカ出版，2017 深井喜代子：新体系看護学全書 専門分野Ⅰ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ，メヂカルフレンド社，2017 坪井良子，松田たみ子：基礎看護学 考える基礎看護技術Ⅰ 看護技術の基本，ヌーベルヒロカワ，2005
評	価	方	法	テスト（筆記・技術）、レポート

【講義出席チェック】

回	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
日時															
出席															

科 目 名 基礎看護学方法論Ⅲ

単 位 (時 間 数) 1 単位 (30 時間)

履 修 年 次 1 年次 前期

講 義 の 概 要 対象の日常生活行動に対する理解を深め、健康課題を有する対象の日常生活を整えるために必要な援助技術を科学的根拠に基づいて学ぶ。

- 目 標
1. 食事の意義を理解し、対象の食事・栄養を整える援助技術を実施できる。
 2. 排泄の意義を理解し、対象の排泄を整える援助技術を習得する。
 3. 活動と休息の意義を理解し、対象の活動と休息を整える援助技術を実施できる。

講 義 内 容

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
1 (3	1. 食事・栄養を整える援助	1) 食事・栄養の意義 2) 食事・栄養の基礎知識 (1) 栄養素と栄養所要量 (2) 消化吸収のメカニズム (3) 食欲のメカニズム (4) 医療施設で提供される食事 (5) 栄養状態および食欲・摂食能力のアセスメント 3) 食事援助の方法 (1) 援助方法の選択 (2) 食事の際の方法 (3) 食欲不振への援助 (4) 食事介助の方法 (嚥下障害、視力障害、体位制限、上肢の運動障害) (5) 誤嚥の予防 (6) 自助具の活用 (7) 観察と食後の援助 (口腔ケア) 4) 食事援助の実際 (1) 食事介助 (2) 口腔ケア	講義 演習	4 2	食 事 介 助、口 腔 ケア の 演 習 嚥 下 訓 練・経 管 栄 養 法 は 老 年 看 護 学 に て 中 心 静 脈 栄 養 法 は、成 人 看 護 学 に て
4 (8	2. 排泄を整える援助	1) 排泄の意義 2) 自然な排尿と排便の基礎知識 (1) 排泄器官と排泄のメカニズム (2) 排泄状態の観察とアセスメント (3) 排泄援助の際の基本的留意点 (4) 排泄行動の自立度に合わせた援助 ① トイレ・ポータブルトイレでの援助 ② 床上での援助 ③ 便器・尿器・オムツ 3) 自然排尿・自然排便の援助の実際 (1) 臨床における排泄援助の実際 (TA参加)	講義 演習	4 6	床 上 排 泄・陰 部 洗 浄・お む つ の 当 て 方 の 演 習

テ キ ス ト 任和子:系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ, 医学書院, 2021
 竹尾恵子:看護技術プラクティス, 学研, 2019

参 考 文 献 志自岐康子:ナーシング・グラフィカ 基礎看護学 (3) 基礎看護技術, メディカ出版, 2017
 深井喜代子:新体系看護学全書 専門分野 I 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ, メヂカルフレンド社, 2017
 坪井良子, 松田たみ子:基礎看護学 考える基礎看護技術 I 看護技術の基本, ヌーベルヒロカワ, 2005

評 価 方 法 テスト (筆記・技術)、レポート

【講義出席チェック】

回	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
日時															
出席															

科 目 名 基礎看護学方法論Ⅳ

単 位 (時 間 数) 1 単 位 (30 時 間)

履 修 年 次 1 年 次 前 期 ~ 後 期

講 義 の 概 要 健康課題を有する対象の日常生活を整えるために必要な援助技術を科学的根拠に基づいて学ぶ。人間にとっての清潔の意義を理解し、身体各部の清潔の援助方法と衣生活を整える援助について学ぶ。
また、対象の健康状態に焦点をあてた看護の方法を学ぶ。
さらに、感染予防策として滅菌物の取扱いについての基礎知識・技術を学ぶ。

- 目 標
1. 清潔の意義を理解し、対象の清潔を整える援助技術を習得する。
 2. 衣生活の意義を理解し、対象の衣生活を整える援助技術を習得する。
 3. 対象の健康状態の特徴を学び、看護の役割と援助方法について理解する。
 4. 滅菌物の取扱いの基礎知識を学び、基本的な技術を習得する。

講 義 内 容

回	単 元	学 習 内 容	授 業 形 態	時 間	備 考
1 11	1. 身体各部の清潔 を整える援助	1) 身体清潔の意義 (生理的・心理的・社会的意義) 2) 清潔援助の基礎知識 (1) 皮膚・粘膜の構造と機能 (2) 清潔援助の対象とアセスメントのポイント 3) 清潔援助の方法 (1) 入浴・シャワー浴 (2) 全身清拭 (3) 洗髪 (4) 手浴 (5) 足浴 (6) 陰部洗浄 (7) 整容 (洗面、爪切り・髭剃りなど) (8) 眼・耳・鼻の清潔 4) 清潔援助の実際 (1) 全身清拭 (2) 部分浴 (3) 洗髪	講義 演習 技術テスト	2 14 3	部分浴、洗髪、全身清拭、寝衣交換の演習 技術テスト: 全身清拭
	2. 衣生活を整える 援助	1) 病床での衣生活の意義 2) 衣生活の援助の基礎知識 (1) 衣生活に関するニーズのアセスメントのポイント (2) 衣生活の援助の方法 3) 衣生活の援助の実際 (1) 病衣の条件と選択 (2) 病衣・寝衣の交換			
12	3. 健康状態に応じた看護	1) 疾病の経過 (1) 急性期 (2) 慢性期 (3) 回復期 (4) 終末期	講義	2	

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
		2) さまざまな健康状態の対象の特徴と看護のポイント (1) 健康の保持・増進、疾病予防の状態と看護のポイント (2) 健康の急激な破綻から回復の状態と看護のポイント (3) 健康の慢性的な揺らぎの再調整を必要とする状態と看護のポイント (4) 障がいのある状態とリハビリテーションを行う状態と看護のポイント (5) 人生の最期のとき			
13 { 15	4. 滅菌物の取扱いの技術	1) 洗浄・消毒・滅菌 (1) 洗浄・消毒・滅菌の基礎知識 2) 滅菌物の取扱い (1) 無菌操作の基礎知識 (2) 援助の実際 ① 滅菌手袋の装着 ② 無菌操作	講義 演習 技術テスト	2 2 2	滅菌手袋の着脱、無菌操作・消毒の演習 技術テスト： 無菌操作と消毒
16		筆記テスト		1	

- テ キ ス ト 任和子:系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ, 医学書院, 2021
香春知永:系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔4〕 臨床看護総論, 医学書院, 2016
竹尾恵子:看護技術プラクティス, 学研, 2019
- 参 考 文 献 志自岐康子:ナーシング・グラフィカ 基礎看護学(3) 基礎看護技術, メディカ出版, 2017
深井喜代子:新体系看護学全書 専門分野Ⅰ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ, メヂカルフレンド社, 2017
坪井良子, 松田たみ子:基礎看護学 考える基礎看護技術Ⅰ 看護技術の基本, ヌーベルヒロカワ, 2005
宮脇美保子:新体系看護学全書 専門分野Ⅰ 基礎看護学④ 臨床看護総論, メヂカルフレンド社, 2019
- 評 価 方 法 テスト(筆記・技術)、レポート

【講義出席チェック】

回	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
日時															
出席															

科 目 名 基礎看護学方法論Ⅴ

単 位 (時 間 数) 1 単 位 (30 時 間)

履 修 年 次 1 年 次 後 期

講 義 の 概 要 臨床の場で活用する頻度が高く、健康課題を有する対象に共通している検査や、治療・処置時の援助技術である薬物療法、輸血療法に伴う基礎的技術を安全・安楽かつ的確に実施できるよう学ぶ。

- 目 標
1. 診察・検査・処置における看護の役割を理解し、モデルを用いた静脈血採血が実施できる。
 2. 薬物療法における看護の役割を理解し、モデルを用いた注射法が実施できる。
 3. 輸血療法の目的や安全に実施するための方法について理解する。

講 義 内 容

回	単 元	学 習 内 容	授 業 形 態	時 間	備 考
1 6	1. 診察・検査と看護	1) 診察時の看護の役割 2) 検査の目的と意義 3) 検査における看護の役割 4) 主な検査・処置と介助法 (1) 静脈内採血の実際 (2) 侵襲的処置の介助技術 ① 穿刺の介助と援助 ・胸腔穿刺 ・腹腔穿刺 ・腰椎穿刺 ・骨髄穿刺 ② 洗浄の介助と援助 ・気管支洗浄 ・胃洗浄 ・膀胱洗浄	講義 演習	6 6	静脈内採血の演習
7 13	2. 薬物療法と看護	1) 薬物療法における看護の役割 (1) 与薬とは (2) 与薬時の安全 2) 与薬経路の種類と身体への影響 3) 薬物療法時の援助方法 (1) 与薬法 ①経口与薬 ②点眼 ③点鼻 ④経皮的与薬 ⑤直腸内与薬 ⑥注射 ・筋肉内注射 ・点滴静脈内注射 ・皮下・皮内注射 4) 薬物療法時の援助の実際	講義 演習	4 10	薬理学との関連 皮下・筋肉内・点滴静脈内注射・直腸内与薬の演習
14	3. 輸血療法と看護	1) 輸血療法の目的 2) 輸血製剤の種類と保管方法 3) 輸血療法実施時の観察	講義	2	外来講師
15		筆記テスト		2	

テ キ ス ト 任和子:系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ, 医学書院, 2021
香春知永:系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔4〕 臨床看護総論, 医学書院, 2016
竹尾恵子:看護技術プラクティス, 学研, 2019

参 考 文 献 志自岐康子:ナーシング・グラフィカ 基礎看護学(3) 基礎看護技術, メディカ出版, 2017
深井喜代子:新体系看護学全書 専門分野Ⅰ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ, メヂカルフレンド社, 2017
坪井良子, 松田たみ子:基礎看護学 考える基礎看護技術Ⅱ 看護技術の基本, ヌーベルヒロカワ, 2005
宮脇美保子:新体系看護学全書 専門分野Ⅰ 基礎看護学④ 臨床看護総論, メヂカルフレンド社, 2019

評 価 方 法 テスト、レポート、参加態度

【講義出席チェック】

回	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
日時															
出席															

科 目 名 基礎看護学方法論VI

単 位 (時 間 数) 1 単 位 (30 時 間)

履 修 年 次 1 年 次 後 期

講 義 の 概 要 呼吸を整えるための酸素療法や吸入療法及び吸引療法、救命救急処置、創傷処置、苦痛緩和への援助に伴う基礎的技術を安全・安楽かつ的確に実施できるよう学ぶ。

- 目 標
1. 呼吸を整えるための看護の役割を理解し、援助技術を習得する。
 2. 救命救急における看護の役割を理解し、救命救急処置の基本的技術を実施できる。
 3. 創傷管理における基礎知識を理解し、基本的技術を実施できる。
 4. 苦痛緩和における基礎知識を理解し、温罨法の援助技術を実施できる。

講 義 内 容

回	単 元	学 習 内 容	授 業 形 態	時 間	備 考
1 { 7	1. 呼吸を整える援助	1) 吸入療法とは 2) 酸素吸入療法と看護 (1) 酸素吸入療法の基礎的知識 ① 酸素について ② 酸素吸入に使われる器具の基礎知識 ③ 器具の特徴 (2) 酸素吸入時のアセスメントと援助方法 3) 薬物噴霧療法 (ネブライザー) と看護 (1) ネブライザーの構造と原理 (2) 吸入実施時のアセスメント 4) 吸引療法とは 5) 吸引の意義と目的 6) 吸引の原理と基礎知識 7) 吸引実施に関するアセスメント 8) 吸引の援助方法 (1) 一時吸引 (口腔、鼻腔、気管) の実際 (2) 持続吸引法 9) 臨床における呼吸を整える援助の実際 (TA参加)	講義 演習 技術テスト	4 8 2	酸素・ネブライザー吸入・酸素ボンベの操作・一時吸引(口腔、鼻腔、気管)の演習 技術テスト: ネブライザー吸入・一時吸引(口腔・鼻腔内吸引)
8 { 10	2. 救命救急と看護	1) 救命救急処置の基礎知識 (BLS) 2) 心肺蘇生法	講義 演習	2 4	BLSの演習
11 { 12	3. 創傷管理の技術	1) 創傷管理 (1) 創傷処置の意義と目的 (2) 創傷管理の基礎知識 (3) 援助の実際 2) 包帯法 (1) 包帯法の基礎知識 (2) 援助の実際	講義 演習	2 2	創処置、包帯法の演習

回	単元	学習内容	授業形態	時間	備考
13 14	4. 苦痛緩和の援助	1) 人間にとっての痛み、発熱の概念 2) 痛み、発熱に影響する心理的要因 3) 痛み、発熱のメカニズム 4) 痛み、発熱の基本的な治療と看護 5) 身体の安楽を図るための罨法の技術 (1) 罨法の技術の目的と援助の実際	講義 演習	2 2	罨法の演習
15		筆記テスト		2	

- テキスト 任和子:系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ, 医学書院, 2021
香春知永:系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 [4] 臨床看護総論, 医学書院, 2016
竹尾恵子:看護技術プラクティス, 学研, 2019
- 参考文献 深井喜代子:新体系看護学全書 専門分野 I 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ, メヂカルフレンド社, 2017
坪井良子, 松田たみ子:基礎看護学 考える基礎看護技術Ⅱ 看護技術の基本, ヌーベルヒロカワ, 2005
宮脇美保子:新体系看護学全書 専門分野 I 基礎看護学④ 臨床看護総論, メヂカルフレンド社, 2019
- 評価方法 テスト (筆記・技術)、レポート

【講義出席チェック】

回	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
日時															
出席															

科 目 名 基礎看護学方法論Ⅶ

単 位 (時 間 数) 1 単 位 (30 時 間)

履 修 年 次 1 年 次 後 期

講 義 の 概 要 看護実践とは看護を必要とする対象の看護問題やその原因を明らかにし、それに対して看護師がどのような援助を行っていくかを具体的目標とともに表明したうえで、その目標や援助の計画にそって看護技術を駆使し実践を行い、評価し、さらに次の実践へとつなげていく螺旋階段のような営みである。看護過程は、看護を実践するための手段や考え方のことであり、看護を系統的かつ科学的に行うための問題解決過程である。本講義では看護過程の基礎知識や展開方法について学習する。

- 目 標
1. 看護過程の概念を理解する。
 2. 事例を通して看護過程の展開技術の基本を習得する。

講 義 内 容

回	単 元	学 習 内 容	授 業 形 態	時 間	備 考
1	1. 看護過程の基になる考え方	1) 看護過程を使う意義 2) 看護過程の基礎知識 (1) 看護過程とは (2) 看護過程の構成要素 (3) 看護過程の構成要素の関係性 ①連続的なプロセス ②循環的なプロセス 3) 看護過程の基盤となる考え方 (1) 問題解決過程 (2) クリティカルシンキング 4) 看護過程と看護理論の関係	講義	2	
2 ～ 5	2. 看護過程の構成要素	1) アセスメント (1) 情報の分類・整理 (2) 情報の解釈・分析 (3) 全体像 2) 看護問題の明確化 (1) 看護問題の抽出 (2) 優先順位の決定 3) 看護計画の立案 (1) 目標の表現：長期目標、短期目標 (2) 具体策 ①観察計画 (OP) ②直接ケア計画 (TP) ③教育計画 (EP)、指導案 4) 実施 5) 評価	講義	8	教育学、論理的思考、基礎看護学概論Ⅱ、基礎看護学方法論Ⅱとの関連
6	3. 看護記録	1) 看護記録の形式 (実践の記録) (1) 叙述的記録 (2) POSとSOAP (3) フォーカスチャーティング 2) その他 (1) 要約 (サマリー)	講義	2	基礎看護学方法論Ⅱと関連

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備 考
7 ～ 14	4.看護過程展開の 実際	1) ペーパーペイシエントでの事例展開 (1) アセスメント (2) 全体像 (3) 看護問題の明確化 (4) 看護計画の立案 (5) 実施後の記録 (SOAPIE)	演習	16	
15	5.まとめ	1) 看護過程のまとめ・演習のふり返 り	講義 演習	1	
16		筆記テスト		1	

- テ キ ス ト 茂野香おる：系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 [2] 基礎看護
技術 I，医学書院，2021
香春知永：系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 [4] 臨床看護総論，
医学書院，2016
高木永子：看護過程に沿った対症看護，学研，2018
- 参 考 文 献 深井喜代子：新体系看護学全書 専門分野 I 基礎看護学② 基礎看護技
術 I，メヂカルフレンド社，2017
宮脇美保子：新体系看護学全書 専門分野 I 基礎看護学④ 臨床看護総
論，メヂカルフレンド社，2019
- 評 価 方 法 テスト、レポート

【講義出席チェック】

回	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
日 時															
出 席															

科 目 名 基礎看護学方法論Ⅷ

単 位 (時 間 数) 1 単 位 (30 時 間)

履 修 年 次 2 年 次 前 期

講 義 の 概 要 看護師の活動の場が拡大していく中で、看護職者が独自の判断を必要とする場面が増え、看護師には対象の身体状況を客観的・系統的に観察する能力が求められている。対象に合った援助を行うためには、対象を統合体として捉えることは欠かせない。本講義では、看護師の「目」「手」「耳」を使った診察技法を学ぶ。

形態と機能・病理学・疾病治療学で学んだ知識と関連させ、看護におけるフィジカルアセスメントを学ぶ。その中で、フィジカルイグザミネーションを用いた対象の健康状態をアセスメントする方法を体験的に学ぶ。

目 標 1. 身体状況や症状・徴候にあわせたフィジカルイグザミネーションを実施できる。
2. フィジカルイグザミネーションで得た情報からアセスメントできる。

講 義 内 容

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
1 ～ 9	1. 身体機能別のフィジカルアセスメント	1) フィジカルアセスメントと基本技術 (1) フィジカルアセスメントの組み立てと階層性 (2) 基本技術 2) 身体機能別フィジカルアセスメントの実際 (1) 呼吸系・循環系の共通項と呼吸系 (2) 循環系 (3) 消化系 (4) 感覚系・中枢神経系・運動系	講義 演習	4 14	運動系は老年看護学FIMとの関連
10 ～ 13	2. 症状・徴候からのフィジカルアセスメント	1) 症状からのフィジカルアセスメント (1) 胸が痛い (2) お腹が痛い (3) 息が苦しい (4) むくみがある	演習	8	
14 15	3. フィジカルアセスメントの活用	1) フィジカルイグザミネーションを活用した対象の全身状態の把握 (1) フィジカルイグザミネーションとアセスメント (2) SBAR	演習 技術テスト	2 2	

テキスト 茂野香おる：系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 [2] 基礎看護技術 I，医学書院，2021
 山内豊明：フィジカルアセスメントガイドブック，医学書院，2011
 参考文献 宮脇美保子：新体系看護学全書 専門分野 I 基礎看護学④ 臨床看護総論，メヂカルフレンド社，2019
 評価方法 テスト（技術）、レポート、参加態度

【講義出席チェック】

回	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
日時															
出席															

專 門 分 野 Ⅱ

成人看護学

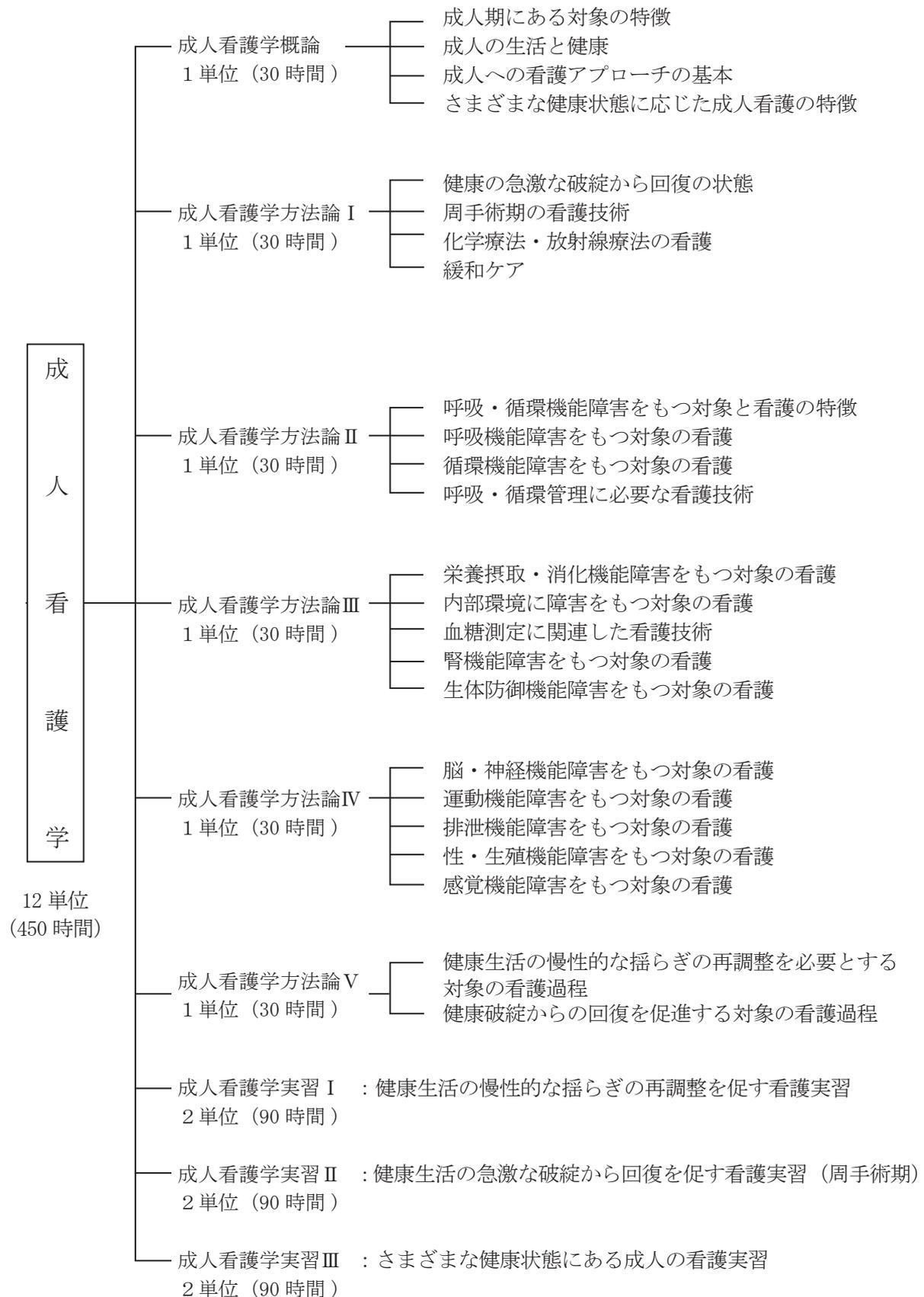
目 的

成人期にある対象の特徴、健康上の課題をとらえ、健康の状態に応じた看護を実践するための基礎的能力を養う。

目 標

1. 成人期にある対象を尊重し、人間関係を円滑にするための能力を身につける。
2. 成人期にある対象を生活者として統合的に理解する能力を身につける。
3. 成人期にある対象の健康上の課題を科学的根拠に基づいて判断し、看護実践できる基礎的能力を身につける。
4. 保健医療福祉制度と他職種との連携、保健医療チームの一員として看護の役割を理解する。
5. 看護実践を通して成人看護に対する考えを深め、主体的に学習する力を身につける。

科目構成



科 目 名 成人看護学概論

単 位 (時 間 数) 1 単 位 (30 時 間)

履 修 年 次 1 年 次 後 期

講 義 の 概 要 成人期にある対象を生活者、成長・発達およびさまざまな健康状態の側面から理解する。成人期において発達課題を達成しつつある対象を身体的・精神的・社会的側面からとらえ、成人の特性を学ぶ。また成人の生活と健康の動向を学び、成人期における健康の保持・増進および疾病の予防の重要性を理解し、さらに健康日本21などの健康戦略を学習し、成人期における健康を保つシステムを理解する。成人期にある対象を健康生活の急激な破綻から回復を促す看護、健康生活の慢性的な揺らぎの再調整を促す看護、障害を持ちながらの生活とリハビリテーションを支える看護、人生の最期のときを支える看護を必要とする対象の看護の特徴を学ぶ。

また、成人は自立した存在であることから、セルフケア能力を向上させるかかわりと成人への基本的アプローチと看護に必要な概念を学び、倫理的配慮と看護者の役割について考える。看護実践の最も重要な基盤となる、人間関係を発展させるプロセスを学ぶ。

- 目 標
1. 成人期にある対象の特徴を理解する。
 2. 成人期にある対象の健康を生活の視点から多面的に理解する。
 3. 成人期における健康を支えるシステムを理解する。
 4. 成人のさまざまな健康状態に応じた看護の特徴を理解する。
 5. 成人期にある対象を援助する時の基本的アプローチについて理解する。
 6. 成人期にある対象への倫理的配慮から看護の役割を理解する。

講 義 内 容

回	単 元	学 習 内 容	授 業 形 態	時 間	備 考
1 2	1. 成人期にある対象の特徴	1) 成人看護学の概念と構成 (1) 成人看護学の対象論 (2) 成人看護学の援助論 2) 成人の特性 (1) 成人の区分 (2) 成人の発達段階と課題 ① エリクソンの発達理論 ② ハビガーストの発達課題 (3) ライフサイクルの中での成人の位置づけと意義 (4) 成人各期の特徴 (青年期・壮年期・向老期) (5) 家族からとらえる成人	講義	4	
3 4	2. 成人の生活と健康	1) 成人を取り巻く環境と生活 (1) 成人を取り巻く環境 (2) 成人の健康状況 2) 生活と健康を守りはぐくむシステム (1) 保健医療福祉システムの概要 ① 保健にかかわる対策 ア) 健康増進・生活習慣病対策 イ) 健康日本21 (第2次) ウ) 健康増進法	講義	4	

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
		(2) 病みの軌跡 (3) セルフケア行動形成への支援 ① セルフケアとは ② セルフマネジメント(自己管理) (4) 慢性病との共存の過程を支える看護 ① 自己管理への取り組み ② セルフマネジメントプログラム ア) 自己効力理論 ③ 社会的支援の獲得 ア) 患者会・家族会 イ) 特定疾患治療研究事業 ④ セルフマネジメント構成要素 ア) 患者に必要な知識と技術 コンプライアンス、アドヒアランス、コンコーダンス イ) 自己効力 ウ) QOL エ) エンパワーメント 4) 障がいを持ちながらの生活とリハビリテーションを支える看護 (1) 障がいとは (2) 障がいへの適応と社会復帰への看護 (3) 障がい受容・改善・克服への援助 ① 障害受容と価値の変換 ② 障害受容への影響因子 ③ 障害受容の段階に応じた援助 ④ 障がいの改善と克服への援助 ⑤ 機能障害と日常生活動作の制限のアセスメント ⑥ 障がいを持ちながら生活する人を支援する看護 ⑦ チーム医療・保健医療福祉の連携 (4) 社会資源の活用	講義	2	
		5) 人生の最期のときを支える看護 (1) 終末期・緩和ケア看護の概観 ① 終末期・緩和ケアとは ② 終末期にある人の療養の場 ③ 死をめぐる倫理的課題 ア) 真実を伝える イ) 意思決定 ウ) 意思表示 エ) 尊厳死 ④ 全人的苦痛の理解 (2) 人生の最期のときを過ごしている対象の特徴と看護の役割 ① 終末期にある対象の特徴	講義	2	

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
		ア) 身体的特徴 イ) 精神的・社会的特徴 ②終末期にある対象の死にゆくことに対する態度の特徴 ア) 死にゆく人の心理過程 ③終末期にある対象の家族 ア) 家族の捉え方 イ) 精神的苦痛・社会的苦痛 ④終末期にある対象への看護援助 ⑤終末期にある対象の家族への援助 (3) 人生の最期のときを支える看護における概念 ①キューブラ・ロスのモデル			
15		テスト		2	

テ キ ス ト 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学 [1] 成人看護学総論 医学書院
 系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護学 [4] 臨床看護総論 医学書院
 厚生統計協会編 国民衛生の動向
 参 考 文 献 成人看護学 成人看護学概論 ニューヴェルヒロカワ
 緩和・ターミナルケア看護論 ニューヴェルヒロカワ
 ナーシング・グラフィカ 成人看護学 [1] 成人看護学概論 メディ
 カ出版
 評 価 方 法 テスト

【講義出席チェック】

回	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
日時															
出席															

回	単元	学習内容	授業形態	時間	備考
10 12	3. 化学療法・放射線療法の看護	1) 化学療法を受ける患者の特徴と理解 2) 化学療法を受ける患者の看護 (1) 化学療法の特徴 (2) 化学療法を受ける患者・家族への看護援助 3) 放射線療法を受ける患者の看護 (1) 放射線療法とは (2) 放射線療法を受ける患者・家族への看護	講義 講義 講義	2 2 2	外来講師 技術到達 番号 12-8) IV 疾病治療 学 I を想 起する。
13 14	4. 緩和ケア	1) がん看護における緩和ケア 2) 終末期における緩和ケア	講義	4	外来講師
15		テスト		2	

テキスト 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院
系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護学〔4〕 臨床看護総論 医学書院
系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学〔1〕 成人看護学総論 医学書院
系統看護学講座 別巻 がん看護学 医学書院
講義から実習へ 高齢者と成人の周手術期看護 2 術中 / 術後の生体反応
と急性期看護 医歯薬出版株式会社

参考文献 周術期看護 安全・安楽な看護の実践 インターメディカ
ナーシング・グラフィカ 成人看護学〔4〕 周術期看護 メディカ出版
成人看護学 救急看護論 ニューヴェルヒロカワ
成人看護学 緩和・ターミナルケア看護論 ニューヴェルヒロカワ
がん看護学 臨床に活かすがん看護の基礎と実践 ニューヴェルヒロカワ
系統看護学講座 別巻 6 臨床検査 医学書院

評価方法 テスト

【講義出席チェック】

回	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
日時															
出席															

科 目 名 成人看護学方法論Ⅱ

単 位 (時 間 数) 1 単 位 (30 時 間)

履 修 年 次 1 年 次 後 期

講 義 の 概 要 ライフサイクルにおける成人期の特徴を踏まえて、生命と生活を維持している呼吸・循環機能に障害をもつ対象について理解し、看護の役割と援助方法について学ぶ。また、呼吸循環管理に必要な看護技術を学ぶ。

- 目 標
1. 呼吸・循環機能に障害をもつ対象を理解する。
 2. 呼吸・循環機能障害をもつ対象への看護の役割と方法について理解する。
 3. 呼吸・循環管理に必要な看護技術を習得する。

講 義 内 容

回	単 元	学 習 内 容	授 業 形 態	時 間	備 考
1	1.呼吸・循環機能障害をもつ対象と看護の特徴	1) 呼吸・循環機能障害をもつ患者の理解と看護の役割 (1) 身体的問題と援助 (2) 精神・社会的問題 (3) 疾患の経過と看護 (4) 継続看護	講義	2	
2 ～ 7	2.呼吸機能障害をもつ対象の看護	1) 症状に対する看護 (1) 咳嗽・喀痰 (2) 血痰・喀血 (3) 胸痛 (4) 呼吸困難 2) 検査を受ける患者の看護 (1) 内視鏡検査 (2) 肺組織の生検 (3) 呼吸機能検査 (4) 動脈血ガス分析 3) 治療・処置を受ける患者の看護 (1) 吸入療法を受ける患者の看護 (2) 酸素療法を受ける患者の看護 (3) 人工呼吸器を装着する患者の看護 (4) 気管切開を受ける患者の看護 (5) 胸腔ドレナージを受ける患者の看護 4) 代表的な呼吸器疾患のある患者の看護 (1) 肺炎患者の看護 (2) 気管支喘息患者の看護 (3) 慢性呼吸不全患者の看護 (4) 肺がん患者の看護 (5) 自然気胸患者の看護	講義	8	外来講師 疾病治療 学Ⅱを想 起する。

回	単元	学習内容	授業形態	時間	備考
		5) 呼吸理学療法の実際 (1) 体位ドレナージ・スクイーピング	デモ 演習	4	外来講師 学生間で 体位ドレ ナージ 技術到達 番号 6-9)
8) 12	3. 循環機能障害を もつ対象の看護	1) 循環機能障害の把握と看護 (1) 胸痛 (2) 心不全 (3) 不整脈 (4) ショック 2) 検査・治療・処置を受ける患者の 看護 (1) 薬物療法 (2) 心臓カテーテル検査、心血管 造影検査 (3) 12誘導心電図 (4) 経皮的冠動脈形成術への援助 3) 代表的な循環機能障害のある患者 の看護援助 (1) 心筋梗塞患者の看護 ① 看護アセスメント ② 看護援助 (2) 不整脈患者の看護 ① 看護アセスメント ② 看護援助 ③ ペースメーカー装着時の援助 (3) 心不全患者の看護 ① 看護アセスメント ② 看護援助	講義	10	外来講師 疾病治療 学Ⅱを想 起する。
13 14	4. 呼吸・循環管理 に必要な看護 技術	1) ME機器についての基礎知識と看護 2) ME機器の実際 (1) 心電図 (2) 人工呼吸器 (3) 輸液ポンプの基本的操作 (4) シリンジポンプの基本的操作	講義 デモ 演習	4	外来講師 人間工学 「生活環 境と物理」 を想起する。 技術到達 番号 6-13) IV 8-10) III
15		テスト		2	

テ キ ス ト 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学 [3] 循環器 医学書院
 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学 [2] 呼吸器 医学書院
 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院
 看護技術プラクティス 学研
 参 考 文 献 完全版ベッドサイドを科学する 看護に生かす物理学 学研研究社
 フィジカルアセスメント完全ガイド 学習研究社
 成人看護学 急性期看護論 ニューヴェルヒロカワ
 系統看護学講座 別巻6 臨床検査 医学書院
 根拠がわかる 成人看護技術 メヂカルフレンド社
 評 価 方 法 テスト

【講義出席チェック】

回	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
日時															
出席															

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
		(4) 腹腔鏡下手術時の援助 (5) 胆汁ドレナージの管理と指導 8) 代表的な肝機能障害のある患者の看護 (1) 慢性肝炎・肝硬変患者の看護 (2) 食道静脈瘤患者の看護 (3) 胆嚢疾患患者の看護			
5 { 8	2. 内部環境に障害をもつ対象の看護	1) 体温調節機能に障害をもつ患者の理解と看護の役割 (1) 身体的問題と援助 (2) 精神・社会的問題 (3) 疾患の経過と看護 2) 体温調節機能障害の把握と看護 (1) 高体温 (2) 低体温 3) 検査・治療・処置を受ける患者の看護 (1) 薬物療法 (2) 冷却法 (3) 保温 4) 体温調節機能障害のある患者の看護 (1) 熱中症患者の看護 5) 内分泌機能障害をもつ患者の理解と看護の役割 (1) 身体的問題と援助 (2) 精神・社会的問題 (3) 疾患の経過と看護 (4) 継続看護 6) 内分泌機能障害の把握と看護 (1) 甲状腺クリーゼ (2) 神経・筋症状 7) 検査・治療・処置を受ける患者の看護 (1) ホルモン補充療法・抗ホルモン療法の生活指導 (2) ホルモンバランス失調状態の生活指導 8) 代表的な内分泌機能障害のある患者の看護 (1) 甲状腺機能亢進症患者の看護 9) 代謝機能障害をもつ患者の理解と看護の役割 (1) 身体的問題と援助 (2) 精神・社会的問題 (3) 疾患の経過と看護 (4) 継続看護	講義	8	疾病治療学Ⅲを想起する。

回	単元	学習内容	授業形態	時間	備考
		10) 代謝機能障害の把握と看護 (1) 低血糖昏睡 (1) ケトアシドーシス 11) 検査・治療・処置を受ける患者の看護 (1) ブドウ糖負荷試験 (2) インスリン療法 12) 代表的な代謝機能障害のある患者の看護 (1) 糖尿病患者の看護 ① 自己管理に伴う指導と看護 (2) 脂質異常症患者の看護 (3) 高尿酸血症患者の看護			技術到達番号 8-21) IV 8-22) IV
9	3. 血糖測定に関連した看護技術	1) 血糖測定に関連した知識・技術の習得と指導のあり方 (1) 簡易血糖測定体験	演習	2	技術到達番号 10-7) II
10 12	4. 腎機能障害をもつ対象の看護	1) 腎機能障害をもつ患者の理解と看護の役割 (1) 身体的問題と援助 (2) 精神・社会的問題 (3) 疾患の経過と看護 (4) 継続看護 (5) 社会資源の活用 2) 腎機能障害の把握と看護 (1) 浮腫 (2) 高血圧 3) 検査・治療・処置を受ける患者の看護 (1) 尿検査 (2) 腎機能検査 (3) 腎生検 (4) 透析療法時の看護 ① 保存期から透析導入期の対象の看護 ② 透析療法適用基準と選択 ③ 血液透析・腹膜透析の管理 ア) 導入期 イ) 維持期 ウ) 慢性期 ④ シャントの管理 ⑤ カテーテルによる血液透析の管理 4) 代表的な腎機能障害のある患者の看護 (1) 腎不全患者の看護 (2) 腎移植術を受ける患者の看護	講義	6	疾病治療学 IV を想起する。

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
13 14	5. 生体防御機能の障害をもつ対象の看護	1) 免疫機能障害をもつ患者の理解と看護の役割 (1) 身体的問題と援助 (2) 精神・社会的問題 (3) 疾患の経過と看護 (4) 継続看護 2) 免疫機能障害の把握と看護 (1) 発熱 (2) 関節痛・関節炎 (3) 皮疹 (4) レイノー現象 3) 検査・治療・処置を受ける患者の看護 (1) 炎症反応 4) 代表的な免疫不全のある患者の看護 (1) 全身性エリテマトーデス (2) 後天性免疫不全症候群 <AIDS> 5) 造血機能障害のある対象の理解と看護の役割 (1) 身体的問題と援助 (2) 精神・社会的問題 (3) 疾患の経過と看護 (4) 継続看護 6) 造血機能障害の把握と看護 (1) 貧血 (2) 出血傾向 7) 検査・治療・処置を受ける患者の看護 (1) 骨髄穿刺時の看護 (2) 骨髄移植・幹細胞移植での看護 (3) 化学療法 8) 代表的な造血機能障害のある患者の看護 (1) 白血病患者の看護 (2) 悪性リンパ腫患者の看護	講義	4	疾病治療学Ⅲを想起する。
15		テスト		2	

テ キ ス ト 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学 [5] 消化器 医学書院
 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学 [6] 内分泌・代謝 医学書院
 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学 [8] 腎・泌尿器 医学書院
 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学 [4] 血液・造血器 医学書院
 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学 [11] アレルギー 膠原病 感染症
 医学書院
 参 考 文 献 ナーシング・グラフィカ 健康の回復と看護 [6] 内部環境調節障害・
 性生殖機能障害 メディカ出版
 根拠がわかる 成人看護技術 メヂカルフレンド社
 評 価 方 法 テスト

【講義出席チェック】

回	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
日時															
出席															

科 目 名 成人看護学方法論Ⅳ

単 位 (時 間 数) 1 単 位 (30 時 間)

履 修 年 次 2 年 次 前 期 - 後 期

講 義 の 概 要 ライフサイクルにおける成人期の特徴を踏まえ、生活行動制限のある対象のセルフケア再獲得に向け、ボディイメージの変化や障害をもちながら生活する対象の特徴を知り、必要な援助方法と看護の役割について学ぶ。さらに、生命と生活を維持している機能に障害をもつ対象の特徴を理解し、機能障害に応じた看護の役割と援助方法について学ぶ。

目 標 1. 生活行動に制限のある対象の特徴を理解する。
2. ボディイメージの変化を伴う対象を理解する。
3. ボディイメージの変化や障害をもちながら生活する対象の特徴を知り看護の役割と方法を理解する。

講 義 内 容

回	単 元	学 習 内 容	授 業 形 態	時 間	備 考
1 (3	1. 脳・神経機能障害をもつ対象の看護	1) 脳・神経機能障害をもつ患者の理解と看護の役割 (1) 身体的問題と援助 (2) 精神・社会的問題 (3) 疾患の経過と看護 (4) 継続看護 2) 脳・神経機能障害の把握と看護 (1) 頭蓋内圧亢進症状 (2) 運動麻痺 (3) 意識障害 3) 主な検査・治療・処置に伴う看護 (1) 髄液検査時の援助 (2) 脳血管撮影 (3) 頭部CT検査 (4) 脳室ドレナージ 4) 代表的な脳・神経機能障害のある患者の看護 (1) クモ膜下出血の手術療法を受ける患者の看護 (2) 脳梗塞患者の看護	講義	6	疾病治療学Ⅴを想起する。
4 (5	2. 運動機能障害をもつ対象の看護	1) 運動機能障害をもつ患者の理解と看護の役割 (1) 身体的問題と援助 (2) 精神・社会的問題 (3) 疾患の経過と看護 (4) 継続看護 2) 運動機能障害の把握と看護 (1) 神経障害 (2) 循環障害とフォルクマン拘縮 3) 治療に伴う看護 (1) ギプス固定	講義	4	疾病治療学Ⅴを想起する。

回	単元	学習内容	授業形態	時間	備考
14	5. 感覚機能障害をもつ対象の看護	1) 感覚機能障害をもつ患者の理解と看護の役割 (1) 身体的問題と援助 (2) 精神・社会的問題 (3) 疾患の経過と看護 (4) 継続看護 2) 感覚機能障害の把握と看護 (1) 耳漏 (2) 嗄声 (3) 視野の異常 ① 緑内障 (4) 視力低下 3) 治療、処置、検査を受ける患者の看護 (1) 内視鏡検査 (2) 点眼投与時の看護 4) 代表的な感覚機能障害のある患者の看護 (1) 中耳炎患者の看護 (2) 喉頭がん患者の看護	講義	2	疾病治療学Vを想起する。
15		テスト		2	

テキスト 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学 [7] 脳・神経 医学書院
 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学 [10] 運動器 医学書院
 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学 [8] 腎・泌尿器 医学書院
 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学 [5] 消化器 医学書院
 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学 [9] 女性生殖器 医学書院
 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学 [14] 耳鼻咽喉 医学書院
 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学 [13] 眼 医学書院
 参考文献 根拠がわかる 成人看護技術 メヂカルフレンド社
 評価方法 テスト

【講義出席チェック】

回	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
日時															
出席															

科 目 名 成人看護学方法論V

単 位 (時 間 数) 1 単 位 (30 時 間)

履 修 年 次 2 年 次 前 期 - 後 期

講 義 の 概 要 成人の健康の状態に応じた看護の特徴を踏まえ、慢性的な揺らぎの再調整を必要とする対象、健康生活の急激な破綻から回復にある対象の事例を通し看護過程の展開の方法を学ぶ。

目 標 1. 健康生活の慢性的な揺らぎの再調整を必要とする対象の看護過程の展開方法を理解する。
2. 急激な身体侵襲により急性期から回復期にある対象の看護過程の展開方法を理解する。

講 義 内 容

回	単 元	学 習 内 容	授 業 形 態	時 間	備 考
1) 8	1. 健康生活の慢性的な揺らぎの再調整を必要とする対象の看護過程	1) 慢性疾患をもつ対象の看護 (1) 疾患の看護に必要な基礎知識 (2) 健康生活の慢性的な揺らぎの再調整を必要とする対象に特徴的なアセスメントの視点 2) 看護過程の展開の実際 (1) 情報収集 (2) 解釈分析 (3) 看護問題の抽出 (4) 看護計画立案 (5) 対象に必要な援助の実際 (6) 評価	講義/演習	16	疾病治療学Ⅲを想起する。 教育学の指導技術の実際を想起する。 技術到達番号 2-5)Ⅱ 2-6)Ⅱ
9) 15	2. 健康破綻からの回復を促進する対象の看護過程	1) 周手術期の対象の看護 (1) 周手術期の看護に必要な基礎知識 (2) 周手術期にある対象の看護に特徴的なアセスメントの視点 2) 看護過程の展開の実際 (1) 情報収集 (2) 解釈分析 (3) 看護問題の抽出 (4) 看護計画立案 (5) 対象に必要な援助の実際 (6) 評価	講義/演習	14	疾病治療学Ⅲを想起する。

テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔1〕 成人看護学総論 医学書院
 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔6〕 内分泌・代謝 医学書院
 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔5〕 消化器 医学書院
 系統看護学講座 別巻 臨床検査 医学書院
 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院
 講義から実習へ 高齢者と成人の周手術期看護 2 術中 / 術後の生体反応と急性期看護 医歯薬出版株式会社
 参考文献 周術期の臨床判断を磨く 医学書院
 評価方法 レポート

【講義出席チェック】

回	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
日時															
出席															

老年看護学

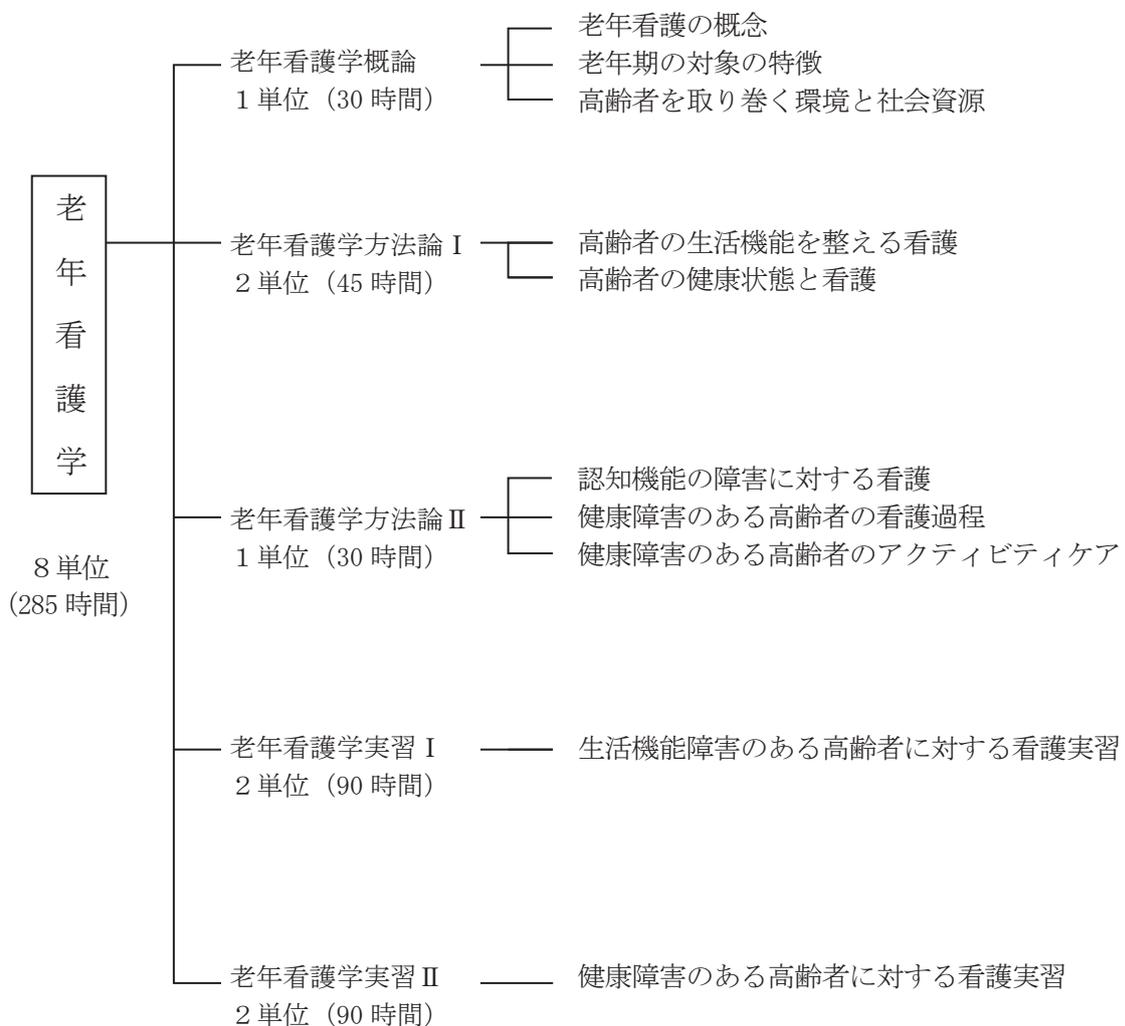
目的

老年期にある対象とその環境を理解し、健康状態・生活機能に応じた看護を実践する基本的能力を養う。

目標

1. 老年期にある対象の尊厳を保持し、人間関係を形成する能力を養う。
2. 高齢者を、身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解する。
3. 高齢者の健康状態・生活機能を理解し、根拠に基づいた看護を実践する能力を養う。
4. 高齢者の生活を支える保健医療福祉システムと多職種との連携を認識し、対象の状態に合わせた看護の役割を理解する。
5. 看護への探究心を持ち、専門職業人として主体的に学習する能力を養う。

科目構成



科 目 名 老年看護学概論

単 位 (時 間 数) 1 単位 (30 時間)

履 修 年 次 1 年次 後期

講 義 の 概 要 老年期の発達段階の特徴と高齢者を取り巻く環境について学び、加齢に伴う身体的・精神的・社会的側面から高齢者への理解を深める。また、高齢者を支援し、社会資源について学び、老年看護の目的や役割について理解する。

- 目 標
1. 高齢者を身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解する。
 2. 高齢者の健康生活と QOL について理解する。
 3. 高齢者の生活を支える保健医療福祉システムについて理解する。
 4. 高齢者の権利擁護と倫理について理解する。
 5. 老年看護の課題と役割を学び看護観を身につける。

講 義 内 容

回	単 元	学 習 内 容	授 業 形 態	時 間	備 考
1 ～ 2	1. 老年看護の概念	<ol style="list-style-type: none">1) 老年看護のなりたち<ol style="list-style-type: none">(1) 老年看護学教育の発展(2) 老年看護の定義(3) 老年看護の役割(4) 老年看護の特徴<ol style="list-style-type: none">①エンパワメントの定義②ICFのモデル③エンドオブライフケア④多職種連携⑤リロケーションダメージの回避2) 老年看護における理論の活用<ol style="list-style-type: none">(1) 老年看護に役立つ理論・概念<ol style="list-style-type: none">①サクセスフルエイジング②セルフケア理論③ストレングスモデル3) 老年看護に携わる者の責務<ol style="list-style-type: none">(1) 高齢者のための国連原則<ol style="list-style-type: none">①自立・参加・ケア・自己実現 尊厳4) 老いるということ<ol style="list-style-type: none">(1) 加齢に伴う身体的側面の変化<ol style="list-style-type: none">①恒常性を土台とした4つの力の変化②疾病をめぐる特徴(2) 加齢に伴う心理的側面の変化<ol style="list-style-type: none">①流動性知能と結晶性知能(3) 加齢に伴う社会的側面の変化(4) 老年期の発達課題<ol style="list-style-type: none">①エリクソンによる発達課題②ハヴィガースト、ペック(5) スピリチュアリティ(6) 健康と生活	講義	4	

科 目 名 老年看護学方法論 I

単 位 (時 間 数) 2 単 位 (4 5 時 間)

履 修 年 次 2 年 次 前 期

講 義 の 概 要 加齢による変化や、高齢者に特徴的な疾患や症状が、生活に及ぼす影響を捉え、QOL の維持・向上へ向けた援助について学ぶ。

- 目 標
1. 高齢者との関係性を形成するコミュニケーションを理解する。
 2. 高齢者の生活機能に視点をおき、QOL の維持・向上に向けた援助を理解する。
 3. 高齢者に特徴的な健康状態の看護を理解する。

講 義 内 容

回	単 元	学 習 内 容	授 業 形 態	時 間	備 考
1 (20	1. 高齢者の生活機能を整える看護	1) 高齢者とのコミュニケーション (1) 高齢者とのコミュニケーションとかわり方の原則 (2) コミュニケーション能力のアセスメント (3) 高齢者の状態・状況に応じたコミュニケーションの方法 ①難聴・視力障害 ②失語症・構音障害 (4) コミュニケーション障害のアセスメントと看護	講義	2	4-3)・4-8) 4-13) 関節可動域 訓練ができる FIM評価の 演習
		2) 日常生活を支える基本的活動 (1) 基本動作と環境のアセスメント (2) 生活の基本となる日常生活動作	講義・演習	4	
		3) 転倒のアセスメントと看護 4) 廃用症候群のアセスメントと看護 5) 基本動作の実際 (1) 関節可動域・筋力強化訓練 MMTの実際 (2) リハビリテーションの実際		2	
		6) 日常生活活動の評価 (1) F I M	講義・演習	4	
		7) 食事に対する看護ケア (1) 高齢者における食生活の意義 (2) 高齢者に特徴的な変調 ①加齢に伴う摂食嚥下機能の変化 ②老年期に多い疾患による摂食嚥下機能障害 ③摂食・嚥下機能の変調 (3) 食生活のアセスメント (4) 食生活の支援 (5) 口腔ケア	講義・演習 講義・演習	6	
		(6) 食生活の再構築に向けた援助	講義・演習 講義・演習	2 8	

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
		(2) 呼吸困難に関するケア (3) 痰の喀出を促すケア 9) 骨粗鬆症 (1) 骨粗鬆症の特徴 (2) 若年期からの骨粗鬆症予防 10) 骨折 (1) 腰椎圧迫骨折 (2) 大腿骨近位部骨折 11) うつ (1) うつ (2) せん妄	講義		
23		テスト		2	

テ キ ス ト 系統看護学講座専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院
 参 考 文 献 ナーシンググラフィカ高齢者の健康と障害 老年看護学 メディカ出版
 評 価 方 法 テスト レポート

【講義出席チェック】

回	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
日時															
出席															
回	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓							
日時															
出席															

回	単元	学習内容	授業形態	時間	備考
10 14	3. 健康障害のある 高齢者のアク ティビティケ ア	1) 健康支援とアクティビティケア (1) 高齢者の健康状態に応じたア クティビティケア (2) アクティビティケアの企画・ 実際	講義・演習 発表	10	アクティビ ティケアの 企画・ロー ルプレイ
15		テスト		2	

テキスト 系統看護学講座専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院
 生活機能から見た老年看護過程＋病態・生活機能関連図 医学書院
 参考文献 健康障害をもつ高齢者の看護 メヂカルフレンド社
 評価方法 テスト

【講義出席チェック】

回	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
日時															
出席															

小児看護学

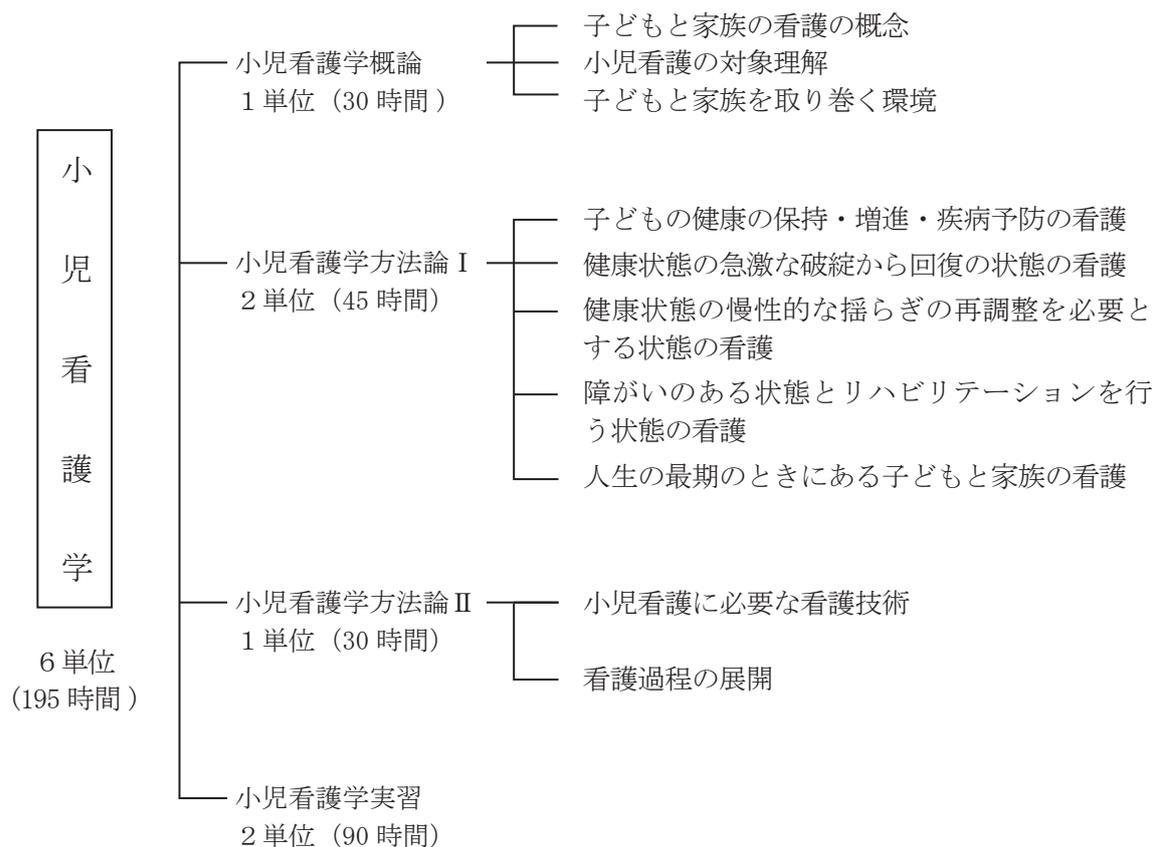
目的

小児看護の対象である子どもの特徴を理解し、さまざまな健康状態にある子どもとその家族に対して、看護を実践するために必要な知識・技術・態度を養う。

目標

1. 子どもの権利を擁護し、子どもと家族の最善の利益を守ることができる倫理観を養う。
2. 成長・発達し続けている子どもの特徴をとらえ、身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解する能力を養う。
3. 健康上の課題をもつ子どもと家族に対し、科学的根拠に基づいた看護を実践する基礎的能力を養う。
4. 小児看護の機能と役割を認識し、保健医療福祉チームおよび教育機関と連携・協働できる基礎的能力を養う。
5. 小児看護への興味・関心を深め、専門職業人として学習し続ける能力を養う。

科目構成



科 目 名 小児看護学概論

単 位 (時 間 数) 1 単 位 (30 時 間)

履 修 年 次 1 年 次 後 期

講 義 の 概 要 小児看護の対象である子どものとらえ方や、さまざまな統計資料から現代家族の特徴について学び、小児看護において子どもと家族は、ひとつの援助対象であることを学ぶ。また、子どもの権利を尊重し、子どもと家族の最善の利益を守るための小児看護における倫理について学ぶ。

子どもの特性の理解として、成長・発達の原則、発達理論、形態的・機能的成長・発達、心理社会的発達、小児の栄養、発育・発達の評価について学び、成長・発達に対する理解を深める。

子どもを取り巻く家族・社会および自然環境を含めた広い視野で対象を理解するために、小児の出生・死亡・疾病構造の変化と関連づけながら、子どもの健康を守るためにはどのような法律や施策があるのかを学ぶ。子ども観および小児看護の歴史を振り返り、小児保健医療の動向や今後の課題について考える。最後に、環境との相互作用がうまくいかず、適応できない場合、子どもの成長・発達にどのように影響し、健康課題が生じるのか演習や発表を通して共通理解する。

- 目 標
1. 小児看護の対象について理解できる。
 2. 小児看護の歴史について理解できる。
 3. 子どもの権利を尊重した看護について理解できる。
 4. 小児看護の機能と役割および今後の課題が理解できる。
 5. 子どもの成長、発達の特徴が理解できる。
 6. 子どもと家族の特性および、現代家族の特徴について理解できる。
 7. 主な統計、小児保健施策から子どもと家族を取り巻く環境について理解できる。
 8. 子どもと家族を取り巻く環境と健康課題について理解できる。

講 義 内 容

回	単 元	学 習 内 容	授 業 形 態	時 間	備 考
1 { 2	1. 子どもと家族の看護の概念	1) 小児看護の対象 (1) 子どもとは 2) 小児看護の歴史の変遷 (1) 子ども観の変遷 (2) 小児医療の変遷 (3) 小児看護の変遷 3) 小児看護における倫理 (1) 子どもの権利 4) 様々な場における小児看護の機能と役割 (1) 外来における子どもと家族の看護 (2) 入院を必要とする子どもと家族の看護 (3) 在宅療養中の子どもと家族と看護	講義	4	
3 { 8	2. 小児看護の対象理解	1) 子どもの特性 2) 子どもの成長・発達の概念、一般的原則	講義	12	『人間関係論』『発達心理学』と関連

科 目 名 小児看護学方法論 I

単 位 (時 間 数) 2 単 位 (45 時 間)

履 修 年 次 2 年 次 前 期

講 義 の 概 要 「子どもの健康の保持・増進、疾病予防のための看護」では、小児各期の発達段階に応じた日常生活や、子どもの成長・発達を促す援助・家族への援助について学ぶ。

「健康状態の急激な破綻から回復の促進の看護」「健康状態の慢性的な揺らぎの再調整を必要とする状態の看護」「障がいのある状態とリハビリテーションを行う状態の看護」「人生の最期のときの看護」では、子どもの様々な健康状態における看護の特徴を学び、それぞれの健康状態に特有な健康障害や入院が子どもの成長・発達に与える影響と子どもの反応、子どもと家族の生活に及ぼす影響について理解を深める。また、疾病治療学VIの学習をふまえ、各健康状態に関連した頻度の高い疾患や、直面しやすい健康上の課題について学ぶ。さらに健康回復のための援助について学び、小児看護の知識を深める。

- 目 標
1. 発達段階に応じた日常生活の援助が理解できる。
 2. 健康状態の急激な破綻から回復の状態の看護について理解できる。
 3. 健康状態の慢性的な揺らぎの再調整を必要とする状態の看護について理解できる。
 4. 障がいのある状態とリハビリテーションを行う状態の看護について理解できる。
 5. 人生の最期のときの看護について理解する。

講 義 内 容

回	単 元	学 習 内 容	授 業 形 態	時 間	備 考
1 └ 4	1. 子どもの健康の保持・増進、疾病予防のための看護	1) 子どもの発達段階に応じた日常生活の援助 (1) 生活習慣の自立過程と養護 ①食事・栄養②排泄③運動・睡眠 ④清潔・衣服の着脱 (2) 遊ぶ・学習する (3) 事故防止	演習	8	GW・発表レポート提出
5 └ 6	2. 健康状態の急激な破綻から回復の促進の看護	1) 急性的経過をたどる健康障害と看護 (1) 症状のアセスメントと看護 ①発熱 ②脱水 ③呼吸困難 ④けいれん ⑤意識障害 (2) 川崎病の小児の看護	講義	4	レポート課題 共同学習会
7 └ 8		2) 感染症・隔離が必要な小児と家族の看護 ①ウイルス感染症の小児の看護 ・麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎、手足口病など ・RSウイルス ②細菌感染症の小児の看護 ・細菌性肺炎 ③乳児下痢症(ロタウイルス))	講義	4	外来講師(試験)

回	単 元	学習内容	授業形態	時間	備考
9 ～ 12		3) 周手術期の小児と家族の看護 (1) 子どもの手術の特徴 (2) 手術を受ける小児と家族の反応 (3) 術前・術当日・術後急性期・回復期の看護 ①腸重積症の小児の看護 ②先天性心疾患の小児の看護(ファロー四徴症) ③口唇・口蓋裂の小児の看護 ④肥厚性幽門狭窄症 ⑤二分脊椎症	講義	8	外来講師 (試験)
13		(4) プレパレーションの意義 ・発達段階別 ・検査処置を受ける子どもと家族の看護	講義	(2)	外来講師 (レポート提出)
14 ～ 15		4) 活動制限が必要な子どもと家族の看護(運動機能障害) (1) 先天性股関節脱臼 (2) 骨折 ・ギブズ装着中(牽引中)の看護	講義	2	外来講師 (試験)
		5) 低出生体重児・ハイリスク新生児と家族の看護 (1) 低出生体重児・ハイリスク新生児の集中治療と看護 (2) 親子・家族関係の促進	講義	4	外来講師 (試験)
		6) 先天異常のある子どもと家族 (1) 出生前後の看護 ①診断告知時の看護 ②ドローターの仮説モデル (2) 子どもの発達段階に応じた看護 ①ダウン症候群 ②18トリソミー			
16 ～ 18	3. 健康状態の慢性的な揺らぎの再調整を必要とする状態の看護	1) 慢性的経過をたどる健康障害と看護 (1) 健康障害の特徴と看護 (2) 健康障害の主な症状と看護 (3) アセスメントの視点 ①気管支喘息の小児の看護 ②食物アレルギー(アトピー性皮膚炎)の小児の看護 ③1型糖尿病をもつ小児の看護 ④ネフローゼ症候群の小児の看護	講義	6	
19 ～ 20	4. 障がいのある状態とリハビリテーションを行う状態時の看護	4) 障害と共に育つ子どもへの看護 ①発達障害の子どもと家族 ②けいれん性疾患の小児の看護 ③脳性まひの子どもの看護 5) 在宅・地域の子どもの看護 (1) 入院から在宅への移行の支援 (2) 多職種との連携と社会資源の活用	講義	4	外来講師 (レポート提出) (レポート提出)

回	単元	学習内容	授業形態	時間	備考
		(3) 医療的ケアを必要とする子どもと家族の看護			
21 ↳ 22	5. 人生の最期のときにある子どもと家族の看護	1) 人生の最期のときにある子どもと家族 (1) 子どもの死の概念 (2) 人生の最期のときにある子どもの看護 (3) 人生の最期のときにある家族への看護 (緩和ケア、グリーフケア) ①白血病の小児の看護	講義	4	外来講師 レポート 提出
23		テスト		1	

テ キ ス ト 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 [1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 [2] 小児臨床看護各論 医学書院

参 考 文 献 ナーシンググラフィカ小児看護学 小児の発達と看護 メディカ出版
健康障害をもつ小児の看護 小児看護学② メヂカルフレンド社
小児看護学 子どもと家族の示す行動への判断とケア 日総研
小児Ⅰ・Ⅱ 新看護観察のキーポイントシリーズ 中央法規

評 価 方 法 テスト レポート

【講義出席チェック】

回	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
日時															
出席															
回	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓							
日時															
出席															

科 目 名 小児看護学方法論Ⅱ

単 位 (時 間 数) 1 単 位 (30 時間)

履 修 年 次 2 年次 前期～後期

講 義 の 概 要 小児看護学方法論Ⅱでは、小児看護学概論・方法論Ⅰで学んだ知識を踏まえ、小児看護に必要な看護技術について学ぶ。小児技術の中でも、特に実践の頻度が多く、留意を要する技術項目を精選した。小児の看護技術を実践する際には、子どもに対し、一人の人間として尊重する姿勢を大切にしながら、発達段階に応じた援助技術の選択や、子どもの反応や状況に合わせて対応していく必要がある。現在の小児医療の現場では、プレパレーションは、特別な行為ではなく、日常的に行われるべき倫理的な作業の一つであり小児看護において学ぶ意義は大きい。実際の場面でこれらを展開できるよう、演習を取り入れながら小児看護に必要な看護技術を習得する。また、学んだ知識を統合し、応用する能力を養うために看護過程を展開し学習する。

- 目 標
1. 小児看護において必要な看護技術が習得できる。
 2. 健康上の課題をもつ小児および家族の身体的・精神的・社会的な状況を適切にアセスメントし、科学的根拠に基づいて看護過程を展開することができる。

講 義 内 容

回	単 元	学習内容	授業形態	時間	備考	
1 ～ 2	1. 小児看護に必要な看護技術	1) 援助関係を形成する技術 (1) 発達段階別コミュニケーション 2) 検査や処置を受ける小児の看護 (1) 小児に特有な技術 ①吸入・吸引・酸素療法 ②経管栄養 ③採血、採尿 ④抑制・固定 ⑤与薬の技術 (経口、坐薬、輸液管理) ⑥骨髄穿刺、腰椎穿刺 ⑦浣腸	講義 演習	4	協同学習 ①～⑦事前課題作成	
3 ～ 4		(2) 小児に特有な技術とプレパレーションの実際 ①吸入・吸引 ②酸素療法 ③採血、採尿 (抑制・固定) ④与薬の技術 (経口、坐薬) ⑤与薬の管理 (輸液管理)	演習	4		ロールプレイ
5		3) 小児の救命処置	講義 演習	2		外来講師 (筆記試験)
6 ～ 11	2. 看護過程の展開	1) 小児の看護過程の実際 (1) アセスメント ①情報の分類・整理 ②情報の解釈・分析 ③全体像 (2) 看護問題の明確化 ①看護問題の抽出 ②優先順位の設定 (3) 看護計画の立案	講義 演習	12	協同学習	

回	単元	学習内容	授業形態	時間	備考
12 13		【事例】経過に応じた看護展開 ・気管支喘息 ・ネフローゼ症候群 ・川崎病 (4) 小児看護援助の実際 ＊看護過程の事例をもとに小児看護技術の実施 ①援助関係を形成する技術 ・コミュニケーション ・子どもへの説明と同意 ②バイタルサイン測定 ③フィジカルアセスメント ④身体測定	演習	4	シュミレーション
14		(5) 看護計画の評価・まとめ		2	
15		テスト		2	

テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 [1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院
 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 [2] 小児臨床看護各論 医学書院

参考文献 小児看護技術 医学書院
 ナーシンググラフィカ小児看護学 小児看護技術 メディカ出版
 小児Ⅰ・Ⅱ 新看護観察のキーポイントシリーズ 中央法規
 小児看護実習ガイド 照林社
 写真でわかる小児看護技術 インターメディカ
 小児医療の現場で使えるプレパレーションガイドブック 日総研
 発達段階からみた小児看護過程+病態関連図 医学書院

評価方法 テスト レポート (講義受講後レポート、技術演習手順書課題、看護過程、プレパレーションレポート課題)

【講義出席チェック】

回	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
日時															
出席															

母性看護学

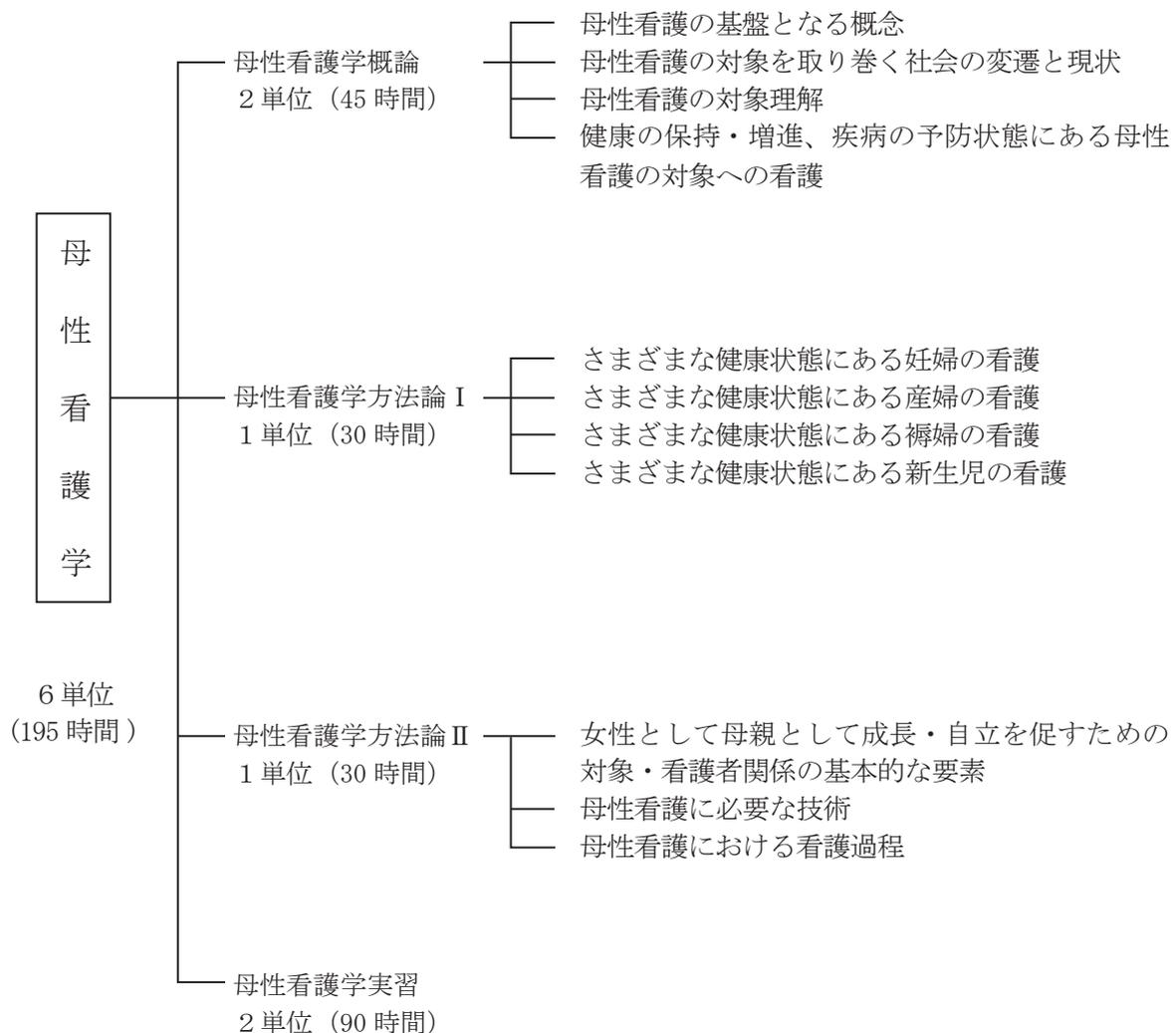
目 的

女性を取り巻く環境や性の意義を理解し、女性のライフサイクルの変化や健康状態に応じた看護の基礎的能力を養う。

目 標

1. 女性を取り巻く環境や性の意義を理解し、生命の尊厳への配慮と倫理観を養う。
2. 母性看護の対象を統合的に捉え、家族を含めて理解できる。
3. 女性のマタニティサイクル（妊娠・分娩・産褥）や新生児についての生理や疾病を理解し、心理的・社会的特徴をふまえ、援助方法を学ぶ。
4. 母子保健活動の実際を通して、保健医療福祉チームの一員としての役割を理解する。
5. 母性看護の現状に関心を持ち、専門職業人として学習し続ける能力を養う。

科目構成



科 目 名 母性看護学概論

単 位 (時 間 数) 2単位 (45時間)

履 修 年 次 2年次 前期

講 義 の 概 要 母性看護の対象であるすべての女性を内分泌的な変化から見た発達段階にわけて身体的・心理的・社会的な側面から理解する内容とした。
また、近年の母性看護をめぐる社会的な変化を広く捉え、母性看護の機能と役割を理解する内容とした。

- 目 標
1. 母性看護の基礎となる概念・性の意義について理解する。
 2. 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状について理解を深め、母性看護の役割を理解する。
 3. 母性看護の対象を身体的・心理的・社会的特徴について理解する。
 4. 健康の保持・増進、疾病の予防状態にある母性看護の対象への看護の必要性や健康教育について理解する。

講 義 内 容

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
1) 7	1. 母性看護の基盤となる概念	1) 母性とは・・・① (1) さまざまな定義の母性 (2) 父性とは 2) 家族とは・・・② (1) 家庭機能と発達 3) 母子・父子関係と家族発達 (1) 愛着・母子相互作用と母子関係 (2) 母性・父性・親性の発達 4) 女性・家族のライフサイクル 5) セクシュアリティ (人間の性)・③ (1) セクシュアリティの発達と課題 6) リプロダクティブヘルス/ライツ (1) リプロダクティブヘルス/ライツの概念と課題 7) 女性の生涯にわたる健康教育・・・⑦ (1) 女性の健康教育の必要性 8) 母性看護における倫理 (1) 生命倫理と看護倫理 (2) 看護における倫理的意思決定 9) 母性看護における安全・事故予防	講義	13	
	2. 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状	1) 母性看護の歴史的変遷と現状④～⑥ (1) 母性看護の変遷 (2) 母子保健統計からみた動向 (3) 母子保健施策からみた現状 (4) 母性看護の対象を取り巻く環境 ①家族 ②地域社会 ③生物学的環境 ④社会文化的環境			⑦ (1時間)

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
		(5) 母性看護に関する組織と法律 (6) 母性看護の場と職種			
8 （ 18	3. 母性看護の対象 理解	1) 女性のライフサイクルに伴う形 態・機能の変化・・・⑧⑨ 2) マタニティサイクルにおける女性 の形態・機能 (1) 妊娠期の形態と機能・⑩～⑫ (2) 分娩期の形態と機能・・・⑬⑭ (3) 産褥期の形態と機能・・・⑮⑯ (4) 新生児期の形態と機能・⑰⑱	講義	22	不妊のメ カニズム を含む
19 （ 22	4. 健康の保持・増 進、疾病の予 防状態にある 母性看護の対 象への看護	1) ライフサイクルにおける女性の健 康と看護の必要性・・・⑲ 2) 思春期の健康教育・・・⑲⑳ 3) 成熟期の健康教育・・・㉑ 4) 更年期・老年期の健康教育・㉒ 5) ライフサイクル各期にまたがる健 康教育・・・㉓	講義	8	
23		テスト・・・㉔		2	

テ キ ス ト 系統看護学講座 母性看護学概論 医学書院
系統看護学講座 母性看護学各論 医学書院

参 考 文 献 新体系看護学全書 母性看護学①② メヂカルフレンド社
母性看護学Ⅱマタニティーサイクル 南江堂
母性看護学Ⅱ周産期各論 医歯薬出版株式会社
病気が見える産科 MEDIC MEDIA
国民衛生の動向

評 価 方 法 テスト、豆テスト（講義に出席していない豆テストは加点されません）
課題レポート（提出期限の遅れは採点されません）

【講義出席チェック】

回	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
日時															
出席															
回	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓							
日時															
出席															

科 目 名 母性看護学方法論 I

単 位 (時 間 数) 1 単 位 (30 時 間)

履 修 年 次 2 年 次 前 期 ~ 後 期

講 義 の 概 要 さ ま ざ ま な 健 康 状 態 に あ る 母 性 看 護 の 対 象 : 妊 婦 ・ 産 婦 ・ 褥 婦 お よ び 新 生 児 の 特 徴 を 踏 ま え て 援 助 方 法 を 理 解 す る 内 容 と し た 。

- 目 標
1. 健康の保持・増進、疾病の予防状態にある妊婦・産婦・褥婦・新生児の援助方法を理解する。
 2. さ ま ざ ま な 健 康 状 態 の 妊 婦 ・ 産 婦 ・ 褥 婦 ・ 新 生 児 の 援 助 方 法 を 理 解 す る 。

講 義 内 容

回	単 元	学 習 内 容	授 業 形 態	時 間	備 考
1 3	1. さ ま ざ ま な 健 康 状 態 に あ る 妊 婦 の 看 護	1) 妊婦と家族の看護・・①② (1) 妊婦の身体的健康状態と看護 (2) 妊婦の心理・社会的健康と看護 (3) 胎児の健康状態の観察と看護 2) 妊婦の異常と看護・・③	講義	6	不妊の看護を含む
4 7	2. さ ま ざ ま な 健 康 状 態 に あ る 産 婦 の 看 護	1) 産婦と家族の看護・・④⑤⑥ (1) 安全な分娩への看護 (2) 安楽な分娩への看護 (3) 出産体験が肯定的になるための看護 (4) 基本的ニーズに関する看護 (5) 分娩期の看護の実際 第1期の看護の実際 第2期の看護の実際 第3・4期の看護の実際 2) 産婦の異常と看護・・⑦	講義	8	
8 12	3. さ ま ざ ま な 健 康 状 態 に あ る 褥 婦 の 看 護	1) 褥婦と家族の看護・・⑧⑨⑩⑪ (1) 生殖器の復古過程(退行性変化)と看護 (2) 全身の復古過程(退行性変化)と看護 (3) 母乳分泌過程(進行性変化)と看護 (4) 母親役割促進(家族関係再構築含む)に向けての看護 2) 褥婦の異常と看護・・⑫ 3) 母子分離時の褥婦の看護・・⑬	講義	10	
13 14	4. さ ま ざ ま な 健 康 状 態 に あ る 新 生 児 の 看 護	1) 新生児の看護・・⑭ 2) 新生児の異常と看護・・⑮	講義	4	
15		テスト・・⑯		2	

テキスト 系統看護学講座 母性看護学各論 医学書院
 参考文献 新体系看護学全書 母性看護学② メヂカルフレンド社
 母性看護学Ⅱマタニティーサイクル 南江堂
 母性看護学Ⅱ周産期各論 医歯薬出版株式会社
 病気が見える産科 MEDIC MEDIA
 評価方法 テスト、豆テスト（講義に出席していない豆テストは加点されません）
 課題レポート（提出期限の遅れは採点されません）

【講義出席チェック】

回	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
日時															
出席															

科 目 名 母性看護学方法論Ⅱ

単 位 (時 間 数) 1 単 位 (30 時 間)

履 修 年 次 2 年 次 後 期

講 義 の 概 要 母性看護を展開するために必要な看護過程の展開方法やヘルスアセスメントに必要な技術や対象との援助関係形成のための技術や援助技術を理解し習得する内容とした。

目 標 1. 母性看護に必要な技術及び保健指導の実際を習得する。
2. 母性看護における看護過程の特徴を理解する。

講 義 内 容

回	単 元	学 習 内 容	授 業 形 態	時 間	備 考
1 (5	1. 女性として母親として成長・自立を促すための対象・看護者関係の基本的な要素	1) 信頼関係形成のための関わり方： 純粋性（自己一致）、尊重性（受容）、共感的態度、プライバシーへの配慮、知識・技術の確かさ 2) 対象・看護師関係の構築・発展のプロセス (1) 関係を持ち始める時期 (2) 関係を持ち続ける時期 (3) 新たな人との関係に展開する時期 *産褥期の保健指導の場면을シミュレーションを通して学ぶ・・・④⑤	演習	4	技術のデモスト中で行う
	2. 母性看護に必要な技術	1) 母性看護に必要な看護技術 (1) 妊娠期：・・・① ①レオポルド触診法 ②子宮底の測定 ③胎児心音の聴取、NSTの装着 (2) 新生児期： ①沐浴 (3) 産褥期： ①子宮底の測定 ②育児技術（抱き方、排気のさせ方、おむつ交換） ③母乳育児について・・・②③	演習	2 4	
6 (14	3. 母性看護における看護過程	1) 母性看護における看護過程・・・⑥ 情報収集の方法 アセスメントの視点 問題の明確化 看護目標と具体策の挙げ方 評価の方法 2) ウェルネス看護診断の考え方と展開・・・⑥ 3) 看護過程の展開の実際・・・⑦～⑩ (1) 産褥期にある対象の健康課題を抽出	講義 演習	18	

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
		(2) 看護目標や具体策を抽出 (3) リスクのある褥婦の看護過程・⑭ 4) 母性看護における保健指導の実際 (1) 抽出した具体策に沿って保健指導案を作成する・・・⑪ (2) 保健指導のあり方・・・⑫⑬ 指導場面のリフレクション 指導場面の評価 (経過記録・評価記録の書き方)			
15		テスト・・・⑮		2	

テ キ ス ト 系統看護学講座 母性看護学各論 医学書院

参 考 文 献 新体系看護学全書 母性看護学② メヂカルフレンド社
 母性看護学Ⅱマタニティーサイクル 南江堂
 母性看護学Ⅱ周産期各論 医歯薬出版株式会社
 ナーシンググラフィカ 母性看護技術 メディカ出版
 看護実践のための根拠がわかる母性看護技術 メヂカルフレンド社
 ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程 医歯薬出版
 根拠がわかる母性看護過程 南江堂

評 価 方 法 テスト、看護過程レポート、指導パンフレット、演習 (シミュレーション)
 看護過程レポート・パンフレットなど提出期限の遅れは加点されません。
 演習 (シミュレーション) の欠課は加点されません。

【講義出席チェック】

回	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
日時															
出席															

精神看護学

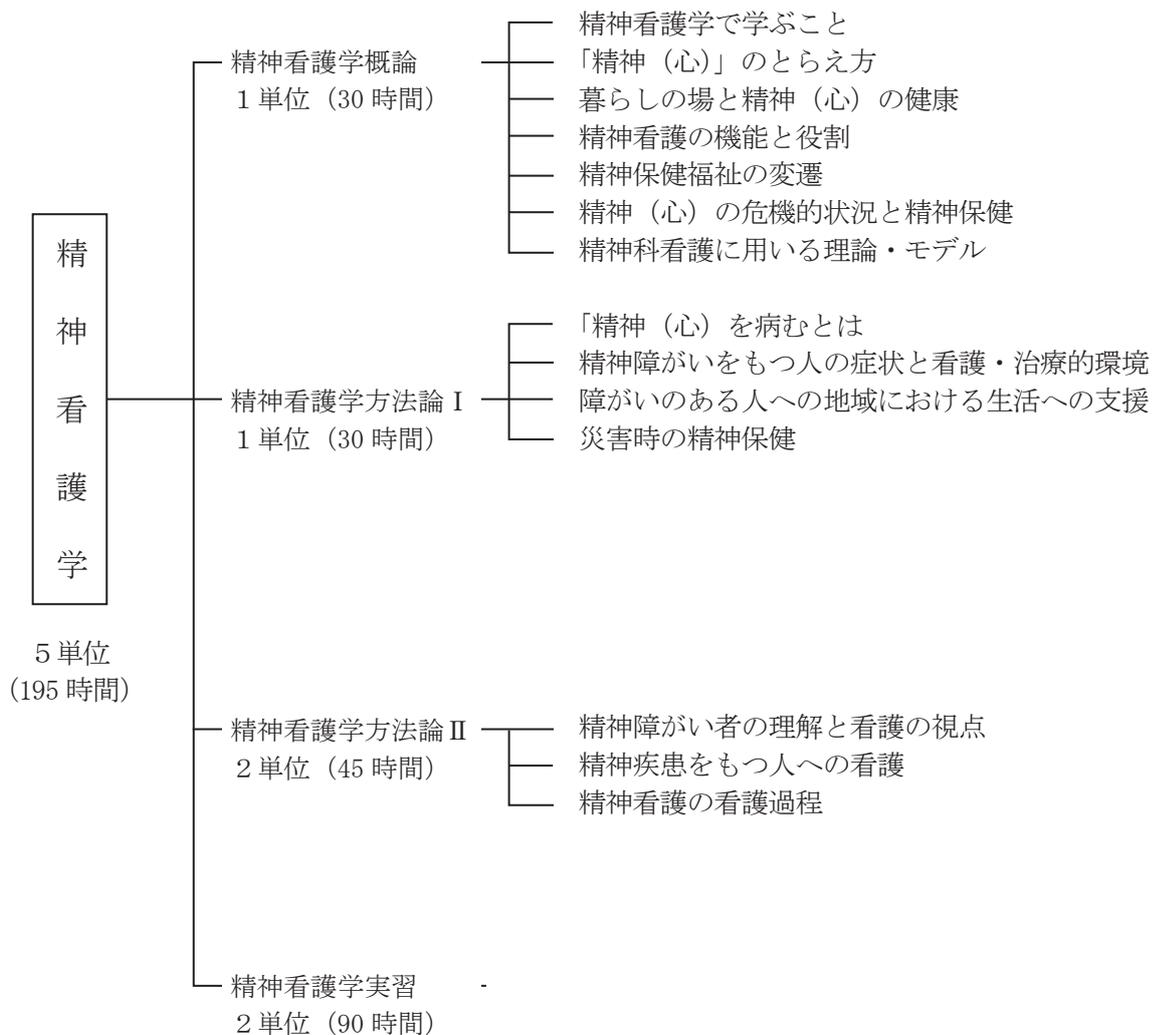
目的

精神看護のあらゆる対象を理解し、心の健康の保持増進および心に障がいを受けた人々と家族を含めた健康回復への支援ができる基礎能力を学ぶ。また対人援助技術を高め、治療的環境について理解を深める。

目標

1. 精神看護の対象である人に対し、尊厳と高い倫理観を兼ね備えた豊かな人間性を養う。
2. 精神看護の対象である人間を、身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解する能力を養う。
3. 精神看護の対象の健康上の課題に対応するために、科学的根拠に基づいた知識と技術を身につけ、看護を実践できる能力を養う。
4. 精神保健医療福祉における看護師の役割を理解し、チームの一員として他の職種と協力できる能力を養う。
5. 精神看護をとりまく社会情勢に関心を持ち、専門職業人として学習し続ける能力を養う。

科目構成



科 目 名 精神看護学概論

単 位 (時 間 数) 1 単位 (30 時間)

履 修 年 次 2 年次 前期

講 義 の 概 要 本科目では、精神看護の基盤的な概念となる心について学ぶ。精神看護学では、すべての人々の心の健康について考え対象理解を深める。また、家庭や学校、職場における人間関係の中で心は影響し合っていることを学習する。さらに、心の健康の維持とライフサイクルにおける心の健康と発達について学び、現代社会の社会病理からみた心のあり方と精神看護学の位置付けを学ぶ。

精神保健福祉の歴史的な変遷から、今日の制度の成り立ちまでを学び、入院中の患者の処遇及び精神保健福祉法と関連付けて学習する。また、精神看護に用いる看護理論を学ぶことで、知識や技術と態度を養う。

- 目 標
1. 現代社会における心の発達と健康を理解する。
 2. 人間関係と心の関係を理解する。
 3. 発達段階における心の発達と健康について理解する。
 4. 精神保健福祉制度について学び精神障がい者への理解を深める。
 5. 精神看護学の考え方と看護師の役割を理解する。

講 義 内 容

回	単 元	学 習 内 容	授 業 形 態	時 間	備 考
1 ～ 2	1. 精神看護学で学ぶこと	1) 精神保健で扱われる現象 2) 精神的健康の保持・増進としての精神保健 3) 地域精神保健	講義	4	
3 ～ 4	2. 「精神 (心) 」のとらえ方	1) 心と脳の関係 2) 精神 (心) の構造とはたらき (1) 精神力動理論 (フロイト) (2) 防衛機制 3) 精神 (心) の発達 (1) フロイト (2) エリクソン (3) ハウィガースト	講義	4	発達心理学と関連
5 ～ 7	3. 精神看護の対象を取り巻く環境	1) 暮らしの場と精神 (心) の健康 (1) 精神 (心) の健康 (2) 学校と精神 (心) の健康 (3) 職場・仕事と精神 (心) の健康 (4) 地域社会と精神 (心) の健康 2) 現代社会と精神 (心) の健康 (1) 現代社会の特徴 (2) 現代社会における精神保健の主な問題 ①ドメスティック・バイオレンス ②ひきこもり ③ハラスメント ④自殺 ⑤不登校	講義	6	発達心理学と関連

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
		⑥いじめ ⑦自傷行為 ⑧虐待 ⑨依存（アルコール・薬物・ギャンブル・IT）			
8	4. 精神看護の機能と役割	1) 精神看護とは 2) 精神看護の役割の広がり 3) 精神看護の専門性	講義	2	
9 } 10	5. 精神保健福祉の変遷	1) 精神保健医療福祉の歴史と現在の姿 (1) 諸外国における精神医療福祉 (2) 我が国の精神保健福祉と法制度 (3) 司法精神医学	講義	4	精神保健の歴史的な変遷を踏まえる
11 } 12	7. 精神（心）の危機的状況と精神保健	1) 危機とは 2) ストレスとコーピング 3) 適応と不適応 4) セルフマネジメント	講義 演習	4	
13 } 14	8. 精神看護に用いる看護理論・モデル	1) 人間関係論 (1) ペプロウ (2) オーランド 2) 精神科看護と看護理論 (1) オレムセルフケアに関する理論 (2) オレムアンダーウッドモデル	講義	4	
15		テスト		2	

テ	キ	ス	ト	新体系看護学全書、精神看護学①、精神看護学概論 精神保健、メヂカルフレンド社 新体系看護学全書、精神看護学②、精神障害をもつ人の看護、メヂカルフレンド社
参	考	文	献	系統看護学講座、精神看護の基礎、精神看護学①、医学書院 国民衛生の動向 国民の福祉と介護の動向 精神看護学 I、精神保健学、ヌーヴェルヒロカワ 精神看護学、第 1 版、医学芸術新社
評	価	方	法	テスト

【講義出席チェック】

回	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
日時															
出席															

科 目 名 精神看護学方法論 I

単 位 (時 間 数) 1 単位 (30 時間)

履 修 年 次 2 年次 前期～後期

講 義 の 概 要 本科目では、精神科の診療に伴う診察や検査時の看護の基本的な援助について学ぶ。幻覚妄想や不安などの精神症状に対する看護と、精神看護の倫理について学び、精神障害者の抱える「生活のしづらさ」を改善するための生活技能訓練と、社会療法および薬物療法について学習する。
精神科リハビリテーションについて学び、精神障がい者がその人らしく地域や病院で自立的に生活できる援助方法を学ぶ。発達段階別の危機と災害時などの特殊な場面における心の働きを学ぶことで、対象の理解を深めていく。精神科看護におけるリスクマネジメントについて考え、対象にとっての安全について学ぶ。

- 目 標
1. 精神科の診療に伴う診察と、検査時の看護の援助技術について理解できる。
 2. 主な精神症状に対する看護が理解できる。
 3. 精神科リハビリテーションについて理解できる。
 4. 精神障がい者がその人らしく日常生活が送れるように援助できることを理解する。
 5. 危機的状況と心の働きを理解し、看護介入の方法を理解する。
 6. 精神看護学におけるリスクマネジメントについて理解できる。

講 義 内 容

回	単 元	学 習 内 容	授 業 形 態	時 間	備 考
1	1. 精神障がいをもつ人の症状と看護・治療的環境	1) 「精神 (心) を病む」とはどうか 2) 精神障害とスティグマ (1) スティグマ (2) 生活のしづらさ 3) 精神障害をもつ人はどのようなことを経験し感じているか 4) 精神障害とともに生きる	講義	2	
2 5 9	2. 精神障がいをもつ人の症状と看護・治療的環境	1) 精神症状と看護 (1) 不安状態 (2) 抑うつ状態 (3) 幻覚・妄想・興奮状態 2) 診察に伴う看護 3) 検査に伴う看護 4) 薬物療法に伴う看護 5) 電気けいれん療法 6) 精神療法を受ける患者の看護 7) 社会療法を受ける患者への援助 (1) 社会生活技能訓練(SST) (2) 心理教育 (3) 作業療法 8) 精神科病棟という治療的環境と患者の生活 (1) 精神障がいをもつ人にとっての入院の意味	講義	16	

回	単元	学習内容	授業形態	時間	備考
		(2) 治療的環境の整備 (3) 事故防止・安全管理と倫理的配慮 9) 精神看護における倫理			
10 ～ 13	3. 精神に障がいをもつ人への地域における生活への支援	1) 地域精神保健福祉と社会参加 (1) 地域精神保健福祉の考えかた (2) 精神障がいをもつ人の社会参加と権利擁護 (3) 地域精神保健福祉における多職種連携とアウトリーチ 2) 精神障がいをもつ人の地域生活支援の実際 (1) 地域生活を支える社会制度 (2) 地域生活支援における保健師の役割 (3) 長期入院患者の地域生活への移行支援 (4) 地域生活支援の実際 (5) 就労支援 3) 精神障がいをもつ人の家族への支援	講義	8	保健医療福祉論、社会保障制度と社会福祉の関連
14	4. 災害時の精神保健	1) 災害時の精神保健：災害時地域精神保健医療活動と心のケア (1) 災害時の精神保健医療活動の基本 (2) 災害とストレス (3) 災害時の精神保健初期対応 (4) 災害派遣精神医療チーム (DPAT) (5) 被災した精神障がい者への支援	講義	2	
15		テスト		2	

テキスト 新体系看護学全書、精神看護学①、精神看護学概論 精神保健、メヂカルフレンド社

新体系看護学全書、精神看護学②、精神障害をもつ人の看護、メヂカルフレンド社

参考文献 系統看護学講座、精神看護の基礎、精神看護学②、医学書院
系統看護学講座、別巻、精神保健福祉、医学書院
精神看護学Ⅰ、精神保健学、ヌーヴェルヒロカワ
精神看護学Ⅱ、精神保健学、ヌーヴェルヒロカワ
精神看護学、第1版、医学芸術新社

評価方法 テスト

【講義出席チェック】

回	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
日時															
出席															

科 目 名 精神看護学方法論Ⅱ

単 位 (時 間 数) 2単位 (45時間)

履 修 年 次 2年次 後期

講 義 の 概 要 本科目では、事例を通して精神に障がいをもつ対象を統合的（身体的・精神的・社会的側面）に理解し、健康な側面に注目しながら看護実践に必要な看護過程の展開（援助方法）を理解する。

精神障がい者の理解と看護を実践するために、必要な人間関係形成の方法援助を発展させるためにプロセスレコードを用いて自己洞察、自己理解、患者と看護師の相互作用について学ぶ内容とする。また、精神障がい者を理解する上で必要な、統合失調症をはじめとする精神疾患をもつ患者の看護について学び、精神障がい者がその人らしく生活できる援助方法を学習する。

- 目 標
1. 精神科看護におけるコミュニケーションを学び、患者－看護師関係を踏まえた人間対人間の看護について理解できる。
 2. 主な精神疾患の看護が理解できる。
 3. 精神科看護における看護過程が展開できる。

講 義 内 容

回	単 元	学 習 内 容	授 業 形 態	時 間	備 考
1 ～ 6	1. 精神障がい者の理解と看護の視点	1) 精神障がいをもつ人とのかかわりかた (1) 「患者－看護師」関係の目指すこと (2) 「患者－看護師」関係を理解するための手がかり (3) 関係構築にあたっての基本的な態度 (4) 患者とのかかわりで起こりうることと対処 2) 精神障がいをもつ人とのコミュニケーション (1) コミュニケーションとは (2) 精神障がいをもつ人とのコミュニケーションの特徴 (3) コミュニケーション技法 3) 精神障がいをもつ人との関係の振り返り (1) プロセスレコード 4) 日常生活援助 (1) その人らしい生活を目指して (2) 日常生活能力 5) 患者による自己管理 (1) セルフマネジメントの背景 (2) 患者と医療者の関係からみたセルフマネジメント (3) セルフマネジメントのための疾病教育 (4) 服薬自己管理	講義 演習	12	グループワーク 事例を通してプロセスレコードをグループで検討し発表する

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
		(5) 当事者の当事者による自己管理 6) 看護援助の基本構造 (1) 情報収集・アセスメント (2) 看護診断 (3) ケアプラン (4) 実 施 (5) 評 価 (6) 看護過程の記録			
7 { 14	2. 精神疾患をもつ 人への看護	1) 気分(感情)障がいの看護 2) パーソナリティ障害 3) 神経症・強迫性障害 4) 摂食障害患者の看護 5) アルコール・薬物依存患者の看護 6) 児童・思春期に起こりやすい精神 障害に対する看護 7) 統合失調症患者の看護(急性期・ 回復期・慢性期)	講義	16	疾病治療 学Ⅷと関 連
15 { 22	3. 精神看護の看護 過程	1) 精神科看護における情報収集の方 法 2) 精神障がい者のアセスメント① 3) 精神障がい者のアセスメント② 4) 全体像の把握・問題点の抽出 5) 看護計画の立案 6) 看護計画の評価 7) グループワークの発表	講義 演習	16	グループ ワーク、 発表
23		テスト		2	

テ	キ	ス	ト	新体系看護学全書、精神看護学①、精神看護学概論 精神保健、メヂカル フレンド社 新体系看護学全書、精神看護学②、精神障害をもつ人の看護、メヂカルフ レンド社
参	考	文	献	系統看護学講座、精神看護の基礎、精神看護学②、医学書院 系統看護学講座、別巻、精神保健福祉、医学書院 精神看護学Ⅰ・Ⅱ、精神保健学、ヌーヴェルヒロカワ 精神看護学、第1版、医学芸術新社 はじめてのヘンダーソンモデルにもとづく精神看護過程、焼山和憲、医歯 薬出版株式会社
評	価	方	法	テスト、レポート

【講義出席チェック】

回	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
日時															
出席															
回	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓							
日時															
出席															

統 合 分 野

在宅看護論

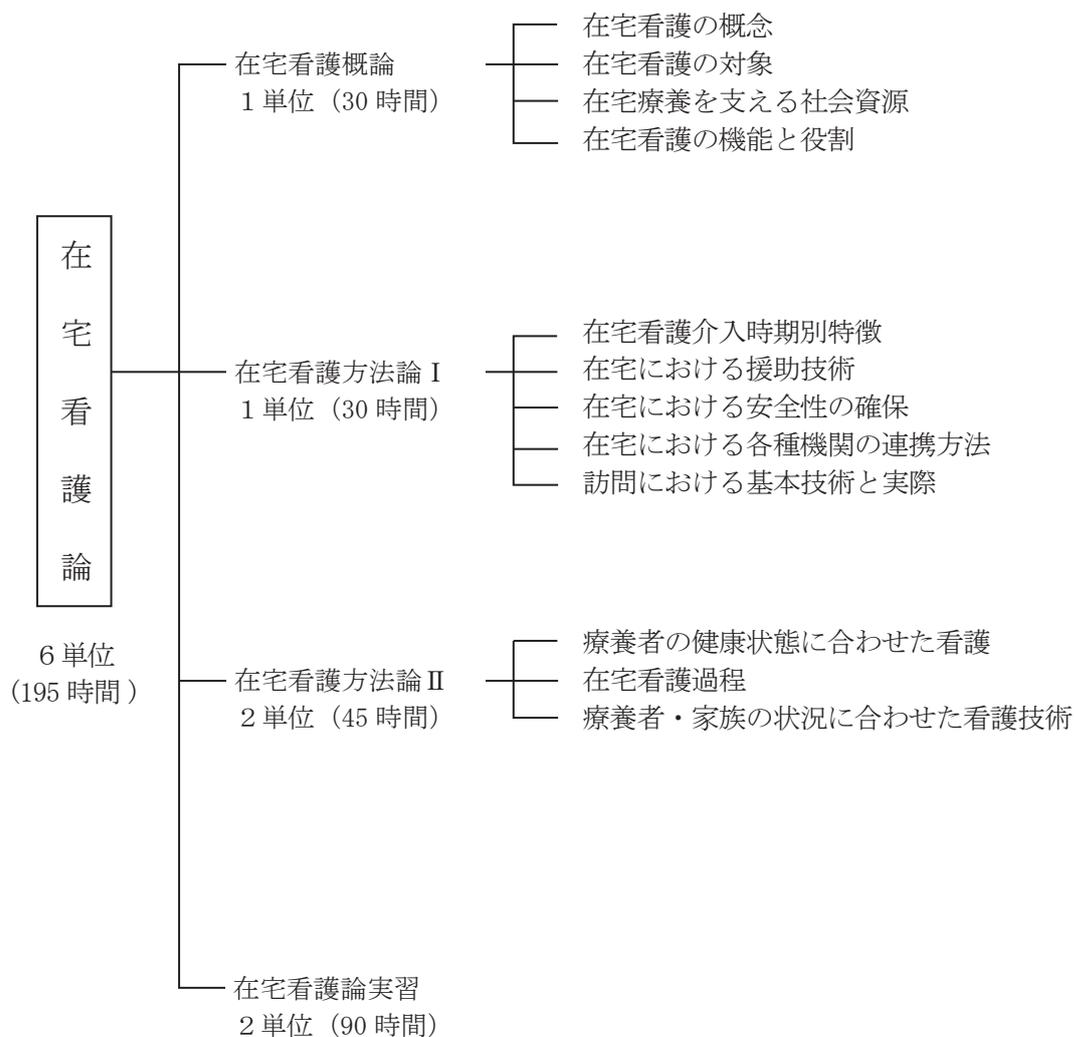
目 的

地域で生活する療養者・家族の特徴を理解し、その人らしい生活や自立を支えていくために必要な知識・技術・態度を養う。

目 標

1. 在宅療養者及び家族の価値観、自立性、独自性を尊重した人間関係形成の基礎的態度を養う。
2. 在宅看護の対象である療養者とその家族を身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解できる。
3. 様々な療養環境の中で生活している療養者・家族を支え続けていくために、在宅看護の特徴を踏まえてアセスメントし科学的根拠に基づいた看護を実践できる基礎的能力を養う。
4. 訪問看護の実際を通して保健医療福祉チームの一員としての役割を理解し、他職種との連携や協働の方法を学ぶ。
5. 一人ひとりの生活・価値観・生き方を尊重し関わる中で、共に成長発達することを学ぶ。

科目構成



科 目 名 在宅看護概論

単 位 (時 間 数) 1 単位 (30 時間)

履 修 年 次 2 年次 前期

講 義 の 概 要 在宅で療養しながら生活している対象とその家族を理解し、その人らしい生活や自立を支えていく必要性を学ぶ内容とした。

在宅看護の特徴と対象の特性を理解し、家族を含めた支援を展開できる視点を深めていく。また、療養者と家族を支えていくために必要な社会資源について学ぶ。

- 目 標
1. 在宅看護の概念や意義を理解する。
 2. 在宅看護の歴史をふまえ、現代社会における課題を把握し、在宅看護の役割を理解する。
 3. 在宅看護の対象の特性・ニーズを理解する。
 4. 在宅療養者の家族への援助の必要性と方法について理解する。
 5. 在宅療養を支える制度と社会資源について理解する。

講 義 内 容

回	単 元	学 習 内 容	授 業 形 態	時 間	備 考
1 ～ 5	1. 在宅看護の概念	1) なぜ在宅看護を学ぶのか (1) 社会の変化 (2) 家族の変化 (3) 在宅ケアニーズの変化 2) 在宅の意義 (1) 生活の場の持つ意味 (2) 在宅療養の選択 3) 在宅看護とは (1) 在宅看護の歴史 (2) 在宅看護の現状としくみ 4) 訪問看護制度	講義 演習	10	
6 ～ 8	2. 在宅看護の対象	1) 対象者の権利 (1) 個人の尊厳 (1) 自己決定への支援 2) 療養者の特徴 (1) 健康状態 (2) 発達段階 3) 家族の特徴 (1) 家族の理解 (2) 家族に関する理論 (3) 在宅での家族アセスメント	講義	6	
9 ～ 12	3. 在宅療養を支える社会資源	1) 社会資源とは 2) 高齢者を支える社会資源 3) 障害者を支える社会資源 4) 難病療養者を支える社会資源 5) 子どもの療養を支える社会資源	講義 演習	8	
13 ～	4. 在宅看護の機能と役割	1) 在宅看護における訪問看護師の役割	講義	4	

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
14		2) 継続看護と退院支援 3) 地域包括ケアシステムの構築			
15		テスト		2	

テ キ ス ト 系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院
国民衛生の動向 厚生労働統計協会

参 考 文 献 在宅看護論 実践をことばに スーヴェルヒロカワ
新版在宅看護論 木下由美子編著 医歯薬出版株式会社
新体系 看護学全書 36 在宅看護論 メヂカルフレンド社
在宅看護論 地域療養を支えるケア メディカ出版

評 価 方 法 テスト、レポート

【講義出席チェック】

回	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
日時															
出席															

科 目 名 在宅看護方法論 I

単 位 (時 間 数) 1 単位 (30 時間)

履 修 年 次 2 年次 前期～後期

講 義 の 概 要 在宅看護の中心となる訪問看護では、訪問者としての一般常識やマナー、人間関係形成のためのコミュニケーション力が必要となる。また、療養者・家族の思いや自立性を大切にして療養者・家族に合った援助方法が求められる。そこで、人間関係づくりをふまえ、在宅におけるリスクマネジメントを含めた看護技術、また関係職種との連携方法について学び、地域の中で療養者・家族を支え続けていくための援助について学習する。

- 目 標
1. 在宅での人間関係づくりの方法を理解する。
 2. 在宅における療養者への日常生活援助の方法を理解する。
 3. 在宅での感染予防、リスクマネジメントについて理解する。
 4. 在宅での関係職種との連携方法・調整的役割を理解する。

講 義 内 容

回	単 元	学 習 内 容	授 業 形 態	時 間	備 考
1	1. 在宅看護介入時期別特徴	1) 在宅での看護を展開するとは 2) 援助関係発展過程 (1) 在宅療養準備期 (退院前) (2) 在宅療養移行期 (3) 在宅療養安定期 (4) 急性増悪期 (5) 終末 (看取り) 期	講義	2	
2 ～ 8	2. 在宅における援助技術	1) 呼吸することへの援助 (1) 呼吸に関するアセスメント (2) 援助の実際 ①療養者の健康状態に合わせた呼吸の工夫 ②在宅酸素療法 ③在宅人工呼吸法 2) 食べることへの援助 (1) 食事・嚥下に関するアセスメント (2) 援助の実際 ①療養者の健康状態に合わせた食の工夫 ②在宅経管栄養法 (胃瘻、腸瘻) ③在宅中心静脈栄養法 3) 服薬への支援 (1) 服薬に関するアセスメント (2) 服薬管理の実際 ①療養者の健康状態・生活状況に合わせた服薬管理の工夫 4) 排泄への援助 (1) 排泄に関するアセスメント (2) 援助の実際 ①療養者の健康状態に合わせた排泄の工夫	講義	2 2 2 2	外来講師 外来講師 外来講師 (薬剤師) 外来講師

テキスト 系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院
 参考文献 在宅看護論 実践をことばに ニューヴェルヒロカワ
 新版在宅看護論 木下由美子編著 医歯薬出版株式会社
 新体系 看護学全書 36 在宅看護論 メヂカルフレンド社
 在宅看護論 地域療養を支えるケア メディカ出版
 在宅看護論 南江堂
 評価方法 テスト、レポート

【講義出席チェック】

回	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
日時															
出席															

科 目 名 在宅看護方法論Ⅱ

単 位 (時 間 数) 2単位 (45時間)

履 修 年 次 2年次 後期

講 義 の 概 要 在宅看護の対象となる療養者の抱えている疾患は多岐にわたり、複数の疾患や障害を持っていることも多い。それに伴い在宅でも多くの医療処置が実施されるようになった。ここでは、様々な療養環境の中で生活している療養者・家族を支えていくため必要な技術や制度について学び、療養者・家族の思いを大切に地域の中で支え続けていくための看護過程の展開方法について学ぶ。

- 目 標
1. 療養者・家族の健康状態に合わせた在宅看護の技術や制度を理解する。
 2. 在宅看護における看護過程の特徴を理解する。
 3. 療養者・家族の健康上・生活上のニーズを踏まえ総合的にアセスメントできる。

講 義 内 容

回	単 元	学習内容	授業形態	時間	備考	
1 ～ 8	1. 療養者の健康状態に合わせた看護	1) 健康の保持・増進、疾病予防の状態 (独居高齢者の地域生活・療養支援) (認知症の在宅療養生活支援)	講義	2	外来講師	
		2) 健康の急激な破綻から回復の状態 病院の退院計画から在宅療養開始への支援(脳卒中後遺症療養者の在宅療養支援)		2		
		3) 健康の慢性的な揺らぎの再調整を必要とする状態 医療依存度の高い在宅療養者の支援 (難病療養者の在宅療養生活支援) (重度障害児の在宅療養生活支援)		4		
		4) 障がいのある状態とリハビリテーションを行う状態 在宅における進行性疾患の看護 (障害者の在宅療養生活支援)		2 2		外来講師 外来講師
		5) 人生の最期のとき 終末期の療養者に対する在宅看護		4		外来講師
9 ～ 16	2. 在宅看護過程	1) 在宅看護過程展開方法 (1) 在宅看護過程の特徴 (2) 情報収集の視点 (3) アセスメント (4) 看護問題の抽出 (5) 看護計画立案 (6) 実施 (7) 評価 (8) 記録、報告 2) 事例における看護過程の展開 (1) 慢性疾患療養者の援助 (2) 難病療養者の援助 (3) 障害療養者の援助	講義 演習	2 10	外来講師 個人ワーク GW演習	

回	単 元	学習内容	授業形態	時間	備考
		(4) 末期がん療養者の援助 (5) 小児療養者の援助 ①情報収集とアセスメント ②看護問題の抽出 ③看護計画立案 ④長期目標、短期目標 ⑤支援体制図 ⑥緊急時の対応 3) 発表		4	
17 ↳ 22	3. 療養者・家族の 状況に合わせた 看護技術	1) 療養者・家族の状況に合わせた看護技術 〈演習の視点〉 ①療養者・家族の思い援助の必要性 ②安全・安楽・自立への配慮 ③介護負担の軽減 ④経済性への配慮 ⑤家庭にあるもので工夫する ⑥実施方法手順 2) 発表	演習	8 4	GW演習 技術発表 レポート グループ発表 GW
23		テスト		1	

テ キ ス ト 系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院
 参 考 文 献 在宅看護論 実践をことばに ヌーヴェルヒロカワ
 新版在宅看護論 木下由美子編著 医歯薬出版株式会社
 新体系 看護学全書 36 在宅看護論 メヂカルフレンド社
 在宅看護論 地域療養を支えるケア メディカ出版
 評 価 方 法 テスト、レポート

【講義出席チェック】

回	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
日時															
出席															
回	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓							
日時															
出席															

看護の統合と実践

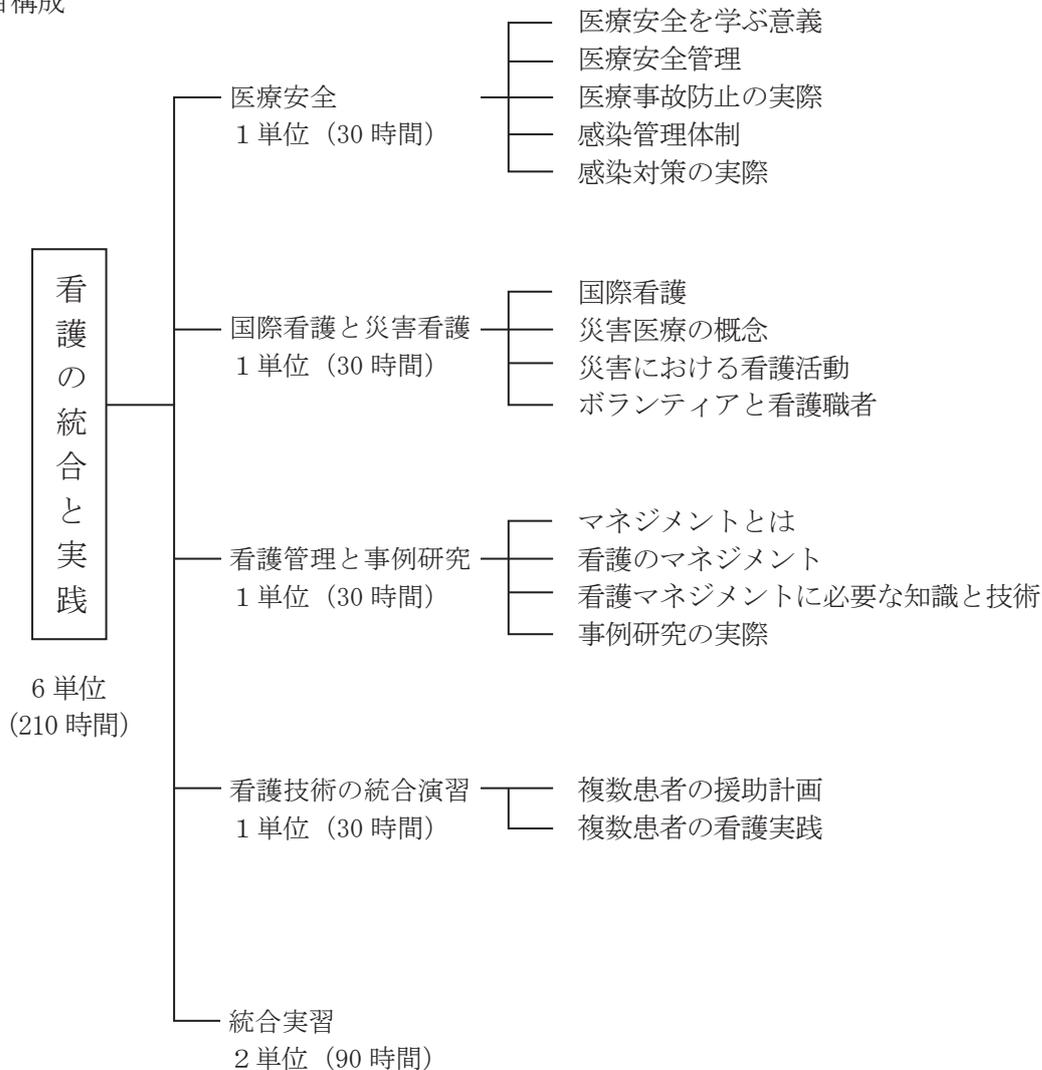
目的

医療サービス組織における看護職者の役割を理解し、既習した知識・技術を統合し、対象に応じた看護を実践する能力を養う。

目標

1. 看護の対象となる人々の尊厳を守るための看護実践能力を身につける。
2. 国際的視野を持ち、国際協力のあり方について考える基礎を理解する。
3. 各看護学で学習した知識、技術を統合し、対象に応じた看護実践できる基礎的能力を身につける。
4. 看護の対象となる人々及び他職種と協働する中で、看護を調整する基礎的能力を身につける。
5. 広い視野を持って専門職業人として学習し続ける姿勢を身につける。

科目構成



科 目 名 医療安全

単 位 (時 間 数) 1 単位 (30 時間)

履 修 年 次 3 年次 前期

講 義 の 概 要 基礎看護学方法論 I の安全を守る、感染予防を推進する技術の学びをふまえ、医療安全を学ぶ意義、医療安全管理体制の基礎的考えを理解し看護職として求められる能力を理解する。現場で起きている事故の特性と防止策などを学ぶ。さらに、対象と場の特徴から危険因子を査定し、危険を予測し、批判的に思考することや、優先度を考えて看護を実践することの重要性を学ぶ。また、療養環境は、医療従事者にとって感染リスクの高い場所であることを認識し、適切な感染管理体制と感染予防対策の基本を学習する。

- 目 標
1. 医療安全体制と感染管理体制の基本的な考えを理解する。
 2. 医療安全と感染における看護の役割を理解する。
 3. 医療事故における危険予知力を高めるための基本的な知識と技術を身につける。

講 義 内 容

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
1	1. 医療安全を学ぶ意義	1) 医療安全を学ぶ意義 (1) ヒューマンエラーの考え方 (2) 人間の3つの行動モデルと医療安全 (3) 看護業務の範囲と責任 2) 事故防止の考え方 (1) 医療事故と看護業務 (2) 看護事故の構造 (3) 看護事故防止の考え方 ・してはならないことをしない ・すべきことをする	講義	2	技術到達番号 12-1)
2 { 4	2. 医療安全管理	1) 医療安全管理体制 (1) 医療安全に関する取り組みの歴史 (2) 医療管理担当者と役割 (3) リスクマネージャーの役割 2) 医療安全管理の考え方 (1) 組織的アプローチ ① リスクマネジメントの考え方 ② システム全体としての考え方 ③ 危険予知訓練(KYT) ④ ヒヤリハットと事例の分析 ・ヒヤリハットと事例の分析の意味 ・ハインリッヒの法則 ⑤ ヒヤリハット事例の分析方法 ・RCA ・SHEL ・4M-4E方式 ⑥安全文化の醸成	講義	4	外来講師

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
		(2) 個人的アプローチ ① 自己モニタリングの重要性 ・スキルベース ・ルールベース ・ナレッジベース ② メタ認知能力の育成 3) 病院における安全管理の実際 (1) 診療の補助業務に伴う事故防止 (2) 療養上の世話における事故防止 (3) 医療安全とコミュニケーション	講義	2	
5 { 12	3. 医療事故防止実 際	1) 医療安全における看護職の責務 2) 医療事故予防の方法 3) KYTとは (1) 医療におけるKYTの目的 (2) KYTの基礎4ラウンド法 (3) KYTの進め方 4) 危険予知訓練(KYT)事故防止の 対策(KYTの基礎4ラウンド法) (1) 第1ラウンド(現状把握) (2) 第2ラウンド(本質追究) (3) 第3ラウンド(対策樹立) (4) 第4ラウンド(目標設定) 5) SBARによるコミュニケーション	講義 (オリエン テーショ ン含む) 演習	16	
13	4. 感染管理体制	1) 感染管理体制 (1) 感染対策に関する取り組み (2) 感染対策管理の必要性と考え 方 (3) 感染管理チームの役割 (4) 院内感染サーベイランス ① 目的 ② 方法(CDCガイドライン) 2) 感染予防における看護師の役割	講義	2	外来講師
14	5. 感染対策の実際	1) 感染対策 (1) 感染看護認定看護師と役割 (2) 感染と院内環境 (3) 針刺し・切傷事故防止及び発 生時の対応 (4) ワクチン接種 (5) 医療廃棄物の取り扱い 2) 院内感染防止対策の実際 ・ノロウイルス ・MRSA ・インフルエンザ	講義	2	外来講師
15		テスト		2	

テキスト 川村 春子：系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践 [2] 医療安全 医学書院 2018
 参考文献 川村 春子：医療安全ワークブック 医学書院 2018
 評価方法 テスト レポート

【講義出席チェック】

回	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
日時															
出席															

回	単元	学習内容	授業形態	時間	備考
		①災害拠点病院 ②広域災害救急医療情報システム ③災害派遣医療チーム(DMAT) ④広域医療搬送 3) 災害種類別の疾患の特徴			
11 ~ 13	3. 災害における看護活動	1) 災害のサイクルに応じた看護活動 (1) 災害サイクルとは (2) 災害サイクル別の看護活動 ①急性期・亜急性期 ②慢性期・復興期 ③静穏期・準備期 2) 災害への備えとそのシステム (1) 災害準備期の看護 (2) 災害対応にかかわる職種間・組織間連携 ①非医療従事者との連携 ②国・地方公共団体との連携 ③日本赤十字社との連携 ④防災ボランティアとの連携 3) 災害時に必要な技術 (1) トリアージの実際 ①トリアージとは ②搬送と被災者への対応 ③観察と応急処置 (2) 災害看護の実際 ①災害看護の体制 (避難所、救護所の設置・役割) ②感染予防対策 ③被災者および援助者の心理 ④心のケア	講義	6	技術到達番号 12-2 (I)
14	4. ボランティアと看護職者	1) 看護職ボランティアの活動の実際	講義	2	
15		テスト		2	

テキスト 竹下 喜久子編：系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践 [3]
 災害看護学・国際看護学 医学書院 2019

参考文献

評価方法 テスト、演習課題

【講義出席チェック】

回	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
日時															
出席															

回	単元	学習内容	授業形態	時間	備考
		2) 患者の権利の尊重 (1) インフォームドコンセント (2) 個人情報 3) ケアの安全管理 (1) 安全管理のしくみ ①安全管理のプロセス ②安全管理システム ③安全文化 (2) 看護におけるリスクマネジメント (3) 医療事故対策の実際 事例① 事例② 4) チーム医療 (1) チーム医療とは (2) チーム医療に必要な機能 (3) 看護師の責任と役割 (4) 他職種との連携 5) 看護業務の実践 (1) 日常業務のマネジメント ①看護業務 ②看護基準と看護手順 (2) クリティカルパス (3) 情報の管理			
5 6	3. 看護サービスのマネジメント	1) サービスとは 2) サービスの基本的特性 3) 看護サービスのマネジメント (1) 看護サービスを組織としてとらえる ①病院という組織の中で看護部門が占める位置 ②看護部門の組織 ③組織の職位と職務規定 4) 看護サービス提供のしくみづくり (1) 看護単位の機能と特徴 (2) 看護ケア提供システム (3) 人材のマネジメント (4) 人材フローマネジメント (5) 施設・設備環境のマネジメント (6) 物品のマネジメント 5) 組織におけるリスクマネジメント	講義	4	
7 8	4. 看護マネジメントに必要な基礎的知識	1) 組織とマネジメント (1) 組織とは (2) 組織とマネジメント ①組織目標達成のためのマネジメント ②協働のマネジメント ③情報のマネジメント	講義 演習	4	

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
		2) リーダーシップとマネジメント (1) リーダーシップの定義 (2) 特性理論 (3) 行動理論 (4) 条件適合理論 3) 組織の調整 (1) 集団 (2) 組織文化 (3) コミュニケーション (4) 動機づけ (5) パワーとエンパワーメント (6) コンフリクト (7) 変化と変革			
	5. 看護職のキャリア アマネジメント	1) キャリアとは 2) キャリアとキャリア開発 3) 看護職のキャリア形成 4) ストレスマネジメント 5) タイムマネジメント			
9		テスト		1	
10 15	6. 事例研究の実際	1) 事例研究の実際 (1) ケーススタディとは (2) ケーススタディの目的、種類、方法 (3) 倫理的配慮とは (4) 研究計画書作成の実際 ① ケーススタディの作成方法 ② 文献検索について 2) ケーススタディの実際 3) ケーススタディの発表	課題学習 演習	2 5 4	

テ キ ス ト 上泉 和子他：系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践 [1]
看護管理 医学書院 2018
志野 香おる他：系統看護学講座専門分野 I 基礎看護学 [1] 看護学
概論 医学書院 2020
坂下 玲子他：系統看護学講座 別巻 看護研究 医学書院 2021

参 考 文 献
評 価 方 法 テスト、ケースレポート

【講義出席チェック】

回	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
日時															
出席															

科 目 名 看護技術の統合演習

単 位 (時 間 数) 1 単位 (30 時間)

履 修 年 次 3 年次 前期～後期

講 義 の 概 要 卒業時の看護技術の到達は患者の状態、その場に応じた状況判断ができることが重要である。統合実習の前段階として、臨床に近い状況での看護技術の実際をシミュレーションで体験する。体験後デブリーフィングを行い知識と技術、態度を統合し、臨床現場への実践に応用させていく。実践では対象の状況に応じて、思考力を身につけ優先順位を判断し、実践していくものとする。複数患者への対応のみでなく、チームメンバーとの調整、割り込み状況への対処を含めた看護技術を安全に実施できるように協同学習を取り入れて学ぶ。

- 目 標
1. 複数患者を対象にそった情報収集を行い、優先順位を考えたケアの計画立案できる。
 2. 既習の技術を用いて対象に応じて必要な援助を安全、安楽に援助が実施できる。
 3. 計画に沿った看護実践中に起こる割り込み状況への対処ができる。
 4. 必要時、チームメンバーへの協力要請ができる。
 5. 看護実践を通して、自己の課題を明確にできる。

講 義 内 容

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
1 { 10	看護技術の統合演習I	1) オリエンテーション (1) 演習のねらい (2) 演習の進め方、留意点 (3) 事例の紹介 (4) 評価方法 2) 複数患者の援助計画立案 (1) 複数患者の看護援助に必要な情報の整理 (2) 複数患者の全体像を把握、健康問題の確認 3) 対象に応じて必要な援助を安全、安楽に実施 (1) 既習の技術を用いて援助の実践シミュレーションで実施 (2) デブリーフィングの実施 グループで実践した看護を振り返り自己の行動の裏付けとなった知識や技術を確認	講義 (オリエンテーション含む) 演習 (技術テスト含む)	2 18	領域実習前 記録用紙の整理・提出
11 { 15	看護技術の統合演習II	4) 多重課題とは何か、優先順位の考え方 5) 複数患者の優先順位を考えたケア、予測した看護の計画立案 (1) 計画に沿った看護実践中に起こる割り込み状況への対処をシミュレーションで体験 (2) チームメンバーへの協力要請	演習	2	統合実習前

回	単 元	学 習 内 容	授業形態	時間	備考
		(3) 医療安全の視点をふまえる 6) 複数患者の状況に応じた看護実践 (技術テスト) 7) まとめ 看護実践を通して、自己の課題を 明確にする	技術テスト	6 2	グループ ワーク 振り返り をレポー ト提出

テ キ ス ト 茂野香おる：系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 [2] 基礎看護
技術 I，医学書院，2021
任和子：系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 [3] 基礎看護技術
II，医学書院，2021
川村 春子：系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践 [2] 医療
安全 医学書院 2018

参 考 文 献 川村 春子：医療安全ワークブック 医学書院

評 価 方 法 レポート、技術テスト

【講義出席チェック】

回	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
日 時															
出 席															



学園章

学園章は「生命の尊重と健やかな地球の象徴」を理念としています。

デザインは、住みよい地球（外円）、緑の自然（中の若芽）、生命の科学、生命の尊重（白地）、未来（深緑色）を表し、グローバルな視点に立った新進気鋭の「人（生命）に関わる技術者」育成への願いが込められています。



伊集の花(イジュの花)

沖縄の梅雨入りの頃にヤンバルの森に白く映える。お茶の花に似ており、ほのかな甘い香りがする。イジュの清楚な白い花は人々にとっても親しまれ、琉歌にも歌われている。学名は *Schima liukuensis* で、ツバキ科ヒメツバキ属。

本学生講義要項は3年間の学修の基本を定めたものであり、学生生活に資するものです。卒業までの間大切に保管し、必要なときは必ず参照してください。

また、今後変更される部分がある場合は、変更部分を掲示板などによりお知らせいたします。

学籍番号	
氏名	